

JFA news

特集

指導者の 聞く力

西川誠太 JFA指導者養成ディレクター
指導とコミュニケーション
聞くスキルと
聞く姿勢の重要性

8 NO.460
2022.
月刊情報号



あらゆる速さで、
突き抜ける。



エックス
スピードポータル

TM & © 2022 Cartoon Network.


adidas

リオネル・メッシ

CONTENTS

特集

指導者の聞く力

- 004 **西川誠太** JFA指導者養成ダイレクター
「観察」と「よく聞くこと」それがコミュニケーションのスタート
- 007 **指導とコミュニケーション**
古沼貞雄 矢板中央高校サッカー部アドバイザー
山岸範宏 JFAアカデミー福島U-18GKコーチ
中野洋司 鹿島アントラーズつくばジュニア監督
三輪由衣 帝塚山学院大学女子サッカー部監督
- 015 **聞くスキルと聞く姿勢の重要性**
杉山佳生 (九州大学大学院人間環境学研究院 教授)

【特別企画】

- 062 **巻誠一郎**JFA復興支援委員会委員長
インタビュー

【REPORT】

- 023 「Japan's Way」を再定義
- 064 女子サッカー応援プロジェクト
「JFA Magical Field Inspired by Disney」発足

【連載】

- 046 隔月連載 **日本全国FAコーチ巡り**
神奈川県サッカー協会
「良い選手を輩出する、そしてサッカーに関わり続ける選手を増やす」
- 048 隔月連載 **日本サッカータイムスリップ**
「FIFAワールドカップへの挑戦(4)」
- 049 隔月連載 **フットサル語り場**
木暮賢一郎フットサル日本代表監督
「充実した活動の裏に綿密なプランニングあり」
- 050 隔月連載 **サッカー心育論**
中山雅雄
「サッカーとの出会いと継続」
- 052 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「心打つ120分間の戦い」

◎JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

◎JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

◎JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

【日本代表】

- 054 **SAMURAI BLUE**
EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
- 056 **なでしこジャパン**
EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
- 059 **サッカーe日本代表**
FIFAE Nations Cup 2022

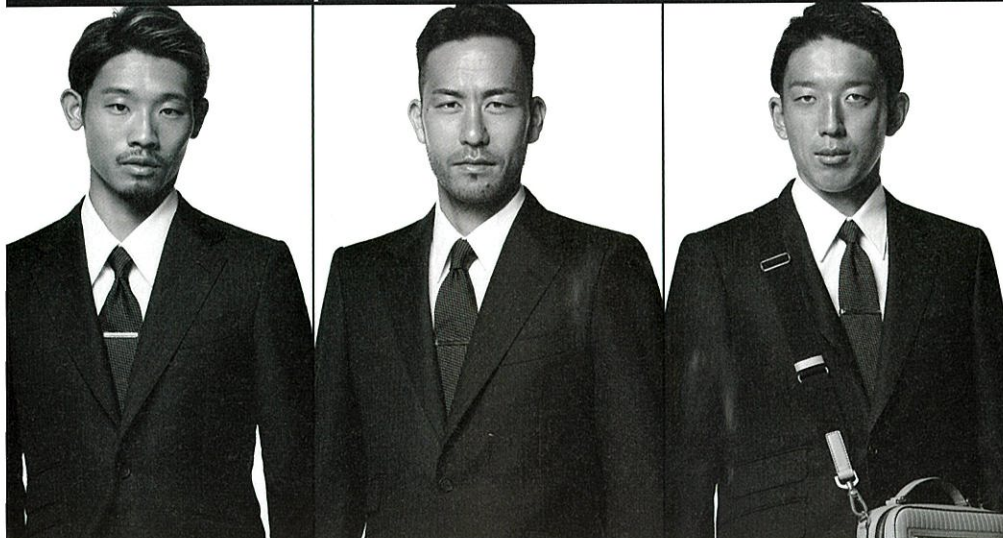
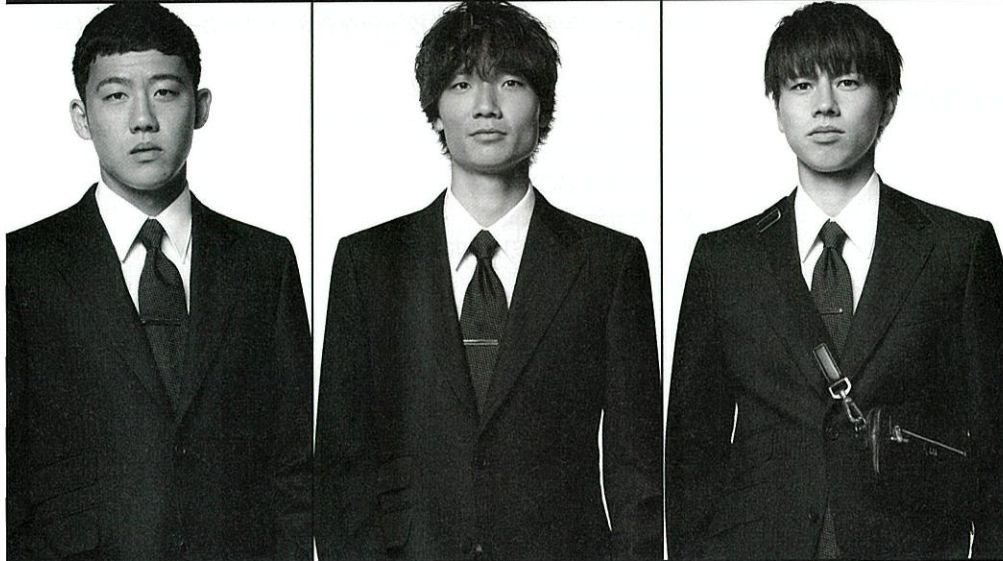
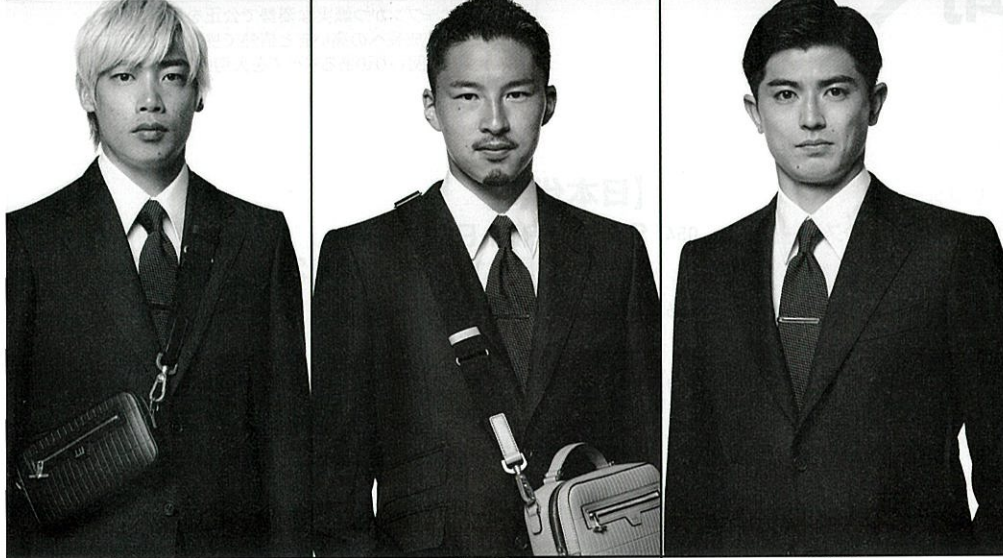
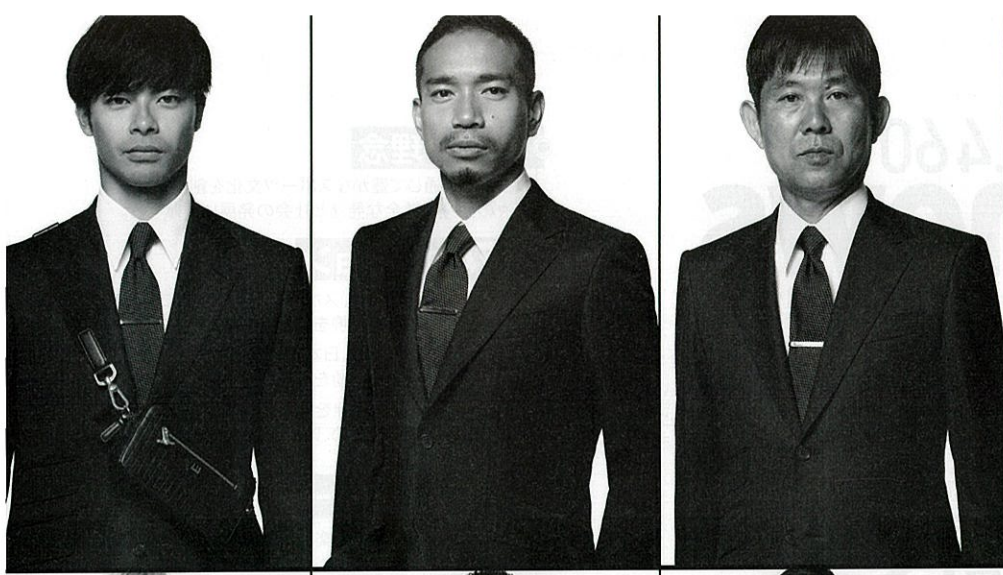
【大会・試合】

- 060 令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(男子)
- 061 令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)
- 016 日本サッカーミュージアム
- 017 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告
- 024 会議レポート
- 031 DATA BOX
- 042 蹴球通信
- 053 サッカーファミリー広場
- 068 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。



No.480
JFA
CONTENTS
指導者の

dunhill



特集

指導者の
聞く力



指導者と選手、 共に成長するために



日本サッカー界には情熱を持って選手育成に携わっている多くの指導者がいる。その指導者は選手の未来、日本サッカーの未来を担う存在でもある。一人の人間である目の前の選手を成長に導こうとすると、指導者にはこういった姿勢が求められるのだろうか。今号では指導者の「聞く力」に焦点を当て、あらためて指導者の担う役割やコミュニケーションの大切さについて考える。



西川誠太 JFA指導者養成ダイレクターインタビュー

「観察」と「よく聞くこと」

それがコミュニケーションのスタート

サッカーの指導現場に限らず、「コミュニケーションを取る上で聞く力」が大切だと言われる。指導者と選手、あるいはインストラクターと指導者など、意思の疎通を図るためにどのようなマインドで接するべきなのか。日本サッカー協会（JFA）の指導者養成ダイレクターを務める西川誠太氏に、日本の指導者養成における取り組みなどを含めて話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月28日

指導者は「四位一体」の全てで鍵となる存在

——JFA指導者養成ダイレクターに就任して約半年が経過しました。このお立場をどう捉えられていますか。

西川 今の日本サッカーの素晴らしい指導者養成があるのは、歴代のダイレクターの方々と関わってこられた多くの人々が思いを紡いできたからだと思います。まだ勉強中の身ですが、その思いを受け止め、より良いものにして次の世代につないでいかなければならないと、日々取り組んでいます。

——日本サッカーの中で、指導者はどのような存在だとお考えですか。

西川 重要な存在だと考えます。まず、サッカーを楽しみたいと思う人がいないと、指導者の出番はないですが、もし楽しみたいと思う人がいたときに、そこに指導者がいれば、よりサッカーを楽しませることができ、上達や成長のサポートもできる。そういう意味でも、サッカーの楽しさを教えられる指導者と誰もが出会える環境をつくらなくてはなりません。また、選手を手助けできる、導ける指導者である必要があります。JFA技術委員会が掲げる「四位一体（代表強化、ユース育成、指導者養成、普及）」において、その全てにまたがる、鍵となる存在であることは間違いないですね。

——そういった指導者を生み出すべく、日々まい進されているかと思いますが、日本の指導者養成の強みはどこにあるのでしょうか。

西川 各地域に協力してくれる仲間がたくさんいることは世界に誇れることだと思います。2021年の実績で、C級・D級コーチ養成講習会を担当した地域のインストラクターの数は約600人で、そのほとんどがご自身の本業やチーム活動などと兼任しながら関わってくださっています。

他国の指導者養成を調べたり、海外の方と話をしたりすると、A級コーチU-12やD級、キッズリーダーといったグラスルーツでの指導を大切にしている点も高く評価されています。プロから育成年代、



グラスルーツまで、またGKやフットサル、フイジカルと専門性に特化したコースもありますので、多くの人が能力に応じて学びの機会を得られるシステムは出来上がっているのかなと思います。

選手の状況によって伝え方は変わる

——指導者として、選手とのコミュニケーションで大切にすべきことは何だとお考えですか。

西川 「観察」と「よく聞くこと」ではないでしょうか。コミュニケーションという、話し方やその内容に目が行きがちですが、観察こそコミュニケーションのスタートだと思います。指導者自身が話したいこ

とを、指導者の言い方、タイミングで伝えたところで、選手に伝わらないケースはたくさんあります。やはり、選手が何を望んでいるのか、そもそも話を聞ける状態にあるのか、それを観察しないことには始まりません。その上で、普段の何気ない会話やあいさつも含め、選手たちが話してきてくれることをしっかりと聞くこと、それが大事です。

——選手たちが話しやすい空気をつくることも大切ですね。

西川 「この人に話をしても聞いてくれない」と選手が思ってしまったら、その選手はそれ以降、話をしにくてくれないでしょう。まずは選手が言いたいことを聞いてあげること。指導者はその姿勢があるの



か、年代に限らず選手は必ず見抜きますし、もしかしたら子どもの方がその点はより敏感かもしれません。選手の話の話を聞いていふふりをして自分が次に何を言うかを考えていたりすることは案外ありがちだと思えますが、そうになると、大事なサインを見逃してしまうこともあるでしょう。

——選手に対してオープンマインドでいることも必要でしょうか。

西川 重要なことです。でも、何でもかんでも気軽に話しかけてバカ話もできるような関係が良いかと言われると、そういうことではないんですよね。それで選手の信頼をつかめるということではないと思います。良い、悪いの基準をぶらさずに、どの選手に対して公平・公正に接することが大切だと思います。

——よく観察していれば、そういったコミュニケーションのポイントも分かってくるのでしょうか。

西川 僕はそう思いますね。もちろん、何が正解なのかは簡単に分かるものではありませんが、少なくともこれまで出会った選手たちから多くのことを学ばせてもらいました。同じ言葉でも、スツと入っていく選手もいれば、飲み込みに時間がかかる選手もいます。あるいは同じ選手でも、タイミングによって入っていくとき、入っていかないとき



「日本サッカーのさまざまなハスウェイの中で、その橋渡し役やけん引する立場として指導者の担う役割は大きい」と西川ダイレクターは話す

うそや偽りが無い情熱が 選手の心を動かす

——「聞く」ためには、選手の言葉を引き出す能力も求められると思います。

西川 オープンクエスチョンで、あまりに大きくくりで質問をしてみると思います。もし答えられないのではないのなら、的を絞った質問によって選手の頭も整理できると思いますよね。

サッカーでは、常に状況を把握し、分析や予測をし、判断して実行するというサイクルがあります。人間の思考はおそらくもつと複雑ですが、指導者養成では「状況把握」「判

断」「実行」の3段階で整理していきます。その中でどこに修正すべきポイントがあるのか。それをベースに質問や問い掛けをすると効果的だと思います。

——これまでの指導経験の中で、選手に寄り添うことでその関係性が変わっていった、良くなっていた事例などがあれば教えてください。

西川 僕が指導者として活動し始めた頃は、自分よりもサッカーが上手な選手たちに教える立場だったんです。そのため、どうすれば選手が自分の話やアドバイスを聞いてくれるのかを常に考えていました。例えば選手のためになりそうな映像を集めて見せたり、プレー映像を見ながら一緒に話をする中で、徐々に信頼を築けていったという経験があります。

結局は、「選手・チームのために」という思いが大事なのだと思います。その選手のために何ができるのかを常に考える。そこにうそや偽りがなければ、選手は変わっていくし、選手との関係も良くなっていくと思います。若い頃は、「勝つてやろう」という思いが強く、選手に対して偉ぶってしまう時期もありました。情熱が違う方向にいつてしまうと、あまりうまくいかなかったですね。

——情熱を持って選手に寄り添うべきであると。

西川 その点で言うと、最初の現場ではプロを目指す選手たちを指導していましたが、次の現場は真逆で、カテゴリーは同じなのですが、夜中にアルバイトをしながら学費を稼いでサッカーをしているような学生が対象でした。そういう選手たちに、サッカーを第一に考えなさいとか、最初の現場で伝えていたようなことを、同じようには言えないわけです。

——状況が変わると手法も変わるということですか。

西川 そうです。彼らには彼らの生活があり、それでもサッカーがやりたいからやっている。彼らも真剣にサッカーに取り組んでいることが段々と分かったのです。だからこそ選手に合ったサポートをしていかなければいけないのだと学びました。

——指導者は常に学び続け、かつ試行錯誤を繰り返していくことが大事なのですね。

西川 この方法で成功したと思うことがあっても、シーズンが変われば同じように成功できるというわけではありません。逆に失敗した例が、その次の成功を導いてくれたこともある。「これが答えだ」「分かった」と思ってしまったら置いて

いかれます。日々勉強ですね。

指導者も選手と同じく クリエイティブでたくましく

——日本の指導者養成についてお聞きします。指導者養成講習会ではどのようなことを大事にされていますか。

西川 参加者を中心に、という考え方で進めています。参加者同士、また参加者とインストラクター（講師）が双方方向の関係で学べる場をつくり、そして実際の現場で生かせること、必要な知識を得られるようにすることを重視しています。

——講習会自体、「知識伝達型」から「問題解決型」に移行しているのは大きなトピックだと思います。

オン・ザ・ピッチはもちろん、オフ・ザ・ピッチでの状況も踏まえて、それぞれの選手に応じた形で指導者が寄り添っていくべきだ





指導者養成講習会では、参加者それぞれの経験を基にみんなでレベルアップを目指す場となっている

西川 その目的を一言で言えば、「新しい景色を見るため」です。前提として、知識伝達型が悪いわけではありません。日本サッカーの歴史の中で、圧倒的に講習会の数を増やさなければならぬ時期があり、そのときは、一定のクオリティを備えた指導者を数多く生み出すために知識伝達が必要なスタイルだったのだと思います。それを進められたからこそ、FIFAワールドカップに連続出場できている今の日本があります。

しかし、ワールドカップベスト16の壁を破ってトロフィーを掲げようという中で、これまでと同じことをやってはいけません。講習会で全ての参加者がそれぞれのサッカー観や考えていることをぶつけ合い、化学反応を起こしながらより良いもの、熱を帯びたものにしていきたいと考えました。

——日本サッカーがさらに上に行くために必要なことであると。

西川 当然、サッカー指導の基礎となるC級やD級では、まずは知識を伝達しなければならぬ部分もあります。ですが、選手に対して「クリエイティブでたくましく」と言うのなら、指導者もそうでなければいけない。指導者が答えを求めようとする講習会ではなく、自分でクリエイティブして決断したことを思い切って表現して、それに対して他の指導者も「私はこう思う」とアドバイスや意見をガンガン出し合って改善していく。誰かのコピーではなくて、自分の決断に自分で深みをつけていく。そうした講習会にしていけないと、トロフィーを掲げることはできないと思っています。これまでの流れがあったからこそ、次のステージに進んでいる、ということですね。

——インストラクターが担う役割も大きくなっていきます。

西川 インストラクターの方々はそれぞれ本業があったり、自分のチームの活動があったりする中で協力してくださっている。感謝しがあります。各地域のインストラクターが「私たちの責任は重大だね」と言ってくださって、本当にうれしかったです。問題解決型ではない。その中で参加者を導いて

いかならないといけないわけですから、インストラクターの力量が前面に出てくると思っています。その重大さを感じ取ってくださる方々がたくさんいるのは喜ばしいことですし、一緒に高い志を持って取り組んでいきたいと思います。

——スタイルを変えてからの参加者の反応はいかがですか。

西川 うれしい反響が多いですよ。先日、中村憲剛さんと話したら、彼は昨年B級を取得したのですが、受講する前は「講習会では答えみないものがあり、それを教えられる場」と聞いていたようで、申し訳ないがそれならつまらないだろうなと思っていたそうです。

でも実際の講習会はまったくそうではなかったと。自分のアイデアが尊重され、グループで意見を出し合いながらつくり上げ、それに對してアドバイスをもらえたりする。講習会を受けて、純粹に楽しかったと言ってくれたんです。現役の選手はみんなここに來るべきだとも言っていました。今年はA級を受講されていて、さらに楽しんでますよ。

——講習会は「楽しい学びの場である」ということですね。

西川 そうです。特に近年は、各都道府県サッカー協会（FA）に技術担当専任者であるFAコーチが

配置されてきていますので、講習会の質をグッと高めるチャンスだと思っています。JFAから最低限のものは提供しつつ、参加者の実力や習熟度、地域の実情に応じてカスタマイズしながらプラスアルファを積み上げていくことも可能になります。加えて、日本のどこでも、自分の生活圏に近いところでB級まで受講できる環境を整えること、それを今進めているところです。

——多くの人々に門戸は開かれていると。

西川 D級やC級では自分の子どもがサッカーを始めたからライセンスを取りに来たという方も多く、2020年に内容を改訂した際、「これはお父さん、お母さんでも本当にできるの？」といった議論もありました。サッカーの経験がなくても、子育てや、職場で部下に何かを教える、上司や得意先との関係性を築くなど、コーチングする機会は誰にでもありますし、根本は同じだと思います。講習会ではそうした経験も必ず生きますし、それを生かしながらサッカーを学ぶことができます。サッカー経験者と未経験者が一緒に学ぶことは、新たな価値観やアイデアの創造にもつながると思います。

——最後に、全国の指導者や読者へメッセージをお願いします。

西川 指導者養成に協力してください。胸を張ってわれわれの誇りと伝えることです。「日本はすごいことをやっている」と、皆さんと共に世界に誇れる指導者養成の体制にしていくことで、関係者の笑顔を増やすことになり、その先目標であるワールドカップを掲げることにつながっていくはずですよ。

ぜひ一緒に、日本サッカーの環境をより良くしていければと思います。われわれJFAや地域のインストラクターの皆さんで、指導者養成講習会に行つて良かった、楽しく学べたと思ってもらえるようにしていきたいと思っていますので、まだ足を踏み入れていない方はぜひご参加ください。お待ちしております。



リフレッシュ研修会や、指導実践型のスキルアップ研修会など、ライセンスを取得した指導者が継続して学び続けられる環境も整備している

いつの時代も追求すべきものがある

サッカーに走力は必須
動き回って汗をかけ

——サッカーの指導者として、大切にしていることを教えてください。

古沼 帝京高校の指導者時代から大事にしてきたのは、「技術」「戦術」「走り」の基本です。技術の話をする時、キック、トラップ、ヘディングの基礎を徹底して教えました。どこまでこだわるかがポイントです。インサイドのパスを一つ取ってもそう。それこそ、同じパスを同じ場所へ100回成功するまで繰り返しやらせることもあります。「止めて・蹴る」の重要性は時代が移り変わっても変わらないものです。

——では、戦術の基本練習はどのようなことをしていたのですか。

古沼 もともと私はサッカーの素人でした。当時、難しい戦術を教えると言われても、よく分からなくてね。1960年代、帝京高校のサッカー部は狭いグラウンドで練習していました。当然、できる

メニューは限られます。その中で重視したのは、シュート練習です。トータルで3時間あれば、そのうち2時間は、グラウンドに四つ、五つのゴールを置いて、シュートを意識した練習に費やしました。ゴール前のプレーを想定した1対1から始まり、6対6まで人数を増やして、シュートに持ち込む形をつくっていました。ハーフコートより少し狭いピッチでの4対4は、私の定番メニューです。帝京を定年退職した後、青森山田高校、流通経済大学附属柏高校、帝京長岡高校、滝川第二高校などに特別コーチとして呼ばれましたが、そのときもこのメニューを実践しました。その昔、岡田武史元日本代表監督にもこの練習方法を書いて渡したことがあったかな。選手たちに意識させたのは、ゴールに向かうこと。練習ではあえて難しい設定にして、選手たちに考えさせました。

——練習中、選手たちの話を聞くことはありましたか。

古沼 選手たちにはよく問いかけました。滝川第二高校でワンタツチの制限を設けて練習していると

きでした。決まったルール通りにプレーしない選手がいたので、その理由を聞きました。その選手は「今のボールをダイレクトで返すのは無理です」と答えたのですが、私は「どうしてなのか？」と言いました。はじめから考えずにほかのプレーを選択するのではなく、ワンタツチでパスを返せるように工夫しなければなりません。だから、「自分で考えてほしい」と言いました。できないからといって設定を簡単にすると、それ以上の成長はありません。

練習試合でも、選手には意識を高く持ってプレーさせていました。高校年代のトップレベルであったとしても、より高い水準のプレーを求めました。取り組む姿勢を評価しつつ、厳しくするところは厳しくする。それは、走りの練習も同じです。ただ走らせていたわけではありません。

——「走り」の基本については、どのような指導をしてきたのでしょうか。

古沼 まず走るフォームです。私はサッカーの指導に携わる前は、

古沼貞雄さん

(矢板中央高校サッカー部アドバイザー)

高校サッカー界屈指の名伯楽だ。1970年代以降、帝京高校を強豪に仕立て上げ、全国高校サッカー選手権大会で史上最多タイとなる6度の優勝に導いた。80歳を過ぎた今もなお、指導者として育成の現場に立つ古沼貞雄さんに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月14日



陸上競技をしていたので、走り方にはこだわっていました。短距離、中距離、長距離では走り方が異なります。サッカーにも通じるものがあり、練習メニューに取り入れていました。とはいえ、マラソン選手を育てるわけではありませんから、工夫しましたよ。スプリント力をつけるダッシュにしても、直線だけで走るのではなく、「8の字」を描くように走るとかね。サッカーにおいて走力は必須です。練習でも試合中でも、ピッチで突っ立っている選手が大嫌いなんですよ。とにかく「動き回って汗をかけ」と。ボールを扱いながらも走力は鍛えることができます。「今どこパス」は私の口癖でした。今、どこが空いているのか必ず見るようにしよう、と。ドイツ人のデットマール・クラマーさんもよく言っていました。が、「パス・アンド・ゴー」はサッカーの基本。パスを出したら終わりではなく、次のパスコースをつくるために動かなければなりません。

前7時までは朝食の前に「メシ前リーグ」を行います。試合は30分1本。勝ったチームから宿に戻り、朝食の準備を手伝うのです。朝食が終わったら9時半から11時半まで練習です。昼食後、少し休んで午後2時から夕方6時半までは学年対抗のリーグ戦を実施しました。雨が降り、グラウンドが使用できないときは、走りのメニューが中心になります。帝京高校の合宿地、菅平（長野県）で名物だったのは、マラソンとほぼ同じ距離を走る42km走です。途中で水分をしっかりと取らせ、体調面に気を使いながらでしたが、下り20km→上り5km→下り5km→上り10kmと上り下りが激しかったので、世界一過酷なコースだと思えます。浦和レッズ、アルビレックス新潟で活躍した田中達也は、4時間弱で走ったかな。特に3年生のときは「最後なので完走できるように頑張りたい」と気合を入れていました。強豪と呼ばれていたころの帝京は誰もが走力を備えていました。そこには疑いの余地がありません。

古沼 昔のように叱咤（しつた）するようなことはほとんどありません。選手がミスしても何も言いません。ただし、雰囲気は締まっていなないと感じるときは、「サッカーの基本は何だ？」と問いかけます。選手たちは「球際です」と答えるんですが、練習だからといって手を抜いたら試合で通用しません。競り合いではボールをしっかりと見て、相手に体を寄せなければならぬ。試合はもちろん、練習から激しく戦うことが不可欠です。思い出したことがあります。帝京時代に初めてドイツ遠征したとき、現地のドイツ人指導者に「帝京の選手たちはボール扱いがうまいけれど、それだけでは勝てないよ」と言われたんです。これが真理です。サッカーは球遊びではありません。ボールを奪うか、奪われるか、点を奪うか、奪われるか。いつの時代もそこを追求していくべきだと思っています。

古沼 いろいろありますが、一つは選手たちのやる気を引き出すこと。そして、その気にさせるには、情熱を持って選手たちと接することです。親交のあったイビチャ・オシム監督（故人）は、まさにそういう指導者でした。あれほどサッカーを愛し、選手たちと向き合う時間を惜しまなかった指導者を私は知りません。

古沼 人間として信頼され、リスクとされる存在であってほしいと思います。走りの練習でも「この監督が言うのだから走ろう」と思ってもらえるくらいに。技術論、戦術論を身につけることも重要ですが、人間力を磨くことはもっと大事で、選手からの人望がない監督やコーチは良い結果を出せませんし、優秀な選手を育てることもできません。サッカーは人生そのものです。自分だけが幸せになろうとか、自分さえよければいいという考えではうまくいかないでしょう。「年寄りが何を言っているんだ」と笑われるかもしれませんが、私には「時代遅れの男でありたい」というポリシーがあるので、いつまでも言い続けますよ。

古沼 私が監督をしていたころのサッカーの合宿は、今では考えられないほど過酷でした。練習は朝5時から始まります。100人くらいの部員を5チームに分け、午

現在、矢板中央高校サッカー部のアドバイザーを務められています。選手たちにはどのように接

技術論や戦術論より
人間力を磨くことが大事

育成年代の指導者に大事な素養とは何でしょうか。

古沼 いろいろありますが、一つは選手たちのやる気を引き出すこと。そして、その気にさせるには、情熱を持って選手たちと接することです。親交のあったイビチャ・



30年以上、日誌を書き続け気になった記事をスクラップしている。指導者たる者、学ぶ姿勢を忘れてはならないと語る



一方的に押し付けるのではなく、 選手に気づかせることが大切

GKの安定は
チームの安定につながる

——指導者に必要なコミュニケーション能力とはどのようなものだと考えていますか。

山岸 まだまだ勉強中の身ですが、プロ選手として18シーズンを過ごした中で、多くのGKコーチの指導を受けました。現役時代に自分が感じたもの、コーチに掛けられた言葉などは今も心に残っています。それをベースにして、絶対に譲ってはいけない部分を確立させています。ただ、選手全員が同じ精神的強さを持っているわけではないので、個々の性格やその時の心情などにも配慮しています。トレーニング中は厳しい言葉を掛けたりもしますが、試合が終わった後には映像を一緒に見ながらプレーを振り返り、選手に寄り添う時間を大切にしています。アメとムチ、と言うと語弊があるかもしれませんが

が、絶対に譲ってはいけない部分と寄り添う部分を使い分けるようにしています。

——指導者から伝える一方で、選手の話聞くこともありますか。

山岸 選手から指導者に質問や要望をするのは、少し勇気のいることだと思います。私はセットプレーのオーガナイズも任されているのですが、セットプレーは攻守ともに約束事が非常に多いので、1回の指導では全選手には浸透しません。ですから、「分からないことがあったら必ず聞きに来てね」分からないままプレーしているとチームにも迷惑を掛けるし、分からないままにしておく方が恥ずかしいよ」という話をしています。聞きに来てくれればまずはそのことを褒めますし、「分からなかったらまた聞きに来てよ」と伝えています。

JFAアカデミー福島U-18では

高校2年生のオフ・ザ・ピッチの学年担当もしていて、3カ月に1回の個人面談を実施しています。シーズンの成果や課題に加え、高校2年生なので進路のことにもフォーカスしなければなりません。プロや大学、海外などそれぞれの希望を聞き、そのためにはどういう準備をすべきかを伝えるようにしていますし、私への質問があるかどうかも尋ねます。現役時代の経験について聞いてくる選手、他の選手がいる前では言いにくいことを聞いてくる選手もいます。

——普段の指導で気をつけていること、ポリシーなどがあれば教えてください。

山岸 GKのトレーニングは、楽しみながらやるという点ではなかなか難しい部分があります。やはりゴールを守ることは勝利に直結しますし、GKの安定はチームの安定につながります

山岸 範宏

(JFAアカデミー福島U-18)

2018年に選手生活にピリオドを打ち、翌年からJFAアカデミー福島でGKコーチを務める山岸範宏氏。かつてフィロドプレーヤー顔負けのヘディングシュートを決めてチームのピンチを救い、「山の神」と称えられた。その守護神に、選手と指導者におけるコミュニケーションの重要性を聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月22日

で、日々、選手に対しては、堅実なプレーを確実に、簡単なことほど丁寧にする、という私自身の現役時代の信念を伝えていきます。

——プレーが安定するには技術面に加えてメンタル面も大きく影響しますね。

山岸 GKが不安を抱えたままピッチに立っていると、なぜかそれがフィールドプレーヤーの10人に伝播してしまうんですね。私が理想としているのは、フィールドプレーヤーに対し、俺たちの後ろにはあいつがいるから絶対に大丈夫だ、と思わせられるGKです。そのためには、思い通りにいかなかったときに次にどういう振る舞いができるか、どういうメンタルの整理ができるかが大切です。私はよく選手に対して「前のプレーがうまくいかなかったからといって、次のプレーもうまくいかないなんて誰が決めたの？」と言います。GKのミスが失点につながったとしても、次も同じミスをするとは限りませんし、今まで積み上げてきたものが崩れるわけでもありません。反省するのはピッチを出た後。プレー中は次にどうするべきかを常に考えるべきだということを伝えていきます。

厳しいライバル関係も価値のある経験に

——これまで指導してきた中で、コミュニケーションにおける失敗談や成功体験があれば教えてください。

山岸 失敗談としては、高校生でまだ成長段階の選手に対して、自分自身の経験、プロ時代の基準を押しつけて過ぎてハードルの高い要求をしてしまったことがあります。これを反省してその選手に寄り添い、かみ砕いて伝えるようにしました。厳しいことを求めるだけでなく、成長や上達できたことを認めて褒めるようにしたことで、伸び伸びとプレーするようになり、笑顔も増えていきました。私自身にとつて勉強になった事例の一つです。

——現役時代に指導を受けた方で、コミュニケーションが上手な指導者や参考になっている人はいますか。

山岸 浦和レッズ時代、土田尚史GKコーチ（現、スポーツディレクター）に長くお世話になったのですが、土田さんの人間的な熱さや器の大きさは、私が選手とコミュニケーションを取る上で大きく参考にさせていただいていま

す。現役時代から土田さんみたいなコーチになりたいと思っていました。

——具体的には、こういった部分を参考にされているのでしょうか。

山岸 私の浦和時代は都築龍太（元日本代表GK）と8シーズンにわたってライバル関係にあり、シーズンによって交互にレギュラーを務める状況が続いていました。当時は都築に対して、浦和の守護神という一つしかない席を巡るバチバチとしたライバル意識がありました。プロのGKとしては健全なことだと思うのですが、土田さんにとってはすごく難しかったと思います。その時の土田さんのわれわれに対する接し方を参考に、私は試合に出ているGKには少し厳しめに、手綱を締めながら関わるようにし、試合に出場するチャンスが少ないGKに対してはお尻を叩きながら寄り添い、盛り上げながら接するようにしています。

——そういったライバル関係を経験しているからこそ、伝えられることも多いと思います。

山岸 常にポジティブな気持ちでいるのは難しいことで、時には

苦しさを味わいますし、複雑な気持ちを抱えながらやってきたこともありました。ただ、自分が指導者になってみて、それも価値のある経験だったと思えるようになりました。

——そういった経験を伝えつつ、選手の話聞く機会をつくっていくことも指導者として大切なことだと思います。

山岸 指導者から選手への一方通行になってしまふと、どうしても指導者の押し付け感が強くなってしまいますからね。オン・ザ・ピッチの指導でも、指導者から教えること、提示すること、もちろん必要ですが、選手に気づかせ、学ばせることの方が大切だと思います。なるべく一方通行の指導にならないよう気を付けています。

——選手が指導者から学び、指導者も選手から学べる状態が理想ですね。

山岸 私自身、指導者として4年目の駆け出しですし、今のままでいい

と思ったり、慢心してしまったりしたら後退してしまいます。選手からいろいろな情報を得たいと思っています。指導者間やリーグ、海外、代表など、各方面にアンテナを張って情報をブラッシュアップすることも、指導者として成長していく上では絶対に必要です。指導者として成長できるよう、貪欲に活動していきたいと思っています。



昨年の高円宮杯プレミアリーグプレーオフを勝ち抜いたJFAアカデミー福島。PK戦でのGKの活躍も光った



指導とコミュニケーション

中野 洋司 監督

(鹿島アントラーズつくばジュニア)

鹿島アントラーズで育成年代の指導にあたる中野洋司監督は、今年から鹿島アントラーズつくばジュニアの監督に就任。チームを率いて間もなく行われたJFA全農チビリンピック2022で日本一に導いた。プロサッカー選手を目指すジュニア(U-12)チームを指導する中野監督に、指導する上で気をつけていることやコミュニケーションの大切さなどを聞いた。

○オンライン取材日は2022年7月22日

よく話し合うことで 選手の個性や考えを尊重できる

コミュニケーションは
メリハリも大事

——普段の指導で気をつけていることやポリシーを教えてください。

中野 選手たちがサッカーに真剣に取り組んでいるかどうかを常に気にするようにしています。練習に来たときの選手の表情や様子、今日はどういう気持ちで来たのか、うまく練習に入れそうかなど、メンタル的な部分の確認ですね。現在は鹿島アントラーズつくばジュニアで小学生を指導していますが、その世代はメンタルの浮き沈みによってパフォーマンスが大きく変わります。ジュニアユース(U-15)年代になると成長期、思春期に入ってくるので、なかなか感情が表に出てこない部分もあるのですが、ジュニア年代は感情が出やすく、より素直な反応が出てくるので、そこをしっかりと見極めて話をし

たり、問い掛けたりするようにしています。

——指導者に必要なコミュニケーション能力とはどのようなものだとお考えですか。

中野 指導ですのでこちらから指示することも必要ですが、選手の考えやアイデアを引き出すことも大切だと思っています。プレーに関しては「これをやりなさい」というのではなく「何かアイデアはないか?」とか「今のプレー以外に選択肢はなかったか?」という感じで会話をすること、基本的には、選手のアイデアや意見を否定せず、尊重するようにしています。文句ばかり言ってプレーに関与していないときには強く要求したりすることもありますが、選手が自主的に考えて動いたものに関しては、その選手の考えなので否定しないようにしています。

——指導者と選手、大人と子ども

もという立場を超えて円滑にコミュニケーションを取るために工夫していることはありますか。

中野 これまでジュニアユースやジュニアの選手を指導してきた中で、「監督」という像を押しつけ過ぎると選手が本音を言わなくなる傾向があることが分かりました。ジュニア年代を指導するようになってからは、事あるごとに会話をしよう心掛けています。サッカー以外の何気ない場面で話をしたり、集まったときに冗談を言ったりすると、選手から話をしてくれるようになりま。もちろんチームマネジメントとして真剣な話をすることもありますが、しっかりとやるべきところにつけながら接するようになっています。それがうまくいっているときは選手たちも素直に話をしてくれます。

——ジュニア年代の選手たちは、

自分が言いたいことをうまく伝えられないことも多いと思います。そこをうまく引き出すために実践していることはありますか。

中野 アントラーズの育成組織なのでプロを目指す選手たちが集まっているのですが、プロになるには自分を表現できるようにならないといけないよ、ということとは伝えていきます。プレーの中で話す習慣、伝える習慣は、上に行くためには必要不可欠なことですからね。自分の意思や意見を伝えることで責任も出てくると思いますし、人間として成長するためにも、伝える力をつけることを求めています。

言葉一つで選手の人生が変わる可能性も

——選手たちから意見を聞いた場合、実際のトレーニングや試合ではどのように、どの程度まで反映させているのでしょうか。

中野 普段は対人形式の練習が多いのですが、その中で「今のパスはどういう意味があったか?」とか「今のトラップはどうだった?」といった声掛けをしながら選手の意見を聞き、次のトレーニングでもう一度、同じシチュエー

ションをつくって、そのときどんなプレーを選択するのか確認するなど、選手の間を参考にしながら進めています。試合の際も、例えばうまくターンできなかったときには「どこがうまくいかなかった?」と問い掛け、「ボールの置きどころが悪かったです」という答えが返ってきた場合には、次のトレーニングでターンの練習を取り入れることなどもしています。

——コーチングスタッフ同士や保護者の方とのコミュニケーションを取る際に心掛けていることはありますか。

中野 保護者との距離は遠過ぎても近過ぎてうまくいきません。ただ、信頼を得るためにはいろいろな話をしていかなければならない。私は以前、保護者の方と距離を置いて失敗した経験がありますので、積極的に、というほどではないのですが、選手の話とだけでなく、サッカー以外の話も機会があればするようにしています。コーチングスタッフ同士

はもちろん常に会話をしていますし、スクールつくば校やつくばジュニアユースのスタッフも同じオフィスですので、スクールからジュニアが上がってきそうな選手、ジュニアからジュニアユース

に上がる選手の情報や近況など、コーチ間のコミュニケーションは綿密に行っています。

——これまで指導してきた中で、コミュニケーションにおける失敗談や成功体験があれば教えてください。

中野 ジュニアユースでコーチを2年間務めた後に監督になったのですが、選手に自分の考えを押しつけてしまった結果、選手の良さが出なくなり、結果として関東1部から2部に降格してしまいました。なんとか勝たせてあげたいという気持ちが強くて、選手たちにごく窮屈な思いをさせてしまいました。その後、ジュニア年代を見るようになってからは選手とよく話すようにして、チームの決まり事を守りながら彼らの個性を生かし、考えを尊重する形でやってきたことで良い結果が出るようになってきました。

——育成年代の選手と関わることの魅力を教えてください。

中野 育成年代の選手たちは成長が非常に速いんです。ですから、3カ月から半年ほどで大きく変わっていく姿を間近で見られることが、楽しさや喜びです。

サッカーはもちろん、人間的な成長を見られるのがうれしいですね。試合の中で自分の良さを出し、勝利に向かってチームがまとまっていく様子を見ると、やっぱり育成はいいな、と感じます。特に、ジュニア年代の場合、指導者の影響が大きくなります。選手はよく覚えていきますし、それを忠実に実践しようとするので、選手の年齢が下がれば下がるほど声掛けの部分は気を使わなければならぬと思います。良くも悪くも指導者の言葉一つで選手の人生が変わる可能性もあることを肝に銘じておかなければなりません。

——選手をどのように成長させていきたいとお考えですか。

中野 それぞれに良いところがあるので、その部分を伸ばして成長させてあげたいですね。そ



選手をリスペクトし続ける

三輪 由衣 監督

(帝塚山学院大学女子サッカー部)



大学まで選手としてサッカーをプレーし、大学院生になって母校の筑波大学女子サッカー部で指導を始めた。JFAアカデミー堺でコーチを務めた後、2020年4月に創部された帝塚山学院大学女子サッカー部で指揮を執る三輪由衣監督。自身も指導者として成長しながら選手と共に歩む三輪監督に、指導者として大切にしていることを聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月28日

選手を観察して
一人一人に接する

——三輪さんが指導者の道に進まれた理由をお聞かせください。

三輪 きっかけは高校時代にあります。鹿児島県の鳳凰高校で寮生活を送りながらサッカーをしていて、全国大会に出場し、年代別の日本女子代表にも呼んでもらいました。そのときに、当時のトップレベルの世界に導いてくださった恩師と同じ道を歩みたいと思い、高校生のおときには指導者になろうと決めていました。筑波大学に進学したのも、指導者の勉強をしたいと思ったからです。

——恩師について？

三輪 高校の嶋田正照先生と、U-18日本女子代表で監督だった今泉守正さんです。嶋田先生には人として成長させてもらい、サッカーの楽しさを教えていただきました。今泉さんは、頑張ることしか知らなかった私に丁寧な指導してくださり、サッカーの奥深さを教えてくださいました。

——筑波大学では大学院2年生でコーチになり、大学院卒業後は監督として2年間、女子サッカー部を指導されました。指導する楽しさや難しさについてはいかがでしたか。

三輪 当時を思い返すと恥ずかしい気持ちでいっぱいです。というのも、指導の知識やノウハウがなさすぎて、自分の経験でしか選手に伝えられなかったんです。それをごまかすために高圧的になっていた部分もありました。それでも、選手たちは後輩でもあったのでピッチ内外で距離感は近く、同じ目標に向かってみて何かを成し遂げる充実感はすばらしいものでした。

——監督2年目で全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)準優勝も挙げました。

三輪 実は大学院を卒業するタイミングでチームを離れようと考えていました。外に出て勉強した方がいいと。でも選手が「まだ倒していませんよ」と言ってくれたんです。私には大学時代、勝ちたいチームがあって、それがモチベーション

の一つでした。そのことを選手が知ってくれていた。それで続けようと思った。インカレ決勝の舞台には高校時代に全国大会の経験がないばかりか、大学からサッカーを始めた選手もいました。まさに夢物語でしたが、あのときの経験は指導者としての礎となっています。本当に感謝しています。

——その後、JFAアカデミー堺でコーチを務められました。学生とU-15年代の選手としては、コミュニケーションの取り方も違ったのではないのでしょうか。

三輪 最初の2年は、指導者としても社会人としても未熟で、私自身が環境に適応することで精いっぱいでした。選手たちとの距離感もつかめず、うまくコミュニケーションを取れずにいたのですが、3年目になってようやく肩の力が抜け、距離感も縮められるようになりました。そうやって過ごしていくうちに一人一人の選手をすごく大事にできるようになっていきました。それまでは、選手たちが目指すレベルに連れていってあげなければいけない、伸ばしてあげ

なければいけない、と思っていま
た。ですが、選手にはそれぞれ成
長のタイミングがあること、そし
て、中学生という多感な時期に集
団としてではなく、一人一人の成長
をしっかりと見ることで個性を伸
ばしてあげられるということに気
づきました。

——気づくきっかけがあったので
すか。

三輪 ある日、練習の振り返りをし
ていたときに、私は「この基準に達
していないとダメだ」と思っている
選手をあまり評価できていなかっ
たんです。だけど、同僚のコーチに
「でも前はできなかったことが、こ
までできるようになっているよ。そ
の子にとつての伸び代を見てあげ
たら？」と言われたときにすっと心
に落ちて納得できたんです。

——選手との接し方も変わりましたか。

三輪 変わりました。選手をすこ
く観察するようになりました。家
庭環境も、体格や性格、プレースタ
イルもそれぞれ異なります。その
異なる部分を認めて、選手にかけ
る言葉を工夫するようになりまし
た。選手が求めているものが何か
をよく観察し、そっとしておいてほ
しそうなときは距離を取って見守
り、サポートが必要そうときは

声を掛けたり、アドバイスしたりし
ながら、選手をちゃんと見て接す
ることができるようになりました。
それは今も意識していることです。

——いろいろな角度から選手を観
察されているんですね。

三輪 選手を観る眼を一つにしな
いということは気をつけていまし
たね。アカデミーだけでは、学
校や所属チームといったコミュニ
ニティーで選手たちはどんな顔を
しているんだろうと。例えば保護
者の方に話を聞くと、家ではすこ
くわがままなんですとか、甘えん
坊なんですとか、選手のいろいろな
面が見えてきます。反抗期や思春
期で素直に返事ができなかったり
しても、かわいいなと思えるよう
になつて(笑)。こちらから一方的
に指導したり、思いを押し付ける
のではなく、選手一人一人を尊重し
て成長や変化を待つ、という「忍耐
力」も大事だと感じています。

**選手は褒めて伸ばす
サッカーの楽しさを大切に**

——日々のトレーニングや試合な
ど、サッカーの指導で意識してい
ることはありますか。

三輪 JFAアカデミーで学んだ
ことを今のチームでも実践してい
ます。ただ、選手一人一人への声掛

けは以前より多くなりました。

選手は褒められて伸びます。私
もそうでしたが、サッカーが楽し
いと感ずるのは、点を取ってうれし
かったり、親やコーチに褒められた
り、そういうときだと思っんです。
それが原動力になって、サッカーを
もっと頑張ろうと思える。一方で、
サッカーを突き詰めていくと「楽し
い」を見失ってしまうこともあ
る。私は、選手には、それぞれの理
由で始めたときの「サッカーが好
き」とか「サッカーが楽しい」といっ
た心を大事にしてほしいと思っ
て、じゃあ、私にとつて指導者の

原点は何だろうと考えると、選手
が「できた！分かった！」と喜べる
ように適切なタイミングでの確な
アドバイスをしてあげること、トラ
イを認めてしっかりと褒めてあげ
ることだ。ですから、選手の良
い部分はどんどん褒めて、モチベ
ションを高めるような声掛けを大
事にしていきます。

——三輪さんが指導者からの言葉
で印象に残っていることがあれば
教えてください。

三輪 昨年のAssociate-Pro
(A-PrO)コーチ養成講習会の講
義で岡田武史さん(JFA副会長、
元日本代表監督)が話されていた
「監督になると主語が変わる。選
手たちは『I(私は)』だが、監督は
常に『We(私たちは)』で考えなけ

ればならない」という言葉にとても
感銘を受けました。選手と一緒に
歩んでいきたいという私の信念に
合致する内容だったからです。

チームは選手あつてのもの。私
の理想はあるとしても、選手たち
が何をしたいのか、何ができるの
か、それをまずは問いかけるよう
にしています。

——指導者の声掛けや在り方で
選手の成長度は大きく変わると思
います。三輪さんはどんな指導者
でありたいですか。

三輪 選手をリスベクト

し続けたいと思っていま
す。今は指導者としてで
すが、選手時代と同じよう
に選手と一緒にピッチに
立つて、同じ目標に向かっ
て歩める。選手たちに喜
怒哀楽を与えてもらい、
感動させてもらえる。監
督はとても素敵な仕事だ
と思っています。私が指
導者でいられるのは、日々
サッカーに真摯(しんしん)に取り組
んでいる選手たちがいる
からです。今の帝塚山学
院大学女子サッカー部は、
私が監督に就任したとき
に創部されたチームで、
今年で3年目。昨年の春
季リーグには関西学生女
子サッカーリーグ1部に

昇格しました。選手には「歴史を
創るのは私たち」と事あることに
言っています。このチームに集まっ
てくれた選手たちには感謝してい
ますし、一緒にインカレ出場とい
う目標にトライできることを幸せに
思っっています。

もう一つ、自分なりのサッカーへ
の恩返しとして、私がサッカーか
らたくさんのことを学んで成長し
たように、その魅力を選手たちに
伝えていきたいと思っています。
そして私と同じように、指導者に
なりたいたいと思っくれる選手が出
てきてくれたらうれしいですね。



「選手と一緒に並走しているイメージ」と自身の指導者像を話す三輪監督。
サッカーを理解し、指導力を磨き、人間性を備えることが指導者には求められているという



聞くスキルと 聞く姿勢の重要性

特別寄稿

杉山佳生

(九州大学大学院人間環境学研究院 教授)

コミュニケーションを「情報のやりとり」と捉えるならば、そこには、情報の送り手である「話し手」と、情報の受け手である「聞き手」がいることになります。そして、コミュニケーションを成功させるためには、話し手が自分の頭の中にある考えや思いを適切な情報に変換して伝えるとともに、聞き手がそれらの情報を適切に読み取る必要があります。このことを踏まえると、指導の中でより良いコミュニケーションを行うためには、指導者には、話し手としてのスキル、いわゆる「伝達スキル (encoding skill)」は当然のこと、聞き手としてのスキル、いわゆる「解読スキル (decoding skill)」も求められます。この解読スキルは、選手の気持ちを深く理解する際に、また、指導が十分に行うことができているかどうかのフィードバックを得る際に重要な役割を果たします。

「選手の気持ちを理解する」ためには、選手から発信されるさまざまな情報を的確に受け取る必要があります。選手の気持ちは、言葉で表現されることもありますが、言葉以外の形、いわゆる「ノンバーバル (非言語的) な行動」で示されることもあります。例えば、表情で不安を伝えたり、うなずきなどの動作やアイコンタクトで同意の意思が示されたりします。

一方で、言葉が用いられる場合でも、必ずしもその言葉通りの考えや思いを持っているとは限りません。聞き手は、言葉の内容と非言語的な情報を組み合わせて、話し手の真意をくみ取る必要があります。運動観察では、ただ単に「見る」ではなく、その運動の背後にある意図などを「見抜く」ことが必要であると言われていますが、コミュニケーションにおいても、単に「聞く」だけでなく、相手の真意を「聞き (聴き) 取る」、**「聞き (聴き) 抜く」**スキルが期待されます。

また、選手の本当の気持ちを知るためには、選手がそれらを表に出しやすい雰囲気をつくる必要もあります。その際に役立つのが「カウンセリングマインド」に基づいた話の聞き方です。これは、例えば、相手の発言をそのまま繰り返したり、適切なタイミングでうなずいたりすることによって、聞く姿勢にあることを相手に伝えるものです。このような方法を取り入れることで、選手が話しやすい環境が生まれます。また、このカウンセリングマインドに基づく対応では、「性急に相手を正さない」という姿勢も重要です。教育に携わる人は、相手を正

しく導かなければという責任感から、間違っている発言があるとそれを正したくなる傾向にあります。それは仕方がないところですが、人は、自分の意見を即座に否定されることが続くと、話したくても話せない状況に追い込まれます。指導によって「正しく導く」ことは重要ですが、選手の「真意」を知りたいときは、とりあえず、選手が言っていることの正否の判断はせず、「指導」は脇に置いて、選手の話 (それがいかに非合理的なことであっても) に耳を傾けることが求められます。これは、数秒間という短い時間でも構いません。この数秒間の気持ちの在り方が、指導者の「聞く耳」を育てることになります。

解読スキルは、スポーツの指導それ自体を適切に進めるためにも必要です。運動の学習は、外側から観察される運動行動からその上達度合いを判断することもできますが、指導者の言葉が適切に (指導者が意図している通りに) 理解されているか、あるいは、プレー中の思考などが指導者の考えているものになっているかといったような内的情報は、言葉を通じて開示してもらうことが必要になります。その際、選手が十分な伝達スキルを持っていないければ、指導者が有する解読スキルを存分に活用して、発した言葉の背後にある選手の理解状況を推測することが期待されます。

このように、指導者は、「話すこと」を無駄にしないためにも、「聞くこと」に係るスキルの向上に取り組むことが望まれます。



日本サッカーミュージアム **1+**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)
Tel: 050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 12:00～17:00(最終入場16:30)
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人:550円、小中学生:300円、幼児:無料
団体(20名様以上)・障がい者の方:
大人450円、小中学生200円
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL https://www.jfa.jp/football_museum/

※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式ウェブサイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。



今年「ワールドカップ」がテーマ! 夏休み自由研究イベントを開催

日本サッカーミュージアムは夏季特別開館期間(7月23日～8月21日)に合わせて、7月30日から8月15日、夏休みスペシャルイベントをヴァーチャルスタジアムで開催した。

初日の30日はスペシャルワークショップとして、サッカー新聞エル・ゴラッソ編集長の寺嶋朋也さんによる「サッカー世界新聞づくり～イングランド編～」を開催。7月31日と8月4日～15日には夏休み自由研究イベントを、8月1日～3日の3日間はゲストを招いてスペシャルトークイベントを行った。

コロナ禍の影響で2020年、2021年の夏季特別開館期間はプレゼントの配布やオンラインでのイベント開催など形を変えて行っていたが、今年は3年ぶりにヴァーチャルスタジアムで開催。自由研究イベントは感染拡大防止対策のため原則予約制とし、午前・午後いずれも2時間で参加者を入れ替える形で実施した。

今年の夏休み自由研究は、11月に開幕するFIFAワールドカップカタール2022にちなみ「ワールドカップ」がテーマとなった。

ワークショップは「日本代表歴代ワールドカップを学ぶ!ワークブック」と題し、この一冊で日本代表が出場した過去6大会のワールドカップを調べてまとめることができるもの。各大会の開催国や優勝国、その大会で使用されたボールや、日本代表の歴代ユニフォームのコンセプトを穴埋め問題などで学んだ。

このワークブックには恒例の歴史新聞づくりも含まれており、ワールドカップにおける日本代表の歴史にちなみ資料集や素材集を基に、参加者はそれぞれ自分だけのオリジナル新聞を作成した。

ワークショップの間には、大人気の工作企画「10分工作で遊ぼう! グループE紙コップけん玉」も。紙コップでけん玉を作り、日本とFIFAワールドカップカタール2022のグループステージ対戦国の国旗やカラーで飾りつけをして楽しんだ。

3年ぶりに会場で行われたイベントは、子どもたちの笑顔があふれる空間となった。

※スペシャルトークイベントのレポートは次号に掲載予定



第18回日本サッカー殿堂 掲額者決定

日本サッカー協会は7月25日、第18回日本サッカー殿堂にイビチャ・オシム氏、小嶺忠敏氏、北山朝徳氏、綾部美知枝氏を掲額すると発表した。これにより、日本サッカー殿堂の掲額者は、高円宮憲仁親王と86名、2チームとなった。



なお、第18回日本サッカー殿堂掲額式典は9月10日にJFAハウスの日本サッカーミュージアム内ヴァーチャルスタジアムで開催する予定となっている。

U-21日本代表、AFC U23アジアカップウズベキスタン2022の記念品を展示

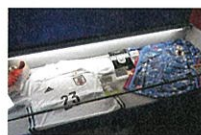
日本サッカーミュージアム1階エントランスでは現在、6月に開催されたAFC U23アジアカップウズベキスタン2022に出場したU-21日本代表選手のサイン入りユニフォームとキャプテンマーク、シューズ、GKグローブを展示している。



※展示終了日は未定。予告なく展示物に変更になる場合あり。

なでしこジャパン、国際親善試合の記念品を展示

日本サッカーミュージアム1階エントランスでは現在、6月に開催された国際親善試合のセルビア戦(24日)とフィンランド戦(27日)に出場したなでしこジャパンのサイン入りユニフォームやシューズ、対戦国盾を展示している。



※展示終了日は未定。予告なく展示物に変更になる場合あり。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2022年8月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
カルテック株式会社
キリンビール株式会社
キリンパレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社

株式会社ジエブ
株式会社シズオクト
株式会社ジャミング
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京
株式会社電通

株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
公益社団法人日本プロサッカーリーグ
株式会社野村総合研究所
びあ株式会社
株式会社ビッグ・バーン
ホテル東京ガーデンパレス

マッシュコーポレーション株式会社
株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキバスケット株式会社

日本サッカー協会

サッカー日本代表オフィシャルチームバスの名称が「JFA's DREAM」に決定

JFAは、SAMURAI BLUE（日本代表）をはじめとする各カテゴリーの日本代表チームが移動時に使用している日本代表オフィシャルチームバスの名称を「JFA's DREAM」に決定した（7月19日発表）。「サッカー日本代表オフィシャルチームバス 名称募集キャンペーン」（2021年9月28日～11月16日実施）に寄せられた、約3,000件の応募をもとに決めたもの。

オフィシャルチームバスは2021年9月から運行を開始。JFAブルーを基調に、三本足の鳥の羽をモチーフにしたサブグラフィック、日本代表エンブレムが描かれ、窓の部分には日本代表アイデンティティの5つのキーワードが記されている。

JFA U-18女子サッカーファイナルズ2022を開催

JFAは9月17日（土）と同19日（月祝）、サンガスタジアム by KYOCERA（京都府）で「JFA U-18女子サッカーファイナルズ2022」を開催する。

この大会は、2019年12月の理事会で新設されることが決定。JFA Youth & Development Programme（JYD）オフィシャルパートナー協賛各社の支援を受けて2020年度から行う予定だったが、コロナ禍の影響で開催が見送られていたもの。大会創設から2年を経て、ようやく第1回大会を開催できることになった。

同大会には、令和4年度全国高等学校総合体育大会の優勝および準優勝の2チームと、XF CUP 2022 第4回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）の優勝、準優勝の2チームが出場し、4チームによるノックアウト方式で女子U-18年代の真の日本一を決する。

【大会概要】

名称 : JFA U-18女子サッカーファイナルズ2022
主催 : 公益財団法人日本サッカー協会

主管 : 一般社団法人京都府サッカー協会
協賛 : JFA Youth & Development Official Partner
トヨタ自動車株式会社
ニチバン株式会社
株式会社モルテン
日程 : 準決勝 2022年9月17日（土）
決勝 2022年9月19日（月祝）
会場 : サンガスタジアム by KYOCERA（京都府亀岡市）
参加チーム : 令和4年度全国高等学校総合体育大会の優勝・準優勝の2チーム
XF CUP 2022 第4回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）の優勝・準優勝の2チーム
大会形式 : ノックアウト形式（第3位決定戦は行わない）。勝敗が決定しない場合はペナルティーキック方式により勝利チームを決定する。

第18回日本サッカー殿堂の掲額者が決定

JFAは、第18回日本サッカー殿堂にイビチャ・オシム氏、小嶺忠敏氏、北山朝徳氏、綾部美知枝氏の4人を掲額することを決定した（7月25日発表）。これにより、日本サッカー殿堂の掲額者は、高円宮憲仁親王および86人、2チームとなった。掲額式典は9月10日、日本サッカーミュージアムのヴァーチャルスタジアムで開催予定。

【第18回日本サッカー殿堂 掲額者】

- 投票選考 : 投票の結果、該当者なし
- 特別選考（4人）

1. イビチャ・オシム：1941年5月6日～2022年5月1日（享年80歳）



サラエボ（ボスニア・ヘルツェゴビナ）出身。2003年にJリーグ1部のジェフユナイテッド市原・千葉（現、ジェフユナイテッド千葉）の監督に就任すると、低迷していたチームを1年目から優勝を争える強豪に育て上げ、2005年にはJリーグヤマザキナビスコカップ制覇を遂げた。その指導力を高く評価され、2006年7月に日本代表監督に就任。病に倒れて在任期間は1年半にとどまったが、同氏が伝えるサッカー哲学、指導理念、指導方法は大きな刺激を与えた。21世紀に入ってからの日本サッカーに多大なる影響を与えたサッカー指導者の一人といえる。

特にJFAが選手の育成、チーム強化の方針として打ち出している「Japan's Way」は、同氏が06年の就任時に述べた「日本サッカーを日本化する」という考えに端を発したものである。「世界に追いつくという考え方でいる間は世界に追いつくことはない」という同氏は、それまでネガティブに捉えられがちだった日本人や日本の選手の特徴をポジティブに捉えた。欧州や南米のサッカー大国を追隨していた日本サッカー界に対し、「君たちが気づいていないだけで日本のサッカーには素晴らしいものがたくさんある」と勇気づけた。オシム氏の考えと共振して生まれた「日本人の良さを尊重し生かしたサッカーを目指す」というテーマは、これから先の日本サッカーの道しるべとなるものである。

2. 小嶺 忠敏：1945年6月24日～2022年1月7日（享年76歳）



長崎県出身。長崎県の島原商業高校、国見高校を指導して全国的な強豪に押し上げ、高円宮杯全日本ユース（U-18）サッカー選手権大会や全国高等学校サッカー選手権大会、全国高等学校総合体育大会など多くのタイトルを獲得するとともに、高木琢也や三浦淳宏（*）、大久保嘉人など日本代表選手を数多く育て上げた。

日本全国を精力的に回り、強豪チームとの対戦を重ねるなど情熱あ

るチームづくりは多くの指導者に影響を与え、九州のみならず地方全域のレベルアップに著しく貢献した。1993年には日本で開催されたFIFA U-17世界選手権(現、FIFA U-17ワールドカップ)ではU-17日本代表監督としてチームを率い、日本サッカー史上初となるFIFA主催大会でのグループステージ突破(ベスト8)を果たした。なお、このチームからは宮本恒靖、中田英寿、松田直樹ら後に日本を代表する選手が多く輩出されている。また、サッカーの指導以外においても、長崎県サッカー協会会長やV・ファーレン長崎社長などを歴任した。(*:現在は三浦淳寛として活動)

3. 北山 朝徳: 1947年4月15日~2019年6月18日(享年72歳)



広島県出身。JFAの国際委員として、南米サッカー連盟(CONMEBOL)、南米の各国協会と強固なパイプを築き、南米に遠征する日本のチームのサポートや南米のチームを日本に招聘するための折衝などに約40年の長きにわたって尽力した。

特にJクラブや日本代表の強化に北山氏の持つ人脈が大いに生かされ、CONMEBOLコパアメリカへの招待、アルゼンチン代表など数々の強豪チームの招聘、有名選手の移籍を実現させた。世界サッカーの過密スケジュールや国際マッチデーのルール変更などにより、代表戦のマッチメイクが年々困難となっている現在も、JFAが南米各国代表を招聘し、国

際親善試合が開催できていることも同氏が遺した功績の一つといえる。また、韓国と激しい招致合戦とを繰り広げた2002年のワールドカップ日本招致活動において、CONMEBOLが終始変わることなく日本を支持してくれた背景には、同氏と連盟の強い絆があった。

4. 綾部 美知枝: 1948年11月4日生まれ(73歳)



静岡県出身。小学校教員時代に清水市内(現、静岡市)で少年サッカーの指導を始め、清水FCの監督として後に日本代表選手となる長谷川健太、大榎克己、堀池巧らを指導し、1977年には第1回全日本少年サッカー大会優勝(与野下落合SSSと両チーム優勝)へと導いた。

女性のサッカー指導者の草分け的な存在で、その後も多くの日本を代表する選手を育成した。少年サッカーの指導を行う傍ら、清水市で初めての父親チームや母親チームの結成を図り、保護者と少年の育成組織を立ち上げ、サッカーの普及に尽力。長年にわたり清水サッカー協会の理事、副理事長、静岡県サッカー協会の理事として活躍した。

また、JFAにおいても理事、特任理事として4種と女子を担当し、第4種大会部会長、女子委員会副委員長などを務め、各年齢カテゴリーの女子大会の整備や全日本少年サッカー大会の8人制導入などに携わり、日本のサッカーの普及および育成にも大きく貢献した。

SAMURAI BLUE(日本代表)

9月27日、国際親善試合でエクアドル代表と対戦

JFAは、9月27日に欧州で国際親善試合を開催し、SAMURAI BLUE(日本代表)がエクアドル代表と対戦することを決定した(7月22日発表)。

【国際親善試合 概要】

日時: 2022年9月27日(火)※キックオフ時間は調整中

対戦: SAMURAI BLUE 対 エクアドル代表

会場: 欧州で調整中

主催: 公益財団法人日本サッカー協会

日本代表オフィシャルパートナー: キリンビール株式会社、
キリンビバレッジ株式会社

日本代表オフィシャルサプライヤー: アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送: 調整中

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を行った上で開催

●森保一SAMURAI BLUE監督 コメント

(9月23日に国際親善試合で対戦する)アメリカに続き、FIFAワールドカップ出場国と9月に対戦できることをうれしく思います。エクアドルとは、2019年にブラジルで行われたCONMEBOLコパアメリカで対戦しました。ブラジル、アルゼンチンをはじめとする強豪ひしめく南米の中で急成長を遂げているチームで、組織力もあり、最後まで諦めずに戦う粘り強さを持っている印象です。ワールドカップへ向けた最後の活動となりますが、貴重な機会を有効に活用し、強化につなげたいと思います。

※対戦国関連データ

エクアドル代表: FIFA ランキング(2022年6月23日更新): 44位
過去の対戦成績: 日本の2勝1分け(5得点1失点)

なでしこジャパン(日本女子代表)

10月の国際親善試合は「MS&ADカップ2022」として開催

10月9日(日)のなでしこジャパン(日本女子代表)の国際親善試合が、日本代表サポーティングカンパニーのMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社の特別協賛を得て「MS&ADカップ2022」として開催されることが決まった(7月20日発表)。

【開催概要】

大会名称: MS&ADカップ2022

日時: 10月9日(日)キックオフ時間調整中

会場: 長野県/長野Uスタジアム

対戦: なでしこジャパン(日本女子代表)対 ニュージーランド女子代表

主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
主管 : 一般社団法人長野県サッカー協会
特別協賛 : MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

日本代表オフィシャルパートナー：
キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社
日本代表オフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社
テレビ放送：調整中

JFAアカデミー

JFAアカデミー福島女子12期生の佐々木里緒選手、松窪真心選手がマイナビ仙台レディースに加入内定

JFAアカデミー福島女子12期生の佐々木聡夫選手、松久保真心選手が、2022-23シーズンからWEリーグのマイナビ仙台レディースに加入することが内定した(7月19日発表)。

【プロフィール】

佐々木 里緒(ささき りお / SASAKI Rio)
ポジション : DF
生年月日 : 2004年9月17日
身長/体重 : 158cm / 53kg

所属元 : JFAアカデミー福島
所属歴 : 三光本耶馬溪ユナイテッド→下毛 FC

松窪 真心(まつくぼ まなか / MATSUKUBO Manaka)
ポジション : FW
生年月日 : 2004年7月28日
身長/体重 : 155cm / 49kg
所属元 : JFAアカデミー福島
所属歴 : 大明丘サッカースポーツ少年団

Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)

Jリーグクリエイティブディレクター契約の締結

Jリーグは7月26日の理事会において、清永浩文氏とJリーグクリエイティブディレクター契約を締結することを決定した。この契約締結により、清永氏はJリーグが推進する各プロジェクトやJリーグのブランディング戦略および全社的なクリエイティブデザインへの助言や提言を行う。

【Jリーグクリエイティブディレクター概要】

●清永浩文(Hirofumi Kiyonaga)

SOPH. 創業者。1967年大分県生まれ。洗練された日常着を求め1998年に「SOPH.」を起業。以後、世界的スポーツ企業である「NIKE」との協

業や、宮島達男、ジュリアン・オピー、ジャック・ピアソンなど異分野のクリエイションに着目したコレクションを発表し、今では当たり前となったスポーツやアートをファッションと繋げた第一人者となる。2013年にジュングループと過去に例のない「未来志向型 M&A」を成立させ、グループの多角的な経営資源を活用し未来にむけて発展的なビジネスを展開。グループの傘下入り後も、前例のない戦略を次々と打ち立て「SOPH.」を発展させていく。2022年6月にブランドの更なる進化のための「最後の戦術」として、24年間率いた「SOPH.」を退任。退任後は自由な立場から思考を巡らせ、さまざまなフィールドにてクリエイションを行なっていく。

懲罰決定

Jリーグの野々村芳和チェアマンは下記の件について裁定委員会に諮問し、浦和レッズに対して下記の通り、懲罰を決定した。併せて浦和レッズに対し、同種事案の再発防止を期すために必要な措置の実施を依頼した(7月26日発表)。

1. 対象事案

事案1

(1) 懲罰の対象となる浦和レッズの違反行為

ホームクラブとしてサポーターが以下(2)に記載する秩序を損なう行為を行うことを防止することも、制止することもできず、Jリーグ規約(以下、規約)第51条(Jクラブの責任)に示す「観客にホームスタジアムおよびその周辺において秩序ある適切な態度を保持させる義務」に明らかに違反した。

(2) 浦和レッズサポーターによる秩序を損なう行為

2022年5月21日、埼玉スタジアム2002において開催された2022明治安田生命J1リーグ第14節浦和レッズvs.鹿島アントラーズの試合開始

前である午後3時30分頃、スタジアム北車両門付近において、浦和レッズサポーターが以下の行為を行った。

- ① Jリーグ新型コロナウイルス対策ガイドライン(以下「ガイドライン」という)において「声を出す応援」は禁止されているにもかかわらず、複数名(少なくとも60名)が、浦和レッズチームバスの到着の前後に、約10分間、集団で声を出して応援を行った。
- ② ガイドラインで「マスクを着用する」ことが求められているにもかかわらず、上記①に際し、一部の浦和レッズサポーターがマスクを着用しなかった(マスクを顎付近にずらして着用する等、口元をマスクで覆っていない行為を含む)。

事案2

(1) 懲罰の対象となる浦和レッズの違反行為

ビジタークラブとしてサポーターが以下(2)に記載する秩序を損なう行為を行うことを防止することも制止することもできず、サポーターにJリーグ規約(以下、規約)第51条(Jクラブの責任)に示す「試合の

前後および試合中において、ビジタークラブのサポーターに秩序ある適切な態度を保持させる義務に明らかに違反した。

(2)浦和レッズサポーターによる秩序を損なう行為

2022年7月2日、パナソニックスタジアム吹田において開催された2022明治安田生命J1リーグ第19節ガンバ大阪vs.浦和レッズの試合終了間際である90+2'分頃、同スタジアムのゴール裏ビジター席上層階において、浦和レッズサポーターは以下の行為を行った。

①ガイドラインにより「声を出す応援」が禁止されているにもかかわらず、複数名（少なくとも100名）が、約5分間、集団で声を出して応援を行った。

②ガイドラインで「マスクを着用する」ことが求められているにもかかわらず、上記①に際し、一部の者はマスクを着用しなかった（マスクを顎付近にずらして着用する等、口元をマスクで覆っていない行為を含む）。

2. 懲罰内容

- ・けん責
- ・罰金2,000万円

3. 懲罰量定に際し参考とした事情

浦和レッズは、2020年10月31日開催の対大分トリニータ戦における同種事案により、2021年2月22日に罰金300万円および譴責処分等の懲罰を科されたにもかかわらず、短期間の間に本件各違反を繰り返した。また、2022年5月13日開催の対サンフレッチェ広島戦および同月18日開催の対横浜F・マリノス戦において、サポーターから提出された「フットボールに情熱を戻す決断は誰の責務？PRIDEを奪われたサポーターを無視して忖度を続けた結果、失ったものは何？」という横断幕掲出申請を承認するに当たり、サポーターが声出し応援の禁止等の規制に強い不満を抱いており、ガイドラインに違反して声出し応援等を行うおそれがあることが十分予見できた。それにもかかわらず、サポーターに対する十分な啓発や声出し応援を制止するための体制整備を行った形跡がおよそみられなかった。

さらには、事案1の後、Jリーグからの再三の求めにもかかわらず、サポーターらに向けた対外的なステートメントも発出せず、かつ、声出し応援等を行ったサポーターに対する制裁処分の発動、声出し応援を制止するための体制整備等、同種事案の再発を防止するのに有効と考えられる

対応も何らとらないまま、事案2に至った。事案1、事案2の各行為は、スポーツ庁をはじめとする政府当局からも指摘を受けるなど、社会的影響も大きく、Jリーグの信用を毀損し、声出し応援の段階的な再開を含む、Jリーグの試合の正常化に向けた取り組みを阻害しかねない。

なお、浦和レッズは、事案2の発生を経て、ホームページ上に「違反行為への適時適切かつ毅然とした対応（即時退場を含む）」を含む再発防止策等に言及するステートメントを発出している。

4. 適用条項

- 事案1 規約第133条第1号
JFA懲罰規程第4条（懲罰の種類）第2項
JFA懲罰規程第27条（競技及び競技会に関する懲罰基準）
JFA懲罰規程別紙1（競技及び競技会に関する懲罰基準）3-7（チーム又は選手等によるその他の違反行為）
規約第51条（Jクラブの責任）第1項第2号
- 事案2 規約第133条第1号
JFA懲罰規程第4条（懲罰の種類）第2項
JFA懲罰規程第27条（競技及び競技会に関する懲罰基準）
JFA懲罰規程別紙1（競技及び競技会に関する懲罰基準）3-7（チーム又は選手等によるその他の違反行為）
規約第51条（Jクラブの責任）第2項第2号

5. 付言

浦和レッズに対するサポーターの行為に起因する懲罰事案は、複数回に及んでおり看過できないものとなっている。集団で声を出して応援することはサポーターによる応援の本質的事項に関わるものであり、声出し応援の禁止等のガイドライン遵守をはじめとする秩序維持にはサポーターの強い自律が必要であって、クラブには、これを促すための不断の改善努力が求められる。短期間のうちに少なくとも複数回にわたり秩序を損なう行為を阻止できなかったことは重く受け止めざるを得ない。係る状況はJリーグ全体への社会的信用の低下につながるものであることを再認識するよう要請するとともに、今後Jリーグも浦和レッズと共に再発防止に向けて対応するものの、浦和レッズが再びサポーターの行為に起因する懲罰事案を発生させた場合、無観客試合の開催または勝ち点減といった懲罰を諮問する可能性があることを付言しておく。

WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)

WEリーグが「令和3年度JOCスポーツ賞 女性スポーツ賞」を受賞

公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）主催の「令和3年度JOCスポーツ賞」表彰式が6月16日に開催され、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）が女性スポーツ賞を受賞した。

「JOCスポーツ賞」は、オリンピック・ムーブメントの推進とスポーツの各分野で優れた成績を挙げた方々の栄誉を称えることを目的に制定され、「年度賞」「特別貢献賞」「女性スポーツ賞」「トップアスリートサポート賞」が設けられている。「女性スポーツ賞」は、スポーツにおける女性の地位向上や参加の促進などに顕著な貢献が認められた個人または団体を表彰するもの。

- 受賞名 : 令和3（2021）年度 JOCスポーツ賞 女性スポーツ賞
受賞者名 : 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）/
競技 : サッカー
評価実績 : 日本の女性活躍社会をけん引し、日本に「女性プロスポーツ」を根付かせるよう2021年9月に日本初の女子プロサッカーリーグを開幕。女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する理念を掲げ活動。また、「世界一アクティブな女性コミュニティ」「世界一の女子サッカー」「世界一のリーグ価値を」というビジョンを掲げて活動。

●岡島喜久子WEリーグチェア コメント

「JOC スポーツ賞 女性スポーツ賞」という名誉ある賞をいただき、大変光栄です。授賞の通知を受けて驚いておりましたが、16日の表彰式を経て思い出されたのは、WEリーグ設立、そしてWEリーグ元年を支えてくださった多くの方々のお力添えでした。WEリーガーとなった選手たちやクラブ、そしてファン・サポーター、ホームタウンやパートナー

企業の方々など、運営に携わってくださった全ての皆さまと共に、この受賞を喜び合いたいと思います。

今後、より一層、女性スポーツの地位向上や参加促進に寄与できるよう、WEリーグが起点となり女性スポーツを盛り上げていきます。引き続きWEリーグに温かいご声援とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

2022-23 Yogibo WEリーグは10月22・23日に開幕

WEリーグは、2022-23 Yogibo WEリーグの大会概要を下記の通り決定した(6月22日発表)。

【大会概要(抜粋)】

大会名称：2022-23 Yogibo WEリーグ(英文表記：2022-23 Yogibo WE LEAGUE)

大会方式：11チームによるホーム&アウェイ方式の2回戦総当たりリーグ戦を実施(全22節/全110試合)

開催日程：2022年10月22日(土)または23日(日)～2023年6月10日(土)または11日(日)予定

試合会場：原則として各クラブのホームスタジアム

表彰：優勝 賞金2,000万円、WEリーグトロフィー、メダル、チャンピオンフラッグ

2位 賞金1,000万円

3位 賞金500万円

2022-23 WEリーグカップの開催が決定

WEリーグは「2022-23 WEリーグカップ」を開催することを決定した(7月8日発表)。2021年のプレシーズンに開催した2021 WEリーグプレシーズンマッチは「非公式試合」として行ったが、2022-23 WEリーグカップは公式試合として開催する。

【大会概要(抜粋)】

大会名称：2022-23 WEリーグカップ(英語表記：2022-23 WE LEAGUE CUP)

主催：公益財団法人日本サッカー協会、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ

主管：(グループステージ)ホームクラブ

(決勝)公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ

大会形式：(グループステージ)全11チームを6チームと5チームの2グ

ループに分け、各グループで1回戦制によるリーグ戦を行う。各グループ1位チームが決勝に進出する。グループ分けは所在地を基に決定。

・グループA：マイ仙台、浦和、大宮V、EL埼玉、AC長野、新潟L

・グループB：千葉L、東京NB、N相模原、神戸、S広島R

(決勝)グループA 1位とグループB 1位による決勝を行う。

開催日程：(グループステージ)2022年8月20日～9月25日

全6節/全25試合

(決勝)2022年10月1日(土)

試合会場：(グループステージ)ホームクラブが決定する。

(決勝)味の素フィールド西が丘(東京都)

表彰：優勝 賞金200万円、WEリーグカップ

2022年7月度理事会を開催

WEリーグは7月27日に2022年7月度理事会を開催した。決議事項、報告事項は下記の通り。その他詳細はWEリーグ公式ウェブサイト参照。

【決議事項(抜粋)】

●映像利用規程

映像利用規程の改定について下記の通り承認した。

(改定理由)

WEリーグカップを公式試合として開催することに伴い、現行規程との齟齬が生じるため改定する。

(改定の要点)

・WEリーグカップの映像利用については別途定める。

・WEリーグの公式試合の映像はWEリーグが管理し、WEリーグから委託を受けたJリーグ映像担当で一元管理・保存・販売をすることをしていたが、WEリーグカップにおいては、Jリーグの委託対象としない。

【報告事項】

●2022年度WEリーガー研修会

WEリーグは7月13日～15日、「2022-23WEリーガー研修」をオンラインで開催した。Women Empowerment Leagueというリーグ名の通り、「自分の“POWER”(力・長所)に気づき、周囲に力を与えること(=Empowerment)」を研修の狙いとし、力を蓄えるために必要な知識や内容を経験豊富な講師から学ぶことを目的としている。13日は新人プロ選手のみを対象とし、インテグリティや税務処理、目標設定など新人選手に特化した全4回のプログラムを実施。元日本代表の中田浩二氏や鈴木啓太氏、元日本女子代表の東明有美氏、元水泳日本代表の伊藤華英氏らが講師を務めた。

・受講選手数 7月13日 新人プロ選手(*)：42人

7月14日・15日 プロ選手：184人

・研修プログラム協力：WEリーグシルバーパートナー パーソルグループ(パーソルキャリア株式会社)

*：2022-23シーズンに初めてWEリーグに所属するプロ契約選手

※体調不良などにより出席できなかった選手、「EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会」に選出された選手は後日動画視聴にて受講。

〔担当理事コメント〕

●小林美由紀（WEリーグ理事 兼 理念推進部長）

WEリーグでは、リーグ名称にもある「EMPOWERMENT」を、「自分の“POWER”(力・長所)に気づき、周囲に力を与えること」と定義しています。今年度は、「自分の力“POWER”を表現する」を意識したプログラムにしました。7月13日は新人プロ選手43人を対象にインテグリティや税務処理、目標設定など、新しくプロになった選手に特化したプログラムを実施しました。14・15日はプロ選手214人が受講し、中田浩二さんや鈴木啓太さんから「プロフェッショナル」について伺ったほか、スポーツ医学やメディアトレーニング、性の多様性についての知識も深めました。

新人プロ選手に対しては、元水泳日本代表の伊藤華英さんからプロとしての振る舞い方を、公認会計士（EY）の多田雅之さんからは個人事業主としての知識を、WEリーグシルバーパートナーであるパーソルキャリア株式会社の大浦征也さんからは目標を言語化するための考え方を学び、座学やグループでのディスカッションを通して、プロ選手に求められる資質を身に付けました。

元サッカー日本代表選手の中田浩二さんと鈴木啓太さんからは、「プロとは」という視点で講義を行っていただきました。WEリーグ理事の佐伯夕利子さんからは、スペインの女子プロリーグの現状やWEリーグとの比較を、スポーツドクターで産婦人科医の高尾美穂さんからは、生理を中心とした女性の身体の変化とスポーツに関するスポーツ医学を、大学教員の野口亜弥さんからはジェンダー・ダイバーシティやLGBTQについて、フリーアナウンサーの三須亜希子さんからはメディアトレーニングの講義を行っていただき、プロサッカー選手として何ができるか、自覚と責任をもって行動していくためのきっかけをつくる研修となりました。

〔講師コメント〕

●東明有美（WEリーガー研修コーディネーター、元日本女子代表）

今年の研修は自分のパワー（良いところ）を見つけて、言語化することにこだわって構成しました。特に新人選手向けの「目標を言語化する」や、全選手向けの「プロとは」の講義で、自分の思いを伝えようと懸命に

取り組む選手の姿を見て意識の高さを感じました。WEリーグの価値は、競技性の高さはもちろん、社会との関わりで選手たちが生み出す影響力だと思います。WEリーガーのポテンシャルを生かすきっかけとなる研修となればうれしいです。

●伊藤華英（元水泳日本代表）

このような研修はこれから活躍するプロ選手には重要だと感じました。自分たちが、このスポーツ界をつくっていくという意識を持てるきっかけは、これから継続していかなければいけません。お金のことや、社会のこと、もっともっと選手が知って、社会にインパクトを与えられるスポーツ選手（女子選手）が増えるといいと思いました。スポーツが成し得るものがより多岐にわたり、選手の発信でより可視化していくことを期待しています。

●中田浩二（元日本代表）

自分の失敗談も含め、WEリーガーの皆さんに、話をさせていただきました。皆さんもそうだと思いますが、子どもたちに夢を持ってほしいと伝えているので、自分の夢「Jリーグのチェアマンになる」ということも、口に出して言っています。日本のサッカーをより良くしていくためには、サッカーを知っている人が上に立つことが大切だと思いますし、現役時代と同様、どうせ目指すならトップのポジションだと思うからです。そのために、ピッチ以外のマーケティングのことなどを今、勉強しています。WEリーグは、球際の激しさや強度はまだまだ上げることができるのではないかと思います。皆さんもプロになって2年目、もっともっと高い目標を持って、熱い試合を繰り広げられれば、ファンやサポーターは増えると思います。WEリーグ2年目楽しみにしています。

●鈴木啓太（元日本代表）

WEリーガーの選手たちが、自分自身のことだけでなく、これからのリーグ文化をつくっていくとする姿勢が大切だと思います。選手の皆さんには、画面越しでしたが真剣に耳を傾けていただき感謝しています。私の経験が今後の現役生活において、少しでもヒントになればうれしく思います。

EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会

声出し応援エリアを設置

7月19日から27日に開催された「EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会」のスタジアムに声を出して応援できる「声出し応援エリア」が設置された。

この「声出し応援エリア」の設置は、政府の新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針に基づいた段階的導入の運営検証の対象で、政府や開催自治体と調整の上で運用。スタジアムの収容率は50%の人数を上限とし、いずれの会場も、スタジアムの一部エリアとなった（声出し応援エリア席では不織布マスクを着用した状態で声を出した応援が可能）。

大会名称	: EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
主催	: 一般社団法人東アジアサッカー連盟
主管	: 公益財団法人日本サッカー協会
声出し応援エリア	: 茨城県／茨城県立カシマサッカースタジアム ゾーン内自由席 南・北（ゴール裏） 愛知県／豊田スタジアム ゾーン内自由席 ゴール裏 北・南

「Japan's Way」を再定義

日本サッカー協会（JFA）は7月15日、ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての「Japan's Way」を発表した。Japan's Wayは2006年から技術委員会が提唱してきた考えだが、日本サッカーはこの30年で飛躍的な成長を遂げ、今やFIFAワールドカップでベスト8以上を狙えるまでに成長した。JFAは、世界の頂が見えてきた今こそ、「Japan's Way」を明確に再定義して全国のサッカーファミリーと共有する必要があると考えた。

日本サッカーの強みと課題 目指すべきゴール

世界のサッカー先進国に共通しているのが、その国独自のサッカースタイルとその発展のプランを有しており、それに誇りを持っているということ。また、その根底にはナショナル・フットボール・フィロソフィーが存在し、その明確なフィロソフィーの下で競技志向のサッカーとエンジョイ志向のサッカーが相乗効果を生み出しながら進化し、発展しているということだ。

日本では、少年団や地域のクラブチーム、中学校や高校の部活動、Jクラブのアカデミー、大学の部活動や同好会、企業チームなどさまざまなパスウェイ（進路、道筋）がある。これは、日本が長年にわたって築き上げてきた日本サッカーの強みであり、武器となるものだ。

ところが、現在は学校部活動が新たな局面を迎え、社会や経済の変化によって教育などに関わる課題が複雑化・多様化し、学校や教員だけでは解決することができない課題を抱えている。中でも運動部活動はこれまでの体制で維持していくことが困難な状況で、存続の危機に瀕している学校も少なくない。サッカーにチャレンジしたい子どもたちが、家庭や学校の事情などで挑戦を絶たれてしまうことや、指導者の情熱の行き場が失われるようなことはあってはならない。

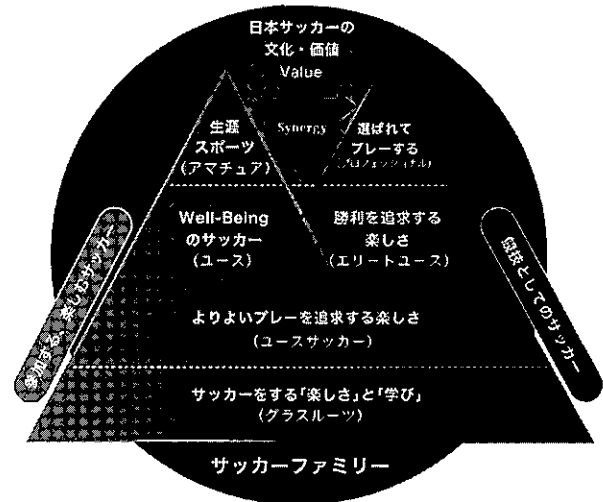
少子化や高齢化といった社会課題の解決やSDGs（持続可能な開発目標）の観点からも、国民が健康で豊かな人生を送るための生涯スポーツ社会の実現にも力を入れていく必要がある。誰もが目的や能力に応じて打ち込める場やチャンスがあり、それぞれが求める場で幸福感や達成感、希望や勇気を得られるサッカー界でなければならない。

競技力の向上と ウェルビーイングの相乗効果

世界のサッカーの潮流は絶えず変化し進化している。常にその流れをキャッチし、相対的な位置と方向を確認しながらかじを取らなければ、目指すべきゴールにたどり着くことはできない。

多くの国はコンペティティブなサッカーとウェルビーイング^(※)のためのサッカーが早めに分かれ、その後も関連を持ちながらダブルピラミッドを形成している。しかし、日本は右上の図のように二つのピラミッドがより近い距離で関わり合っている。これは日本の大きな特長といえる。

依然として収束していないコロナ禍だが、この未曾有の事態を経験し、スポーツが人々の心身の健康を育み、豊かな社会生活を営む上でなくてはならないものであることを再認識した。スポーツの重要性・必要性が今後ますます高まっていくのは自明



の理といえる。だからこそ、コンペティティブなサッカーとウェルビーイングのためのサッカー、その両方を高めていかなければならない。この二つが相乗効果を発揮することによって文化的価値や社会的価値が高まり、日本サッカーは名実ともに世界トップレベルの存在になっていくのだ。

日本サッカーが目指すゴールは、「世界一、サッカーで幸せな国」になること。そして、現在地からゴールへと切り開いていくための羅針盤となるのが「Japan's Way」である。多様性を受け入れ、誰もが気軽に足を踏み入れることができるインクルーシブなサッカー界、つまりサッカーがみんなのものになったとき、ワールドカップのトロフィーを掲げるという夢が大きく近づくはずだ。

今回策定した「Japan's Way」は、「フットボール・カルチャーの創造」「望まれる選手像」「プレービジョン」「将来に向けた日本のユース育成」「フィジカルフィットネスの未来」「将来のサッカーコーチ」「フットボールファミリーの拡大」で構成されている。そこに記したビジョンや指針を全国各地で活動するチームや指導者らと共有し議論を重ね、世界のサッカーや社会の潮流に合わせてそれをアップデートしながら日本サッカーの力を結集できる体制を構築していきたいとJFAは考えている。

※ウェルビーイング：心身と社会的な健康を意味する概念

■「Japan's Way」PDF資料（約24MB）



https://www.jfa.jp/youth_development/outline/Japans_Way_2022.pdf



日本サッカー協会（JFA）は2022年7月14日、2022年度第9回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 報酬諮問委員会 委員選任 …………… P24 | 3 2022年度 功労賞 …………… P24 |
| 2 部活動推進委員会 委員追加 …………… P24 | |

報酬諮問委員会 委員選任

報酬諮問委員会の委員を選任する。

■報酬諮問委員会

主管部署：人事部

所管事項：

- (1) 理事の報酬を決定するに当たっての方針
- (2) 評議員会に付議する理事または監事の報酬に関する議案の原案
- (3) 理事の個人別の報酬の内容および金額
- (4) 各種委員会の委員の報酬を決定するに当たっての方針ならびに報酬の内容および金額
- (5) その他、前各号に関して会長が必要と認めた事項

2年間で取り組む事項：

22年度については、主に理事報酬にかかる基本的な考え方、評議員会に付

議する議案の原案の作成、現理事の個人別報酬額の検討、および委員会委員の報酬決定にあたっての方針について議論を行い、会長へ答申する。23年度については、24年度以降の役員体制にかかる理事報酬について検討する。

委員会メンバー：

- ・委員長は、その委員の中から、報酬諮問委員会の決議によって選定する（報酬諮問委員会規則第12条3）
- ・委員が全員外部の理事または監事になるため、委員会事務局に事務総長およびマネジメント本部長、人事部長が入ることで内部情報を補完する

(役職) (名前) (備考)

委員	山口香	理事(外部)
委員	河瀬淳	理事(外部)
委員	西本強	監事(外部)

部活動推進委員会 委員追加

右記の通り、部活動推進委員を追加する。

【新規追加】

瓦葺薫(かわらぶき かおる)：栃木県大田原市立金田北中学校

山本明(やまもと あきら)：日本バスケットボール協会 技術委員会副委員長

2022年度 功労賞

地域サッカー協会(地域FA)および都道府県サッカー協会(都道府県FA)から申請があった下記の前(元)役員に、功労賞を授与する。

なお、受賞者には表彰盾を贈呈する。

<対象>

- (1) 地域FAおよび都道府県FAの三役(会長、副会長、専務理事および理事長)を退任された者
- (2) 地域FA役員を退任された者(役員歴20年以上)：各地域FAで年度毎2名以内

<受賞者>

No.	FA	名前	前(元)役職
1	北海道	吉田一彦	会長
2	九州	北岡長生	会長
3	青森県	久保雅喜	会長
4	青森県	伊藤順悦	副会長
5	青森県	鈴木裕之	副会長
6	宮城県	大久保芳雄	会長
7	宮城県	粟井俊介	副会長
8	秋田県	尾形隆	会長
9	秋田県	初山正志	副会長
10	茨城県	海野透	会長
11	埼玉県	坂庭泉	専務理事
12	山梨県	中島三紀男	専務理事
13	長野県	松田正己	会長

左ページ左上へ続く

No.	FA	名前	前(元)役職
14	長野県	中和昌成	副会長
15	長野県	堀江三定	副会長
16	長野県	神田文之	副会長
17	富山県	石崎大蕃	副会長
18	愛知県	中村昌弘	会長
19	三重県	杉山保夫	副会長
20	三重県	丸鬼慎次	副会長
21	三重県	宮崎寛	副会長
22	三重県	藤田一豊	専務理事
23	滋賀県	森津陽太郎	会長
24	京都府	村山義彰	会長
25	山口県	宮部秀文	会長
26	香川県	小河雄磨	副会長

No.	FA	名前	前(元)役職
27	香川県	川島紀夫	副会長
28	徳島県	立見敏彦	副会長
29	愛媛県	豊島吉博	会長
30	高知県	大坪幹夫	副会長
31	佐賀県	大庭弘毅	副会長
32	福岡県	田島静雄	副会長
33	熊本県	前川隆道	会長
34	宮崎県	肥後信行	副会長
35	宮崎県	牧野樹男	副会長
36	鹿児島県	福岡秀憲	副会長
37	沖縄県	真栄城勉	副会長
38	沖縄県	上地義徳	副会長

報告事項

- 1 オマーンサッカー協会とのパートナーシップに関する覚書更新 … P25
- 2 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者) … P25
- 3 リスペクト・フェアプレー月間の設置 … P26
- 4 サッカーおよびフットサル競技規則の電子化と
審判員への競技規則冊子展開の変更 … P26
- 5 山下良美審判員とのプロフェッショナルレフェリー契約 … P27

- 6 2021年度 指導者ライセンス認定 … P27
- 7 JFA・Jリーグ特別指定選手制度 … P27
- 8 審判員 海外派遣 … P28
- 9 天皇杯実施委員会委員の変更 … P28
- 10 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新) … P28

オマーンサッカー協会とのパートナーシップに関する覚書更新

国際交流事業の一環として、下記の内容にてパートナーシップに関する覚書を更新する。

<締結先>

オマーンサッカー協会(OFA)

<協定内容>

目的 : 両国の各分野におけるサッカーの促進を目的とした各種交流および知識共有

実施事項: 下記事項について可能な限り協力

- ユース育成、タレント発掘、試合環境の整備
- スポーツ医学
- 指導者・審判の養成
- 女子サッカー
- フットサル
- 各カテゴリー代表チーム間の親善試合
- 施設のマネジメントと運営
- 競技会運営
- マーケティング
- 組織運営

期間: 4年間

<背景および実施理由>

2017年5月10日にオマーンサッカー協会(OFA)とパートナーシップを締結しているが、期間満了を受け、双方で再締結意思を確認し、覚書の内容を精査して折衝した結果、左記の内容にて再締結する運びとなった。

なお、現在パートナーシップを締結している団体は下記の通り。

<アジア>

- 東地域 : チャイニーズ・タイペイ、香港、モンゴル
- 東南地域: インドネシア、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、ラオス
- 中央地域: イラン、ウズベキスタン
- 西地域 : アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、ヨルダン

<ヨーロッパ>

- イングランド、スペイン、デンマーク、ドイツ、フランス、ベルギー、ロシア、FCバイエルン・ミュンヘン

<南米>

- 南米サッカー連盟、アルゼンチン、パラグアイ、ベネズエラ

47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者)

47都道府県サッカー協会における技術担当者の専任化については、2019年10月理事会において47都道府県サッカー協会(FA)向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会が審査した結果、右記の通り新たに1FAで決定した。

今後、未定となっているFAについて、申請があり次第、随時審査を行う。

既設置FA : 28FA
今回決定したFA: 1FA(岩手県FA)
合計 : 29FA

【技術担当者専任化承認者一覧】(専任者配置FA数: 29/47FA)

No	FA名	名前	保有ライセンス
1	岩手県	出口忠一	A級ジェネラル

リスペクト・フェアプレー月間の設置

リスペクト・フェアプレーを促進するため、これまで9月にリスペクト・フェアプレーデイズ(約10日程度)を設定して活動を推進してきたが、より多くの人々に参加してもらうため、今年度より、その活動期間を拡大して、9月の1カ月間を「JFAリスペクト・フェアプレー月間」とし、この間にリスペクトシンポジウムなどの活動を実施することとする。

名称：JFAリスペクト・フェアプレー月間2022

期間：2022年9月1日(木)～30日(金)

活動：

(1)リスペクトシンポジウム

日時：2022年9月18日(日)13:00～16:00(予定)

開催方式：オンライン

テーマ：暴力暴言の根絶～セーフガーディングポリシーをクラブの

日常へ(仮)

参加者：チーム関係者、登録指導者、登録審判員、47FA関係者、メディア他(約400人)

(2)国内大会・試合におけるリスペクト・フェアプレー活動

●試合前における両チームキャプテンによるリスペクト・フェアプレー宣言

●Jリーグ、なでしこリーグ、Fリーグ、地域・都道府県協会主催大会など各種試合におけるリスペクト・フェアプレー宣言・リスペクト旗の掲揚

●地域/都道府県FA、各種連盟における啓発活動

(3)リスペクトアウォーズの実施

(4)JFAハウスのリスペクトバナーラッピング

(5)その他

サッカーおよびフットサル競技規則の電子化と審判員への競技規則冊子展開の変更

現在、審判登録者に有償または無償で配布しているサッカー/フットサル競技規則冊子に関して、下記の通り、電子サービスを開始するとともに、競技規則冊子の配布方法を変更する。

(1)変更内容

- サッカー/フットサル競技規則の展開を冊子から電子化(Web版)を軸とする形に変更する。
- 電子化した競技規則は、動画コンテンツなどを含み、より分かりやすい内容とする。

●審判登録者向けに、新たに動画などのコンテンツを配信する。

●審判員資格更新者への冊子無償配布は終了する。

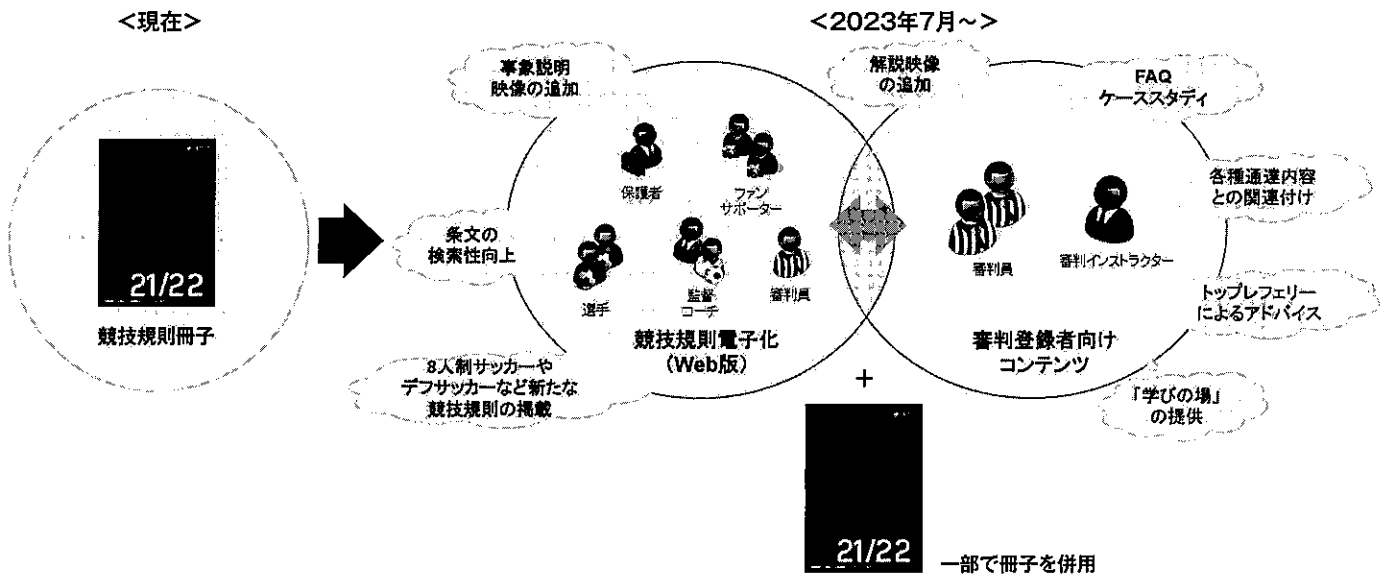
●4級審判員新規取得者に有償配布していた冊子は、当面の間、継続。また、新規取得者のうち、ユース審判員に対しては優遇措置として冊子の無償配布を継続する。

●冊子の一般販売は継続する。

(2)変更開始時期

2023年7月(予定)

目指す姿(競技規則冊子展開変更の目的)



競技規則を単に電子化するだけでなく、審判員のスキル向上などにつながる「登録者向けコンテンツ」を拡大/連携することで、登録者および未登録者それぞれに対するメリットを打ち出す
⇒ 競技規則の普及および理解促進につながる

山下良美審判員とのプロフェッショナルレフェリー契約

2022年シーズンのプロフェッショナルレフェリーとして、新たに山下良美氏と契約を締結した。

●主審

山下良美(やました よしみ)

●契約期間

2022年8月1日～2023年1月31日

<プロフィール>

山下良美

職歴 : 国立大学法人東京学芸大学、株式会社東京アスレティッククラブ

資格 : 2004年 サッカー4級審判員

2008年 サッカー3級審判員

2010年 サッカー2級審判員

2012年 サッカー女子1級審判員

2019年 サッカー1級審判員

主な審判歴:

<国内試合等>

- 2013年 皇后杯第35回全日本女子サッカー選手権大会 準決勝(副審)
- 2014年 第22回全日本大学女子サッカー選手権大会 準決勝(主審)
- 2015年 第23回全日本大学女子サッカー選手権大会 決勝(主審)
- 2015年 第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 決勝(主審)
- 2016年 第24回全日本高校女子サッカー選手権大会 決勝(主審)
- 2017年 なでしこリーグカップ1部 決勝(主審)
- 2018年 全日本大学女子サッカー選手権大会 決勝(主審)
- 2019年 なでしこリーグカップ1部 決勝(主審)
- 2019年 皇后杯 JFA 第41回全日本女子サッカー選手権大会 決勝(主審)
- 2021年 WEリーグ 開幕戦(主審)
- 2013年 なでしこリーグ1部主審/副審 : 3試合/9試合
- 2014年 なでしこリーグ1部主審/副審 : 12試合/5試合
- 2015年 なでしこリーグ1部主審/副審 : 11試合/2試合
- 2016年 なでしこ1部主審 リーグ/カップ : 9試合/3試合

- 2017年 なでしこ1部主審 リーグ/カップ : 6試合/5試合
- 2018年 なでしこ1部主審 リーグ/カップ : 10試合/1試合
- 2019年 なでしこ1部主審 リーグ/カップ : 6試合/2試合
日本フットボールリーグ(JFL) : 2試合
- 2020年 なでしこ1部主審 リーグ : 1試合
日本フットボールリーグ(JFL) : 6試合
- 2021年 Jリーグ(J3) : 8試合
WEリーグ : 1試合
- 2022年 Jリーグ(J3) : 4試合

国内試合・大会での主な審判歴:

2015年・2016年・2017年・2018年
全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

2018年・2019年・2020年・2021年
全国高校サッカー選手権大会1回戦

2019年
Jユースカップ : 2試合

国際大会での主な審判歴:

国際審判員登録 : 2015年

主な国際大会:

- 2015年 第28回ユニバーシアード競技大会(2015/光州)
- 2016年 FIFA U-17女子ワールドカップヨルダン2016
- 2017年 第29回ユニバーシアード競技大会(2017/台北)
- 2018年 AFC女子アジアカップヨルダン2018
FIFA U-17女子ワールドカップウズベキスタン2018
- 2019年 AFCカップ2019 グループF
ヤンゴンユナイテッドFC vs ナガワールドFC
FIFA女子ワールドカップフランス2019
- 2021年 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)
AFC女子クラブ選手権2021 - パイロットトーナメント
- 2022年 AFCチャンピオンズリーグ2022 グループG
メルボルンシティ FC vs 全南ドラゴンズ

2021年度 指導者ライセンス認定

指導者に関する規則第4条[ライセンスの認定]に基づき、右記の指導者養成講習会を修了し技術委員会が適格と認められた者に対し、ライセンスを認定した。

<2021年度A級コーチU-12ライセンス 合格者>

※2022年6月30日時点

伊藤隆文、高木卓、山本政彦、上垣卓也、上村剛史、上本慎一郎、西上和孝、中原洋平、中濱弓博、鄭秀哲、渡辺勇太、反田和宏、寺岡崇博

JFA・Jリーグ特別指定選手制度

- (1)選手 : 山田新(やまだ しん)
所属チーム: 桐蔭横浜大学サッカー部
受け入れ先: 川崎フロンターレ
所属歴 : 鴨江サッカースポーツ少年団
翠翔サッカークラブ
川崎フロンターレU-15
川崎フロンターレU-18
桐蔭横浜大学サッカー部

認定日 : 2022年6月14日

- (2)選手 : 鈴木俊也(すずき しゅんや)
所属チーム: 早稲田大学ア式蹴球部
受け入れ先: 大宮アルディージャ
所属歴 : 三島北フットボールクラブ
FRIENDLY-SC
FC東京U-15深川

次ページの上へ続く

早稲田実業学校
早稲田大学ア式蹴球部
認定日 : 2022年6月21日

(3)選手 : 高柳郁弥 (たかやなぎ ふみや)
所属チーム : 東洋大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 大宮アルディージャ
所属歴 : 浦和尾間木サッカースポーツ少年団
大宮アルディージャジュニアユース
大宮アルディージャユース
東洋大学体育会サッカー部
認定日 : 2022年6月21日

(4)選手 : 室井替佑 (むろい けいすけ)
所属チーム : 東洋大学体育会サッカー部

受け入れ先 : 大宮アルディージャ
所属歴 : 横河武蔵野フットボールクラブジュニア
横河武蔵野フットボールクラブジュニアユース
群馬育英学園私立前橋育英高校
東洋大学体育会サッカー部
認定日 : 2022年6月21日

(5)選手 : 佐川洸介 (さがわ こうすけ)
所属チーム : 東京国際大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 東京ヴェルディ
所属歴 : 江南南サッカー少年団
クマガヤサッカースポーツクラブ
セレッソ大阪U-18
東京国際大学体育会サッカー部
認定日 : 2022年6月28日

審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
Futsal Week U19 Summer Cup - Porec 2022	審判員	池田幸弘	6月18日～28日	クロアチア

天皇杯実施委員会委員の変更

NHKの人事異動に伴い、天皇杯実施委員会委員を右記の通り変更する。

現)五十畑与志 (NHKメディア総局展開センター チーフプロデューサー)
新)森龍太 (NHKメディア総局展開センター チーフプロデューサー)

JFAロングバйл人工芝ピッチ公認(更新)

【更新】

(1)申請者(施設所有者): 堺市
施設名 : J-GREEN 堺 S15 (大阪府堺市堺区築港八幡町145)
使用製品 : 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EX II-55T
公認期間 : 2022年7月14日～2025年7月13日
公認番号 : 第181号

(2)申請者(施設所有者): 堺市
施設名 : J-GREEN 堺 S16 (大阪府堺市堺区築港八幡町145)

使用製品 : 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EX II-55T
公認期間 : 2022年7月14日～2025年7月13日
公認番号 : 第182号

<特記事項>

- ・使用製品は、JFAロングバйл人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングバйл人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



© JFA / アジア2次予選兼アジアカップ中国2023予選 対タジキスタン代表戦 先発メンバー (2021.6.7)

OFFICIAL PARTNER



OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES



サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアーフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの)Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会



- ① SAMURAI BLUE(日本代表) EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
- ② U-16日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ③ なでしこジャパン(日本女子代表) EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
- ④ U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑤ U-17日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑥ ビーチサッカー-日本代表 BSWW Mundialito Gran Canaria 2022
- ⑦ サッカー-e日本代表 FIFAe Nations Cup 2022
- ⑧ JFA ストライカーキャンプ
- ⑨ JFA エリートプログラムU-13フューチャー トレーニングキャンプ
- ⑩ 2022JFA ナショナルGKキャンプ
- ⑪ JFA フットサルGKキャンプ①
- ⑫ 女子GKキャンプ
- ⑬ 令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(男子)
- ⑭ 令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE(日本代表) EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会

<スタッフ>

※54~55ページに関連記事あり

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 横内昭展(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、上野優作(NCS)、羽田憲司(NCS) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 中下征樹(JFAテクニカルハウス)、酒井清考(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	大迫敬介	サンフレッチェ広島	MF/FW	橋本拳人	ヴィッセル神戸
	谷晃生	湘南ベルマーレ		野津田岳人*	サンフレッチェ広島
	鈴木彩艶*	浦和レッズ		脇坂泰斗	川崎フロンターレ
DF	佐々木翔	サンフレッチェ広島	西村拓真*	横浜F・マリノス	
	谷口彰悟	川崎フロンターレ	相馬勇紀	名古屋グランパス	
	山根視来	川崎フロンターレ	岩田智輝	横浜F・マリノス	
	轟中慎之輔	横浜F・マリノス	森島司	サンフレッチェ広島	
	小池龍太*	横浜F・マリノス	満田誠*	サンフレッチェ広島	
	中谷進之介	名古屋グランパス	町野修斗*	湘南ベルマーレ	
	荒木隼人	サンフレッチェ広島	細谷真大*	柏レイソル	
	大南拓磨*	柏レイソル	藤田銀瑠子マ*	横浜F・マリノス	
	杉岡大暉	湘南ベルマーレ	岩崎悠人*※2	サガン鳥栖	
	MF/FW	水沼宏太*	横浜F・マリノス	*: 初招集	
	武藤嘉紀※1	ヴィッセル神戸	※1: ケガのため不参加		
	宮市亮	横浜F・マリノス	※2: 追加招集		

<スケジュール>

7月17日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 18日 公式トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 19日 EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会
 第1節 vs 香港代表(茨城県立カシマサッカースタジアム)
 20~22日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 23日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 豊田へ移動(バス)
 24日 第2節 vs 中国代表(豊田スタジアム)
 25日 トレーニング(豊田市中央公園(芝生広場))
 26日 トレーニング(トヨタスポーツセンター)
 27日 第3節 vs 韓国代表(豊田スタジアム)
 解散

■香港代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ダクバ・アルゴロ・パウロ・セザール	傑志	MF	ファン・ウェイ	香港U23
	チェン・ジャハオ	理文		ヤオ・ハオミン	標準流浪
	ウー・ウェイチェン	冠忠南区		チェン・ジュンラ	広州城(CHN)
DF	トマス・マロネジ	傑志	LAW Tsz Chun	傑志	
	リヤン・グァンツォン	東方龍獅	フー・ジンミン	東方龍獅	
	フォン・チンイェ	東方龍獅	ジョン・ジャンロン	傑志	
	リヤン・ヌオホン	浙江プロフェッショナル(CHN)	市川聡悟	傑志	
	リュウ・シュエミン	標準流浪	マシュー・エリオット・ウィンカイ・オー	傑志	
	リリー・ヌニス・バステバ・ダス	梅州客家(CHN)	CHENG Siu Kwan	理文	
	シュ・ホンジェ	理文	スン・ミンチェン	東方龍獅	
	ルー・ズーナン	東方龍獅	ジェン・ジャホン	冠忠南区	
	ゾン・ウェイハン	傑志	ユー・ザイエン	標準流浪	
	MF	ジュ・インジー	南区足球会	CHN: 中国	
	シェ・ジャチャン	所属なし			

監督 ヨルン・アンデルセン

<スケジュール>

7月18日 公式トレーニング(茨城県立カシマサッカースタジアム)
 7月23日 公式トレーニング(豊田スタジアム)

■中国代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ハン・ジャチー	広州城	DF	ジャン・ションノン	上海申花
	ボン・ボン	崑山FC		Liang Shaowen	北京国安
	ファン・ズーハオ	南京城市	MF	トゥディ・ディリーミティ	長春亜泰
DF	ジャン・グァンタイ(ティム・ブラウン)	広州FC		ダイ・ウェイチュン	深圳FC
	ウェン・ジャバオ	上海申花	シュ・ユエ	深圳FC	
	シュ・ハオフォン	深圳FC	ファン・ジャフエイ	大連プロフェッショナル	
	シェンナー・イェリージャン	深圳FC	FW	タン・ロン	長春亜泰
	ハ・ユーボン	大連プロフェッショナル		チェン・グオカン	梅州客家
	スー・シーハオ	青島OCD		リウ・ルオファン	上海申花
	ファン・ハオ	山東泰山		ヤオ・シュチェン	河北FC
	ウー・シャオツン	広州FC	リウ・ジュルン	上海海港	
	チュー・チェンジェ	上海申花	タオ・ジャンノン	武漢三鎮	

監督 アレクサンダル・ヤンコビッチ

<スケジュール>

7月19日 公式トレーニング(豊田スタジアム)

■韓国代表 来日メンバー

ポジション	名前	所属	ポジション	名前	所属
GK	チョ・ヒョヌ	蔚山現代	MF	ナ・サンホ	FCソウル
	キム・ドンジュン	済州ユナイテッド		ファン・インボム	FCソウル
DF	ソン・ボムクン	全北現代モーターズ	キム・ミンギョ	全北現代モーターズ	
	キム・ヨングウォン	蔚山現代	パク・スンホ	全北現代モーターズ	
	ホン・チョル	大邱FC	キム・ドンヒョン	江原FC	
	クワン・ギョウウォン	ガンバ大阪 (JPN)	オム・ウォンサン	蔚山現代	
	キム・ジンス	全北現代モーターズ	ソン・ミンギョ	全北現代モーターズ	
	PARK JISU	金泉尚武	イ・ギヒョク	水原FC	
	キム・ムンファン	全北現代モーターズ	コ・ヨンジュン	浦項スティーラーズ	
	チョ・ユミン	大田ハナシチズン	カン・ソンジン	FCソウル	
MF	ユン・ジョンギョ	FCソウル	FW	チョ・ギョソン	金泉尚武
	キム・ジュソン	金泉尚武		チョ・ヨンウク	FCソウル
	クワン・チホク	金泉尚武			
	LEE YEONGJAE	金泉尚武			

監督 バウロ・ジョルジェ・ゴメス・ベント

<スケジュール>

7月19日 公式トレーニング(名古屋市港サッカー場)

順位	日本	韓国	中国	香港	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	300	000	600	7	2	1	0	9	0	9
2	韓国	003	300	300	6	2	0	1	6	3	3
3	中国	000	003	100	4	1	1	1	1	3	-2
4	香港	006	003	001	0	0	0	3	0	10	-10

※○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1節

SAMURAI BLUE 6 前半4-0 後半2-0 0 香港代表

●2022年7月19日 19:20 ●茨城県立カシマサッカースタジアム ●試合時間:90分
●審判員:[主審]アクラミ・ハサン(IRN) [副審]ファルハド・モラベジ(IRN)/ブディカ・クマラ・バトマシリ・ディアス(SRI) [第4の審判員]ガミニ・ニボン・ロベシュ(SRI) ●マッチコミッショナー:スチュワート・シェリ・ジョー(GUM) ●観衆:4,980人

日本(監督:森保一):[GK](23)鈴木彩艶 [DF](2)山根視来<-74'(24)大南拓磨>(3)谷口彰悟<-HT(4)中谷進之介>(5)島中楨之輔(13)杉岡大暉 [MF/FW](6)岩田智輝(9)西村拓真<-64'(10)岩崎悠人>(11)町野修斗(16)相馬勇紀<-64'(17)宮市亮>(18)水沼宏太<-64'(14)脇坂泰斗>(26)藤田譲瑠チマ

控え:(1)大迫敬介(12)谷晃生(7)野津田岳人(8)森島司(15)橋本拳人(19)佐々木翔(20)細谷真大(21)満田誠(22)荒木隼人(25)小池龍太

香港(監督:ヨルン・アンデルセン):[GK](18)バウロ・セザール・ダシウバ・アルゴロ [DF](5)シェ・ジャチャン(7)ルオ・ズー・ジュン<-77'(25)市川聡悟>(12)リャン・グァンツォン<-HT(3)シュ・ホンジェ>(21)ルー・ズナン(22)バスデバ・ダス・リリー・ヌニェス [MF](8)フー・ジンミン(10)ファン・ウェイ<-77'(11)ジョン・ジャンロン>(24)ジュ・インジー<-HT(6)チェン・ジュンラ> [FW](9)マシュー・エリオット・ウィンカイ・オー(23)ス・ミンチェン<-HT(17)ジェン・ジャホン>

控え:(1)ウー・ウェイチェン(19)チェン・ジャハオ(4)トマス・マロネジ(13)リュウ・シュエミン(16)ジョン・ジャオジュン(20)ヤオ・ハオミン(26)ゾン・ウェイハン

得点 [日本]2' 55' 相馬勇紀(1-0)(5-0)、20' 57' 町野修斗(2-0)(6-0)、22' 40' 西村拓真(3-0)(4-0)

警告 [香港]82' ルー・ズナン

第3節

SAMURAI BLUE 3 前半0-0 後半3-0 0 韓国代表

●2022年7月27日 19:20 ●豊田スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]リスクラエフ・アフロル(UZB) [副審]ウスマノフ・アリシェル(UZB)/ビン・アブドゥラ・ラシド・モハメド・アリフ・シャミル(MAS) [第4の審判員]アクラミ・ハサン(IRN) ●マッチコミッショナー:ジェイシン・ニャナ・カヌ・ムティアル(MAS) ●観衆:14,117人

日本(監督:森保一):[GK](12)谷晃生 [DF](3)谷口彰悟(5)島中楨之輔(19)佐々木翔(25)小池龍太 [MF/FW](6)岩田智輝(9)西村拓真<-78'(14)脇坂泰斗>(11)町野修斗(16)相馬勇紀<-87'(21)満田誠>(18)水沼宏太<-59'(17)宮市亮>(78'(8)森島司>(26)藤田譲瑠チマ<-87'(15)橋本拳人>

控え:(1)大迫敬介(23)鈴木彩艶(4)中谷進之介(7)野津田岳人(10)岩崎悠人(13)杉岡大暉(20)細谷真大(22)荒木隼人(24)大南拓磨

韓国(監督:バウロ・ジョルジェ・ゴメス・ベント):[GK](21)チョ・ヒョヌ [DF](3)キム・ジンス(4)チョ・ユミン(15)キム・ムンファン(18)パク・ジス<-68'(17)チョ・ヨンウク>(20)クワン・ギョウウォン [MF](7)ナ・サンホ(10)キム・ジンギョ<-85'(16)キム・ドンヒョン>(11)オム・ウォンサン<-56'(13)ソン・ミンギョ>(22)クワン・チャンフン<-68'(5)イ・ヨンジェ> [FW](9)チョ・ギョソン

控え:(1)キム・ドンジュン(12)ソン・ボムクン(2)ユン・ジョンギョ(8)パク・スンホ(14)ホン・チョル(19)イ・ジェイク(23)コ・ヨンジュン(24)キム・ジュソン(25)イ・ギヒョク(26)カン・ソンジン

得点 [日本]49' 相馬勇紀(1-0)、64' 佐々木翔(2-0)、72' 町野修斗(3-0)

警告 [日本]34' 島中楨之輔 [韓国]75' キム・ムンファン

第2節

SAMURAI BLUE 0 前半0-0 後半0-0 0 中国代表

●2022年7月24日 19:20 ●豊田スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ガミニ・ニボン・ロベシュ(SRI) [副審]ブディカ・クマラ・バトマシリ・ディアス(SRI)/ファルハド・モラベジ(IRN) [第4の審判員]リスクラエフ・アフロル(UZB) ●マッチコミッショナー:ジェイシン・ニャナ・カヌ・ムティアル(MAS) ●観衆:10,526人

日本(監督:森保一):[GK](1)大迫敬介 [DF](4)中谷進之介(19)佐々木翔<-62'(13)杉岡大暉>(22)荒木隼人(25)小池龍太 [MF/FW](7)野津田岳人(8)森島司<-81'(16)相馬勇紀>(14)脇坂泰斗<-81'(9)西村拓真>(15)橋本拳人(17)宮市亮<-69'(21)満田誠>(20)細谷真大<-62'(11)町野修斗>

控え:(12)谷晃生(23)鈴木彩艶(2)山根視来(3)谷口彰悟(5)島中楨之輔(6)岩田智輝(10)岩崎悠人(18)水沼宏太(24)大南拓磨(26)藤田譲瑠チマ

中国(監督:アレクサンダル・ヤンコビッチ):[GK](1)ハン・ジャチャー [DF](3)ウー・シャオツン(5)チュウ・チェンジェ(6)ジャン・グァンタイ(16)ウェン・ジャバオ<-55'(17)シュ・ハオフォン>(18)ハ・ユーボン<-79'(24)スー・シー・ハオ>(20)ファン・ハオ<-79'(22)リウ・ジュルン> [MF](8)ダイ・ウェイチュン(19)ファン・ジャフェイ<-67'(13)シュ・ユエ> [FW](11)タン・ノン(14)チェン・クワン<-67'(7)タオ・ジャンノン>

控え:(12)ボン・ボン(25)ファン・ズー・ハオ(2)シェンナー・イェリジャン(4)ジャン・ションノン(15)トウディ・ディリミティ(21)ヤオ・シュチェン(23)リャン・シャオウェン(26)リウ・ルオファン

警告 [中国]20' ハ・ユーボン、49' ファン・ジャフェイ

DATA BOX

U-16日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA 夢フィールド)

<スタッフ>

○監督: 森山佳郎(NCS) ○コーチ: 廣山望(NCS/JFAアカデミー福島) ○GKコーチ: 高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ: 村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ: 越智滋之(JFAテクニカルハウス) ○ロールモデルコーチ: 中村憲剛(JFA)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	田中亜理	柏レイソルU-18	MF	小竹知恩	清水エスパルスユース
	ステイマン・ジョシュア草太郎	ガンバ大阪ユース		望月耕平	横浜F・マリノスユース
	山下得真※1	横浜F・マリノスユース		今富輝也	ヴィッセル神戸U-18
DF	藤井葉大	飯塚高校	FW	白須健斗	横浜F・マリノスユース
	山本虎	青森山田高校		井上寛都	東京ヴェルディユース
	吉永夢希	神村学園高等部		兼野倭	市立船橋高校
	大場章太郎	サガン鳥栖U-18		山口豪太	FC LAVIDA
	土屋耀大	川崎フロンターレU-18		菅谷慎人※1	北海道コンサドーレ札幌U-18
	斉藤秀輝※2	大宮アルディージャU18		石山青空	アルビレックス新潟U-18
	鈴木悠仁	神村学園高等部		倉林佑成	ジェフユナイテッド千葉U-18
	國岡俊哉	興国高校		山本吟侍	高川学園高校
	三宮稜大	京都サンガF.C.U-18		山崎遥希	サガン鳥栖U-18
	久松大輝	興国高校		木吹翔太	サンフレッチェ広島ユース
佐藤海宏	鹿島アントラーズユース	仲山獅恩	東京ヴェルディジュニアユース		
MF	上原悠都※1	昌平高校	NED: オランダ ※1: 追加招集 ※2: ケガのため不参加		
	加藤篤寅	横浜FCユース			
	三角乃英	FCユトレヒトU-17 (NED)			

<スケジュール>

7月11日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
12日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
練習試合 vs ジェフユナイテッド市原・千葉U-18 (高円宮記念JFA夢フィールド)
13日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
14日 練習試合 vs 市立船橋高校(高円宮記念JFA夢フィールド)
練習試合 vs 日本体育大学柏高校(高円宮記念JFA夢フィールド)、解散

なでしこジャパン(日本女子代表) EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会

※ 56 ~ 57 ページに関連記事あり

<スタッフ>

○団長: 佐々木則夫(JFA女子委員長) ○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ	MF	齋本光	三菱重工浦和レッズレディース
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース		成宮唯	INAC神戸レオネッサ
	田中桃子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		三浦成美	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
DF	林香奈絵※3	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	FW	林穂之香	AIKフットボール(SWE)
	三宅史織※1	INAC神戸レオネッサ		長野風花	ノースカロライナ・カレッジ(USA)
	栗松瑠華	大宮アルディージャ VENTUS		宮澤ひなた	マイナビ仙台レディース
	清水梨紗	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		中嶋淑乃*	サンフレッチェ広島レジーナ
	清家貴子	三菱重工浦和レッズレディース		菅澤優衣香	三菱重工浦和レッズレディース
	宮川麻都	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		井上鏡香	大宮アルディージャ VENTUS
	高平美憂	マイナビ仙台レディース		上野真実	サンフレッチェ広島レジーナ
	宝田沙織	リンシェーピングFC(SWE)		千葉玲海菜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース		植木理子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	北川ひかる※2※3	アルビレックス新潟レディース		SWE: スウェーデン, USA: アメリカ *: 初招集 ※1: コンディション不良のため不参加 ※2: 追加招集 ※3: ケガのため離脱	
MF	杉田亜未	ノジマステラ神奈川相模原			

<スケジュール>

7月14日 集合、トレーニング(JFA夢フィールド・Aピッチ)
15~16日 トレーニング(JFA夢フィールド・Aピッチ)
17日 公式トレーニング(茨城県立カシマサッカースタジアム)
18日 トレーニング(JFA夢フィールド)
19日 EAFF E-1選手権2022決勝大会
第1節 vs 韓国女子代表(茨城県立カシマサッカースタジアム)
20~21日 トレーニング(JFA夢フィールド・Bピッチ)
22日 トレーニング(JFA夢フィールド)
23日 第2節 vs チャイニーズ・タイペイ女子代表(茨城県立カシマサッカースタジアム)
24日 トレーニング(JFA夢フィールド・Aピッチ)
25日 トレーニング(JFA夢フィールド)
26日 第3節 vs 中国女子代表(茨城県立カシマサッカースタジアム)
27日 解散

■韓国女子代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	キム・ジョンミ	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC	MF	イ・ミンア	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC
	ユン・ヨング	所属なし		チャン・チャン	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC
	リュ・ジス	ソウル・シティ・アマゾネスWFC		キム・ソンミ	世宗スポーツトWFC
DF	シム・ソヨン	ソウル・シティ・アマゾネスWFC	FW	パク・ウンソン	ソウル・シティ・アマゾネスWFC
	キム・ヘリ	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC		キム・ユンジ	水原FC WFC
	イム・ソング	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC		チョン・ウナ	水原FC WFC
	イ・ヨング	マドリッドCFP(ESP)		チェ・ユリ	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC
	チャン・セルギ	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC		ソン・ファヨン	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC
	ホン・ヘジ	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC		カン・チェリム	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC
	チョン・ユジン	現代製鉄レッド・エンジェルス女子FC		チュ・ヒョジュ	水原FC WFC
	MF	チョ・ソヒョン		トッテナム・ホットスパー女子(ENG)	コ・ミンジョン
	チ・ソヨン	水原FC WFC	チャン・ユビン	ソウル・シティ・アマゾネスWFC	

監督 コリン・ベル

<スケジュール>

7月18日 公式トレーニング(茨城県立カシマサッカースタジアム)

■チャイニーズ・タイペイ女子代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ツァイ・ミンロン	JNG藍鯨	DF	リー・ベイロン	JNG藍鯨
	ジュ・ファンイー	花蓮		ドン・ベイリン	航源
	チョン・スーユー	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース(JPN)		チェン・イェンピン	航源
DF	ワン・ユータイン	台北熊讚	MF	チャン・ピーハン	花蓮
	チャン・スーシン	航源		ディン・チー	航源
	リン・ヤーハン	台北熊讚		シュ・イーユン	花蓮
	ライ・ウェイル	JNG藍鯨		リャン・カイロウ	UNG陽信
	パン・イェンシン	花蓮		ジュオ・リーピン	花蓮
	チャン・ジーラン	JNG藍鯨		ラン・ユージェ	UNG陽信
	スー・シンユン	航源		ディン・ジャイン	台北熊讚
	パン・シンユ	JNG藍鯨		ライ・リーチン	JNG藍鯨
	チェン・インフェイ	航源		ウー・カイチン	UNG陽信
	ジャン・ズーヌオ	台北熊讚		スー・ユージェン	JNG藍鯨

監督 イェン・シーカイ

<スケジュール>

7月18日 公式トレーニング(豊田スタジアム)
7月22日 公式トレーニング(茨城県立カシマサッカースタジアム)

JPN: 日本

中国女子代表 来日メンバー

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	シュ・ユエ	上海WFC	MF	ウ・ハイヤン	武漢WFC
	シュ・ファン	江蘇WFC		ワン・シヤオジュエ	武漢WFC
	パン・ホンイエン	北京WFC		ワン・シュアン	武漢WFC
DF	チャン・ルイ	山東WFC	リ・モシウエン	江蘇WFC	
	ワン・シヤシヤン	北京WFC	ヤオ・リンウェイ	武漢WFC	
	ロウ・チアファイ	武漢WFC	ハ・チヤオフェン	北京WFC	
	ヤン・リナ	上海WFC	ヤオ・ウェイ	武漢WFC	
	タン・チアリ	上海WFC	チャン・リシイエン	武漢WFC	
	ツン・ドウアン	長春WFC	FW	リ・チアユエ	上海WFC
	リュ・ユエユン	長春WFC		チャシ・ツシ	上海WFC
リウ・イエンチウ	武漢WFC	ウ・チョンシュ		江蘇WFC	
MF	シャオ・ユイ	上海WFC	ワン・リンリン	上海WFC	
	ガオ・チエン	長春WFC	ワン・チアヤオ	四川WFC	

監督 シュイ・チンシャ

<スケジュール>

7月18日 公式トレーニング(豊田スタジアム)
7月22日 公式トレーニング(茨城県立カシマサッカースタジアム)

順位	日本	中国	韓国	対戦相手	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	0△0	2○1	4○1	7	2	1	0	6	2	4
2	中国	0△0	1△1	2○0	5	1	2	0	3	1	2
3	韓国	1●2	1△1	4○0	4	1	1	1	6	3	3
4	チャイニーズ・タイペイ	1●4	0●2	0●4	0	0	0	3	1	10	-9

※○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1節

なでしこジャパン **2** (前半1-0 後半1-1) **1** 韓国女子代表

●2022年7月19日 16:00 ●茨城県立カシマサッカースタジアム ●試合時間:90分
●審判員:[主審]チャイサニット・パンサ(THA) [副審]ヒントン・スパワン(THA)ノド
ンジャンリード・ヌアンニト(THA) [第4の審判員]ジェスウィッツ・キャサリン・マ
ガレット(AUS) ●マッチコミッショナー:スチュワート・シェリ・ジョー(GUM) ●観衆:
2,221人

日本(監督:池田太):[GK](18)田中桃子 [DF](2)清水梨紗(3)宝田沙織(4)高橋はな(12)
乗松瑠華 [MF](7)宮澤ひなた<-90+2'(22)上野真実>(8)猶本光<-HT(14)杉田
亜未>(10)長野風花(16)林穂之香(17)成宮唯<-69'(15)千葉玲海菜> [FW](19)植木
理子<-86'(25)清家貴子>

控え:(1)山下杏也加(21)平尾知佳(5)北川ひかる(6)宮川麻都(9)菅澤優衣香(13)井上綾
香(20)三浦成美(23)中嶋淑乃(24)林香奈絵(26)高平美憂

韓国(監督:コリン・ベル):[GK](18)キム・ジョンミ [DF](4)シム・ソヨン(6)イム・ソンジュ
(16)チャン・セルギ(17)イ・ヨンジュ<-71'(14)チョン・ウナ>(20)キム・ヘリ [MF](8)
チョン・ソヒョン(10)チョン・ソヨン [FW](2)チュ・ヒョジュ<-77'(9)パク・ウンソン>(11)チ
ェ・ユリ<-87'(22)チャン・ユビン>(19)ソン・ファヨン<-71'(23)カン・チェリム>

控え:(1)ユン・ヨングル(21)リュ・ジス(3)ホン・ヘジ(5)チャン・チャン(7)イ・ミンシア(12)チ
ョン・ユジン(13)キム・ユンジ(15)キム・ソンミ(24)コ・ミンジョン

得点 [日本]33'宮澤ひなた(1-0)、65'長野風花(2-1) [韓国]59'チョン・ソヨン(1-1)

警告 [日本]88'高橋はな

第2節

なでしこジャパン **4** (前半2-1 後半2-0) **1** チャイニーズ・タイペイ女子代表

●2022年7月23日 15:30 ●茨城県立カシマサッカースタジアム ●試合時間:90分
●審判員:[主審]ベルナツカイア・ペロニカ(KGZ) [副審]ウヌルジャルガル・バトツェツ
エグ(MNG)/ゲイ・ブラウン(MYA) [第4の審判員]ティン・ティン・エイ(MYA) ●マ
ッチコミッショナー:スチュワート・シェリ・ジョー(GUM) ●観衆:1,051人

日本(監督:池田太):[GK](21)平尾知佳 [DF](3)宝田沙織<-66'(12)乗松瑠華>(6)宮
川麻都(24)林香奈絵<-39'(26)高平美憂>(25)清家貴子 [MF](8)猶本光<-90'(14)
杉田亜未>(20)三浦成美(23)中嶋淑乃<-HT(5)北川ひかる> [FW](13)井上綾香(15)
千葉玲海菜(22)上野真実<-66'(9)菅澤優衣香>

控え:(1)山下杏也加(18)田中桃子(2)清水梨紗(4)高橋はな(7)宮澤ひなた(10)長野風花
(16)林穂之香(17)成宮唯(19)植木理子

チャイニーズ・タイペイ(監督:イェン・シーカイ):[GK](1)ツァイ・ミンロン [DF](2)チャン
・ジラン(10)リン・ヤンハン(14)スー・シンユン(22)リー・ベイロン<-HT(16)チャン・ス
ーシン> [MF](7)チェン・イェンピン(8)ディン・ジャイン<-65'(6)ジェオ・リーピン>
(26)ジャン・ビーハン<-84'(9)シュ・イーユン> [FW](11)ライ・リーチン(19)スー・ユ
ーシェン<-84'(15)リャン・カイロウ>(23)ウー・カイチン<-65'(4)ライ・ウェイル->

控え:(12)ジュ・ファンイー(18)チョン・スーユ(25)ワン・ユティン(5)パン・シンユ(13)
パン・イェンシン(17)ディン・チー(20)チェン・インフェイ(21)ドン・ベイリン

得点 [日本]14'千葉玲海菜(1-1)、45+3'上野真実(2-1)、58'清家貴子(3-1)、72'菅澤優
衣香(4-1) [チャイニーズ・タイペイ]8'スー・シンユン(0-1)

第3節

なでしこジャパン **0** (前半0-0 後半0-0) **0** 中国女子代表

●2022年7月26日 19:20 ●茨城県立カシマサッカースタジアム ●試合時間:90分
●審判員:[主審]チャイサニット・パンサ(THA) [副審]ヒントン・スパワン(THA)ノド
ンジャンリード・ヌアンニト(THA) [第4の審判員]ベルナツカイア・ペロニカ(KGZ) ●
マッチコミッショナー:スチュワート・シェリ・ジョー(GUM) ●観衆:901人

日本(監督:池田太):[GK](1)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗(3)宝田沙織(4)高橋はな(6)
宮川麻都 [MF](7)宮澤ひなた(10)長野風花(16)林穂之香 [FW](13)井上綾香<-65'
(17)成宮唯>(15)千葉玲海菜<-80'(25)清家貴子>(19)植木理子<-90+2'(9)菅澤優
衣香>

控え:(18)田中桃子(21)平尾知佳(8)猶本光(12)乗松瑠華(14)杉田亜未(20)三浦成美(22)
上野真実(23)中嶋淑乃(26)高平美憂

中国(監督:シュイ・チンシャ):[GK](1)シュ・ユエ [DF](10)チャン・ルイ<-78'(6)チャン
・シン>(11)ワン・シヤシヤン(20)シャオ・ユイ<-HT(19)チャン・リンイエン> [MF](3)
ワン・シヤオジュエ(7)ワン・シュアン<-65'(18)タン・チアリ>(8)ヤオ・ウェイ(16)ヤオ
・リンウェイ(23)ガオ・チエン [FW](2)ワン・リンリン(15)ウ・チョンシュ<-65'(21)ソン
・ドウアン>

控え:(12)シュ・ファン(22)パン・ホンイエン(4)リ・チアユエ(5)ウ・ハイヤン(9)リュ・ユエ
ユン(13)ヤン・リナ(14)ロウ・チアファイ(17)リウ・イエンチウ(24)ハ・チヤオフェン(25)リ
・モンウエン

警告 [中国]73'ワン・リンリン

U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○監督:池田太(NCS) ○コーチ:宮本ともみ(NCS) ○GKコーチ:西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ:大塚慶輔(NCS) ○テクニカルスタッフ:寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	石田心葉	早稲田大学	MF	吉田莉胡	ちふれASエルフェン埼玉
	福田史織	三菱重工浦和レッズレディース		岩崎心南	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	大塚朱羽	イーストテネシー州立大学		天野紗	INAC神戸レオネッサ
DF	野田にな	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	FW	大山愛笑	日テレ・東京ヴェルディメニナ
	西野朱音	マイナビ仙台レディース		松窪真心	JFAアカデミー福島
	長江伊吹	AC長野パルセイロ・レディース		林愛花	JFAアカデミー福島
	田畑晴菜	セレッソ大阪堺レディース		島田芽依	三菱重工浦和レッズレディース
	杉澤海星	大宮アルディージャ VENTUS		山本柚月	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	竹重吉歌理※1	INAC神戸レオネッサ		西尾葉音	三菱重工浦和レッズレディース
	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース		藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
佐々木里緒	JFAアカデミー福島	土方麻那	日テレ・東京ヴェルディメニナ		
MF	渡部麗	日体大SMG横浜		浜野まいか	INAC神戸レオネッサ

※1:コンディション不良のため不参加

<スケジュール>

7月7日 集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 8日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 練習試合 vs 全日本女子大学選抜(高円宮記念JFA夢フィールド)
 9日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 10日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 練習試合 vs U-20韓国女子代表(高円宮記念JFA夢フィールド)
 11日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)、解散

U-17日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(千葉・福島)

<スタッフ>

○監督:狩野信久(NCS/SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ:有町紗央里(NCS/マイナビ仙台レディース) ○GKコーチ:井嶋正樹(NCS) ○フィジカルコーチ:山田庸(びわこ成蹊スポーツ大学) ○テクニカルスタッフ:寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	ウルク・ジェシカ結実	日テレ・東京ヴェルディメニナ	MF	柴田謙	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ
	鹿島彩莉	JFAアカデミー福島		今野真帆	三菱重工浦和レッズレディースユース
	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ		松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメニナ
DF	大矢さくら	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ	FW	真城美春	日テレ・東京ヴェルディメニナ
	田家海風※1	マイナビ仙台レディースユース		梶井美和子	INAC神戸レオネッサ
	橘さやみ	セレッソ大阪堺ガールズ		オーライリー詩奈	聖カピタニオ女子高校
	中谷莉奈	セレッソ大阪堺ガールズ		高岡澤	藤枝順心高校
	吉岡心	JFAアカデミー福島		橘渡百花	日テレ・東京ヴェルディメニナ
	岡村来佳	三菱重工浦和レッズレディースユース		辻澤亜唯	藤枝順心高校
	中嶋琉七	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ		古賀塔子	JFAアカデミー福島
MF	谷川萌々子	JFAアカデミー福島	前原薫乃	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	久保田真生	藤枝順心高校	板村真央	JFAアカデミー福島	
	丸井優奈	セレッソ大阪堺ガールズ			
	白垣うの	セレッソ大阪堺レディース			

※1:ケガのため途中離脱

<スケジュール>

7月8日 集合
 9日 練習試合 vs 神奈川大学<女子>(稲毛海浜公園スポーツ施設球技場)
 10日 トレーニング
 練習試合
 11日 トレーニング(稲毛海浜公園スポーツ施設球技場)
 移動
 12日 トレーニング(Jヴィレッジ)
 13日 トレーニング(Jヴィレッジ)
 練習試合 vs 東日本国際大学附属昌平高校<男子>(Jヴィレッジ)
 14日 トレーニング(Jヴィレッジ)
 移動、解散

ビーチサッカー日本代表 BSWW Mundialito Gran Canaria 2022

<スタッフ>

○選手兼監督:茂村羅オズ(NCS/東京ヴェルディBS) ○コーチ:田畑輝樹(NCS/ヴァアティン三重BS) ○GKコーチ:宜野座寛也(ソーマブライア沖縄) ○フィジカルコーチ:田中章博(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	道畑俊輔	東京ヴェルディ BS	FP	木松祐樹	アヴェルダージ熊本BS
	河合雄介	東京ヴェルディ BS		山田貴仁*	東京ヴェルディ BS
FP	茂村羅オズ	東京ヴェルディ BS	伊藤龍之介	ラソアペーゴ北九州	
	赤根卓弥	ラソアペーゴ北九州	齋藤凱也	ソーマブライア沖縄	
	大塚崇晃	レーヴェ横浜	田中颯	東京ヴェルディ BS	

*:初召集

<スケジュール>

7月16日 集合
 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド ビッチ・カリオカ)
 17日 トレーニング(ビッチ・カリオカ)
 羽田空港発
 グラン・カナリア島到着
 18日 トレーニング(Playa del Inglés, San Bartolomé de Tirajana)
 19日 公式トレーニング(Playa del Inglés, San Bartolomé de Tirajana)
 20日 第1戦 vs ビーチサッカーポルトガル代表 (Playa del Inglés, San Bartolomé de Tirajana)
 21日 第2戦 vs ビーチサッカースペイン代表 (Playa del Inglés, San Bartolomé de Tirajana)
 22日 第3戦 vs ビーチサッカーアメリカ代表 (Playa del Inglés, San Bartolomé de Tirajana)
 23日 グラン・カナリア島発
 24日 成田空港着、解散
 25日

第1戦

ビーチサッカー 日本代表 **5** (第1ピリオド3-2, 第2ピリオド1-3, 第3ピリオド1-2) **7** ビーチサッカー ボルトガル代表

●2022年7月21日 16:16 ●Playa del Inglés, San Bartolomé de Irajana/Gran Canaria ●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	2	△	田中颯
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	齋藤凱也
FP	7	○	大場崇晃	FP	19	△	山田貴仁
FP	3	○	伊藤龍之介	FP	13	△	木船祐樹
FP	6	○	赤熊卓弥				
GK	21	△	道畑俊輔	監督			茂怜羅オズ

得点 2'失点(0-1)、4'失点(0-2)、8'河合雄介(1-2)、10'木船祐樹(2-2)、11'赤熊卓弥(3-2)、13'失点(3-3)、16'失点(3-4)、23'大場崇晃(4-4)、23'失点(4-5)、29'失点(4-6)、32'赤熊卓弥(5-6)、35'失点(5-7)

第2戦

ビーチサッカー 日本代表 **8** (第1ピリオド2-1, 第2ピリオド2-0, 第3ピリオド4-1) **2** ビーチサッカー スペイン代表

●2022年7月22日 19:00 ●Playa del Inglés, San Bartolomé de Irajana/Gran Canaria ●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	2	△	田中颯
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	齋藤凱也
FP	7	○	大場崇晃	FP	19	△	山田貴仁
FP	13	○	木船祐樹	FP	3	△	伊藤龍之介
FP	6	○	赤熊卓弥				
GK	21	△	道畑俊輔	監督			茂怜羅オズ

得点 1'赤熊卓弥(1-0)、8'田中颯(2-0)、8'失点(2-1)、13'赤熊卓弥(3-1)、23'木船祐樹(4-1)、26'茂怜羅オズ(5-1)、29'赤熊卓弥(6-1)、33'赤熊卓弥(7-1)、35'赤熊卓弥(8-1)、35'失点(8-2)

第3戦

ビーチサッカー 日本代表 **0** (第1ピリオド0-1, 第2ピリオド0-0, 第3ピリオド0-1) **2** ビーチサッカー アメリカ代表

●2022年7月23日 16:15 ●Playa del Inglés, San Bartolomé de Irajana/Gran Canaria ●試合時間:12分×3ピリオド

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	河合雄介	FP	2	△	田中颯
FP	10	○	茂怜羅オズ	FP	5	△	齋藤凱也
FP	7	○	大場崇晃	FP	19	△	山田貴仁
FP	13	○	木船祐樹	FP	3	△	伊藤龍之介
FP	6	○	赤熊卓弥				
GK	21	△	道畑俊輔	監督			茂怜羅オズ

得点 4'失点(0-1)、32'失点(0-2)

サッカーe日本代表 FIFAe Nations Cup 2022

※59ページに関連記事あり

<選手>

プレイヤーネーム	名前	所属
黒豆	森本貴仁	CYCLOPS athlete gaming
youxme	武笠秀星	無所属
Agu	中島奨	Blue United eFC
Jay	田野入潤	川崎フロンターレ
Web Nasri	青木太一	鹿島アントラーズ

【グループステージB】

※日本関連のみ掲載/キックオフ欄、()内は日本時間

日程	キックオフ時間	対戦チーム・選手	選手	試合結果
7月27日(水)	18:05(28日1:05)	Round 1 eフランス代表 LJR_Peixoto / Fouma	WebNasri / 黒豆	● 0-2
	18:30(28日1:30)	Round 2 eドイツ代表 Musti / Umut	WebNasri / Agu	● 0-3
	18:55(28日1:55)	Round 3 eスウェーデン代表 Ollelito / Oliboli	Agu / 黒豆	△ 0-0
	19:40(28日2:40)	Round 4 eアラブ首長国連邦代表 iAlawe12 / A7madals	WebNasri / Agu	△ 1-1
	20:05(28日3:05)	Round 5 eペルー代表 Dms10_fc / Magic	WebNasri / Agu	○ 1-0
7月28日(木)	18:05(29日1:05)	Round 6 eフランス代表 LJR_Peixoto → NKanteeee / Fouma	WebNasri / Agu	● 1-4
	18:30(29日1:30)	Round 7 eドイツ代表 Musti / Umut	WebNasri / Agu	△ 2-2
	18:55(29日1:55)	Round 8 eスウェーデン代表 Ollelito / Optolle	WebNasri / Agu	● 1-3
	19:40(29日2:40)	Round 9 eアラブ首長国連邦代表 A7madals / SalemXavi6	Agu / 黒豆	● 0-3
	20:05(29日3:05)	Round 10 eペルー代表 Elegpt97 / Dms10_fc	WebNasri / 黒豆	○ 2-0

※e日本代表は、5位でグループステージ敗退(グループ内で4位までがノックアウトステージに進出)
※会場はコペンハーゲン/Bella Arena

【大会結果】優勝:ブラジル、準優勝:ポーランド、第3位:イタリア、スウェーデン

JFA ストライカーキャンプ(静岡)

<スタッフ>

○コーチ:城和憲(JC)、手倉森浩(JC) ○ゲストコーチ:玉田圭司(V・ファーレン長崎)、平山相太(筑波大学) ○GKコーチ:加藤好男(JC) ○フィジカルコーチ:村岡誠(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)、中村大輔(JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	<スケジュール> 7月1日~3日 トレーニング(静岡)
FP	塩尻哲平	セレッソ大阪 西U-15	FP	大見咲新	名古屋グランパスU-15	
	原櫻太	ファジアーノ岡山U-15		齋藤浩司	JFAアカデミー福島EAST	
	和久井博斗	ながいユナイテッドフットボールクラブ		佐藤利仁	FC FUORICLASSE SENDAI	
	原田蓮太郎	サガン鳥栖U-15		安井司	ガンバ大阪ジュニアユース	
	増村凌久	ロアッソ熊本ジュニアユース		瀬谷駿太	奥州ユナイテッドFC Jrユース	
	伏原利空	神村学園中等部		浦川慶	AS. ラランジャ豊川U15	
	梶浦瑛太	レノファ山口FC U-15		田中陽瑛	横浜F・マリノスジュニアユース	
	藤又悠月	湘南ベルマーレU-15		多田蒼生	北海道コンサドーレ札幌U-15	

JFA エリートプログラムU-13フューチャー トレーニングキャンプ(Jヴィレージ)

<スタッフ>

○監督:鈴木貴浩(JC) ○コーチ:星原隆昭(JC)、辻田純(カマタマーレ讃岐U-15コーチ) ○GKコーチ:田口哲雄(JC)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	<スケジュール> 6月22日 トレーニング(Jヴィレージ) 23日 トレーニング(Jヴィレージ) 練習試合(Jヴィレージ) 24日 トレーニング(Jヴィレージ) 25日 練習試合(Jヴィレージ) 26日 トレーニング(Jヴィレージ)
GK	川中碧音	セレッソ大阪西U-15	FP	阿部心	アルビレックス新潟U-15	
	酒井孝大	モンテディオ山形ジュニアユース村山		菊池瑠生	北海道コンサドーレ札幌U-15	
FP	村井敬太	刈谷JY		北川陸	ジュビロ磐田U-15	
	龍田佳斗	大宮アルディージャU15		宮崎叶	ソレックス熊本	
	正法地有	サンフレッチェ広島F.C. ジュニアユース		森伊織	セレッソ大阪西U-15	
	松坂泰志	北海道コンサドーレ札幌U-15		五十嵐隼*1	柏レイソルU-15	
	長田愛澄斗	三菱養和SC調布ジュニアユース		小野輝竜*2	サガン鳥栖U-15	
	前田旺世	坂井フェニックス丸岡ジュニアユース		板橋草弥	SHOSHI FC U-15	
	蓮池牙朗	ガンバ大阪ジュニアユース		軒原陸	シーガル広島ジュニアユース	
	黒木蓮	ブラウブリッツ秋田ジュニアユース		徳山湧哉*3	セレッソ大阪U-15	
	中山琉真	JFAアカデミー福島U-15EAST		秋元大樹*3	JFAアカデミー福島U-15EAST	
	塩見勇貴	愛媛FC U-15				
	竹内隼	徳島ヴォルティスジュニアユース				

*1: コンディション不良のため途中離脱
*2: ケガのため不参加
*3: 追加招集

2022JFA ナショナルGK キャンプ(Jヴィレージ)

<スタッフ>

○コーチ:フランス・フック(JFA GKプロジェクトテクニカルアドバイザー)、川俣則幸(JC)、加藤好男(JC)、大橋昭好(JC)、田口哲雄(JC)、阿部陽輔(JFAアカデミー福島EAST U-15)、橋本晃義(JC / LIALL GK ACADEMY)、高原寿康(JFAアカデミー福島WEST U-15)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	<スケジュール> 7月8日~10日 トレーニング(Jヴィレージ)
GK	齋藤陽乃心	JFAアカデミー福島EAST U-15	GK	佐藤蒼起*1	FC東京U-15深川	
	中辻結太	湘南ベルマーレU-15 WEST		伊藤大倫	ベガルタ仙台ジュニアユース	
	山田竜之介	清水エスパルス ジュニアユース		宮本有慈主	武生フットボールクラブ・Jrユース	
	西村圭太	高知中学校		枝川航大	ソレックス熊本U-15	
	山崎大輝	松本山雅FC U-15		石田眞心	ウイングスサッカークラブ	
	庄林凜太郎	根室市立光洋中学校		細見泰太	篠山中学校	
	小島望蒼	東京ヴェルディ ジュニアユース		関優仁	ヴィッセル神戸U-15	
	坂田康祐	セレッソ大阪U-15		小笠原謙伸	愛媛FC U-15	
	天埴笙太	カマタマーレ讃岐 U-15		川上孟徳	サンフレッチェくびきフットボールクラブ	
	藤ヶ谷陽歩	ガンバ大阪ジュニアユース		岡野恭輝*2	朝日塾中学校	
	佐藤大翔	JFAアカデミー福島EAST U-15				

*1: コンディション不良のため不参加
*2: 追加招集

JFA フットサルGK キャンプ①(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

○GKコーチ: 内山慶太郎(JFAフットサルGKプロジェクトリーダー) ○アシスタントGKコーチ: 阿久津貴志(JFAフットサルGKプロジェクト/湘南ベルマーレフットサルクラブ)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	<スケジュール> 7月23日~24日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
GK	井戸孔農	Y.S.C.C.横浜	GK	伊藤貴大	上田西高校	
	川上翼	名古屋オーシャンズ サテライト		入江悠斗	フウガドールすみだファルコンズ	
	松谷健吾	フウガドールすみだバッファローズ		新井大樹	メッセ天下茶屋FC U-18	
	古館幸真	多摩大学		熊澤凜太郎	東急SレイエスFC フットサルU-18	
	西野立晟	相生学院高校		野崎叶翔	FCクラッキス松戸	

女子GKキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

<スタッフ>

OGKコーチ(チーフ): 西入俊浩(JC) OGKコーチ: 井嶋正樹(JC)、本村俊三(JC/札幌大谷学園)、宇津江智保(JC/群馬県サッカー協会)、櫛引実(JC/JFAアカデミー堺)

<選手>

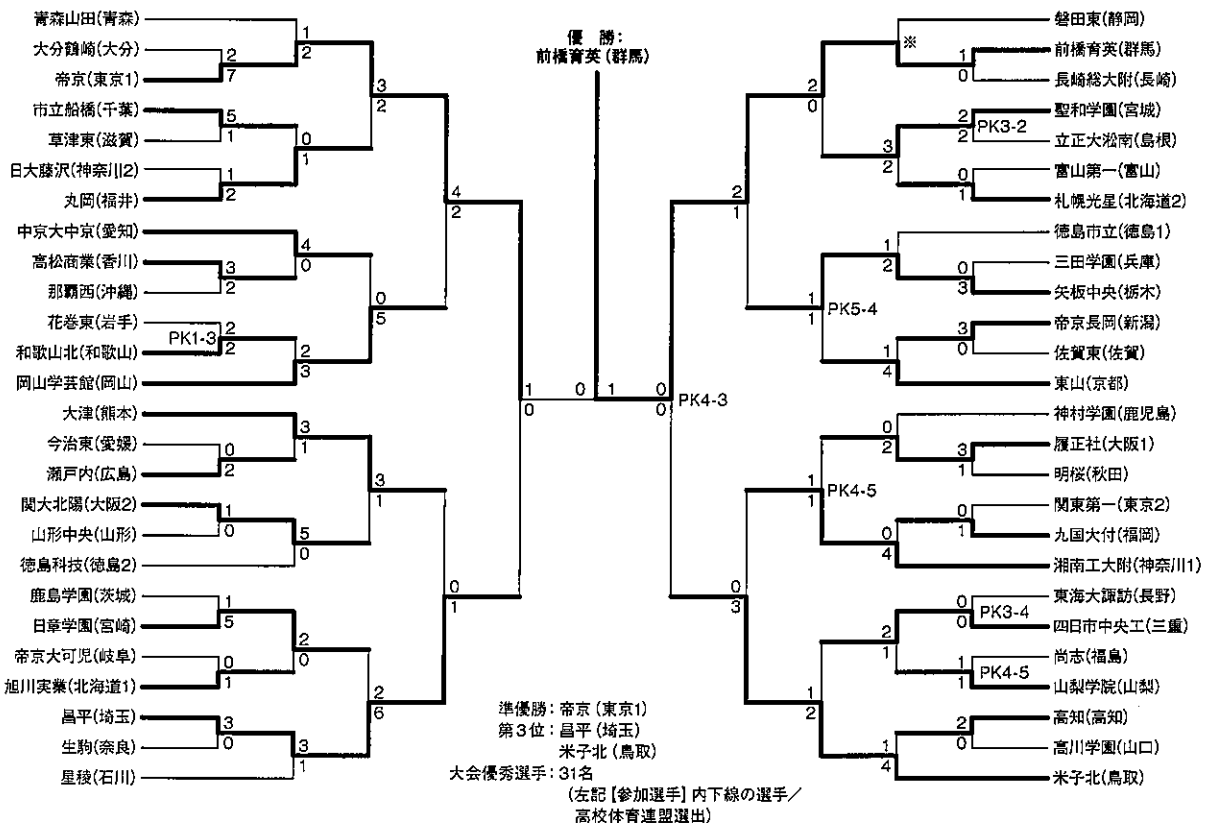
Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	永井愛理	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	GK	瀬戸如紗	マイナビ仙台レディースジュニアユース	GK	若月りる葉	JFAアカデミー三福島
	湯ノ口愛佑菜	FCヴィトーリア		西結来	モゼーラ鹿児島		東愛結	クラベリーナ東住吉
	伊藤楓夏	北海道リパコンサドレ		神田瑠伽	京都精華学園中学校		金谷帆夏	湘南ユナイテッドU15ガールズ
	進藤真奈花	ANCLASノーヴァ		澤浦花穂	ちふれASエルブジュ玉マリアU-15		朴木穂乃	十勝FSリトルガールズU-15
	寺本唯香	大宮アルディージャ VENTUS U15		三治花音	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		小原梨香	FC.ZONE
	宮越杏純	松本山雅FCレディースU-15		坂井真緒	京都麗陽FC		国場瑞音	横須賀シーガルズBES
	筑紫紗良	アスフィーダ熊本U-15Nina		佐藤りのあ	マイナビ仙台レディースジュニアユース			

<スケジュール>
7月1日~3日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(男子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、徳島県、徳島市、鳴門市、阿南市、吉野川市、板野町および宮教育委員会、JFAの主催で、7月24日~30日に62校が参加して徳島県で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟かつ2022年JFA第2種登録を完了した2003(平成15)年4月2日以後生まれの選手に限られた。

※60ページに関連記事あり



準決勝

帝京 1 (前半0-0、後半1-0) 0 昌平

●2022年7月29日 11:30 ●鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]伊勢裕介 [副審]秦泉寺川/山口亮太 [第4の審判員]池田元 ●マッチインスペクター:三井耕 ●観衆:426人

帝京(監督:日比成):[GK](1)川瀬順慎 [DF](2)島貴琢士(4)梅木怜(6)大田知輝(20)並木雄飛 [MF](7)松本瑠雅<-70+7'(3)小林佳太>(15)藤崎巧士(18)田中遥穂 [FW](9)橋本マリック(11)山下凜>(10)伊藤聡太<-70+6'(19)前野翔平>(13)齊藤慈斗<-70+4'(12)前浜誠意>

控え:(16)大橋颯(5)藤本優翔(8)押川優希(14)山崎湘太(17)横山夢樹

昌平(監督:藤島崇之):[GK](1)上林真斗 [DF](2)武村圭祐(3)上原悠都<-65'(12)田中隼生>(5)石川穂高(13)佐野賀大門 [MF](6)佐藤海空斗<-44'(10)荒井悠汰>(7)土谷飛雅(14)佐々木小太郎(19)大谷湊斗<-35+1'(11)篠田翼> [FW](15)鄭志錫<-65'(9)小田暁平>(17)伊藤風河<-HT(8)長津喜>

控え:(16)葛西天河(4)津久井佳祐(18)平叶大(20)三浦悠代

得点 [帝京]61'山下凜(1-0)

警告 [昌平]62'上原悠都

準決勝

前橋育英 0 (前半0-0、後半0-0) 0 米子北

●2022年7月29日 11:30 ●徳島市球技場第1競技場 ●試合時間:70分、PK ●審判員:[主審]村田裕紀 [副審]平島一起/宮崎扇空 [第4の審判員]佐々木慎哉 ●マッチインスペクター:木川田博信 ●観衆:150人

前橋育英(監督:山田耕介):[GK](1)雨野翼真<-70+5'(12)大澤清人> [DF](4)齋藤駿(6)山内恭輔(11)井上駿也真(13)杉山陽太 [MF](8)大久保帆人(14)徳永涼(17)山田皓生<-15'(18)堀川直人>(19)青柳龍次郎 [FW](9)小池直矢(10)高足善<-55'(7)根津元輝>

控え:(2)茂木碧生(3)齋藤颯太(5)斎藤航汰(15)山本颯太(16)眞玉橋宏亮(20)芦田悠真

米子北(監督:中村真吾):[GK](1)島山壯哉 [DF](2)森川和軌(4)野田徹生(5)倉田大雅(16)梶原志志<-70+2'(12)森田尚人>(19)石倉亜蓮 [MF](7)浅野翼真<-40'(14)長谷川暉>(10)中井唯斗(15)仲田堅信<-43'(6)上原颯太> [FW](8)小橋川海斗<-43'(3)青戸幸輝>(9)福田秀人

控え:(17)西山飛源(11)小坂豪(13)音田英琉(18)藤原壮志郎(20)田村郁颯

PK: [前橋育英](7)○(14)○(9)○(19)○ [米子北]先(9)○(5)○(4)×(10)○(2)×

【参加選手】

<旭川実業高校> 監督: 菅原徹雄

石川佳吾・立花虎太郎・尾池泰知・荒谷笙吉・酒井柚稀・庄子羽琉・鎌田颯太・長谷川羽空・五十嵐大都・山本直矢・板垣侃秀・櫻山一生・渡辺健斗・安保悠輝・大澤龍明・和嶋陽佳・鈴木健斗・須見奏詩・磯城温人・田中裕元

<札幌光星高校> 監督: 小林宏之

下田和輝・米田幹汰・伊藤恒太・中上瑠基・熊谷灯真・横山太輝・青木結道・土井駿輔・合坂颯太・藤代太河・池田峻大・片岡龍音・小瀨希・甲田宗爾・川合流央・佐藤来音・小原祥都・石田翔哉・戸田大貴・村山琉依

<青森山田高校> 監督: 黒田剛

鈴木将大・葛西淳・渡邊来依・西脇虎太郎・三橋春希・多久島良紀・山本虎・小泉佳哉・中山竜之介・小野理竜・小柳一斗・奈良岡健心・芝田玲・櫻井廉・川原良介・小林康人・中川勇輝・武田陸来・小濱絆・津島巧

<花巻東高校> 監督: 清水康也

坂上徹太・高橋晃・菊地大翔・遠藤朋城・及川真ノ介・菊池竜篤・船山智哉・西井才蔵・押切大和・八重樫優成・加藤志門・工藤琉音・吉田洸大・本多将梧・菊地琉翔・岩淵里城・藤原涼・作山寛都・中村翔太・加々美敦己

<聖和学園高校> 監督: 加見成司

小笠原信哉・菅井一那・福丸勝利・金井太一・益田吏玖斗・小野喬・栗駿介・方城陸斗・伊波渉・森玲登・神田翔和・石澤海陽・江藤彪太・藤田晴・伊澤陸喜・玉藤翔・近藤良雅・雅原泰河・角野玲也・増川琳太郎

<明桜高校> 監督: 原美彦

川村亮生・佐藤瑠那・吉崎壘・久米颯・目黒琥珀・大町瑠音・吉田秀・溝口蓮人・鎌田琉佑・小笠原義斗・山田昂流・小野亮輔・加藤鳳夢・佐々木宗介・武田大和・佐藤拓海・白田成那・藤山成弥・外山達・廣森輝星

<山形中央高校> 監督: 羽角哲弘

清水皇斗・小川湧右・設楽卓人・菊地謙辰・高橋未来・渡邊悠真・横川涼太・大風春人・梅津裕大・高橋聖名・高橋健太・高橋一颯・長沼裕也・伊藤優人・柴田純介・元木悠人・佐貝誠・須藤耀斗・篠田ヒカル・金子優斗

<尚志高校> 監督: 仲村浩二

鮎澤太陽・布川隼大・鈴木大翔・笹生悠太・高瀬大也・山田一景・藤田颯良・白石蓮・市川和弥・吉満迅・山本叶多・神田拓人・岡野英央・安齋悠人・出来伯琉・若林来希・吉田尚平・鈴木虎太郎・桜松駿・網代陽勇

<鹿島学園高校> 監督: 鈴木雅人

木村和輝・嶋崎寛大・上原悠平・福留康輔・高橋寛介・藤井快・櫻井後・水戸陽太・井口愛翔・川尻直紀・妹尾俊兵・林結人・熊倉優希・萩原駆・石塚大地・アントニオ・篠田嵩人・鈴木仁之介・池田修斗・若野晃大・森龍ノ介

<矢板中央高校> 監督: 高橋健二

上野豊季・浅野裕大・勝田大晴・梶谷皇光斗・畑岡知樹・木村匠汰・小林陽真・竹ノ谷介・田邊海斗・高橋海斗・高橋純一・柏木康介・長田卓汰・吉川侑輝・鳥塚翔翼・菊地純平・若松優大・坂本怜輝・高橋秀斗・下平悠斗

<前橋育英高校> 監督: 山田耕介

雨野颯真・大澤隼人・茂木碧生・齋藤颯太・齋藤駿・齋藤航汰・山内恭輔・井上駿也真・杉山陽太・眞玉橋宏亮・根津元輝・大久保帆人・徳永涼・山田皓生・堀川直人・齋藤龍次郎・芦田悠真・小池直矢・高足善・山本颯太

<昌平高校> 監督: 藤島崇之

上林真斗・葛西天河・武村圭樹・上原悠都・津久井佳祐・石川穂高・田中隼生・佐藤寛大門・大谷湊斗・佐藤海空斗・土谷飛雅・長準希・荒井悠汰・篠田颯・佐々木小太郎・三浦悠代・小田咲平・鄭志錫・伊藤風河・平叶大

<市立船橋高校> 監督: 波多秀吾

ドゥーリー大河・田中公大・藤田大登・栗原大知・懸樋開・大塚清翔・佐藤凜音・内川遼・峯野倅・太田隼剛・北川隼・丸山侑吾・土岐泰斗・渡邊慎和ムセマ・白土典汰・森駿人・青垣翔・岡司瑠来・イジェンバリーチャド・佐々木裕涼

<帝京高校> 監督: 日比威

川瀬準慎・大橋藍・島真琢士・小林佳太・梅木怜・藤本優翔・大田知輝・前野翔平・並木雄飛・松本颯太・日野豊・山下謙・前浜就憲・山崎湘太・藤崎巧士・田中遥稀・橋本マリーク・藤本マリーク・伊藤聡太・齋藤慈斗・横山夢樹

<関東第一高校> 監督: 小野貴裕

遠田凌・日野豊・小関健流・小谷旺嗣・矢端虎聖・池田歩登・北村翼・岡崎礼輝・エバイエム賢人・小松奏哉・渡邊達大・湯田欧雅・石塚優斗・長谷川凌翼・栗栖晴己・平形京太・松野竜成・清水大生・本間凜・鹿岡翔和

<湘南工科大学附属高校> 監督: 室井雅志

岩崎翔・永山航世・高橋陽翔・小川源生・三浦翔遥人・伊藤大輔・小島大和・前田蓮・森田鈴音・小林輝輝・三井真生・中山陽輝・村岡遊・崎井圭・荻野寛太・橋山翔太・岩崎由磨・大木啓汰・成田梨南・高木直人

決勝

帝京 0 前橋育英 1

●2022年7月30日 11:30 ●会場:大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]佐々木慎哉 [副審]池田元/伊勢裕介 [第4の審判員]村田裕紀 ●マッチンスペクター:三井耕 ●観衆:2,137人

帝京(監督:日比威):[GK](1)川瀬準慎 [DF](2)島真琢士(4)梅木怜(6)大田知輝(20)並木雄飛 [MF](7)松本琉雅<-70+2'(14)山崎湘太>(11)山下謙<-68'(19)前野翔平>(15)藤崎巧士<-21'(8)押川優希>(18)田中遥稀<-70+6'(17)横山夢樹> [FW](9)橋本マリーク・誠史<-41'(13)齋藤慈斗>(10)伊藤聡太

控え:(16)大橋藍(3)小林佳太(5)藤本優翔(12)前浜就憲

前橋育英(監督:山田耕介):[GK](1)雨野颯真 [DF](4)齋藤駿(6)山内恭輔(11)井上駿也真<-70+2'(18)堀川直人>(13)杉山陽太 [MF](8)大久保帆人<-70+6'(17)山田皓生>(14)徳永涼(19)青柳龍次郎 [FW](9)小池直矢(10)高足善(15)山本颯太<-64'(7)根津元輝>

控え:(12)大澤隼人(2)茂木碧生(3)齋藤颯太(5)齋藤航汰(16)眞玉橋宏亮(20)芦田悠真

得点 [前橋育英]70+4'高足善(0-1)

警告 [帝京]26'島真琢士

<日大藤沢高校> 監督: 佐藤輝勝

岡本聖輔・斎藤直晴・片岡大慈・アッパ勇輝・宮崎達也・尾野優日・坂口康生・楠本爽・國分唯央・野澤勇飛・安場志志朗・荻原大地・岡田生都・宗次次磨・岡西亜樹・有竹翔吾・仲川颯一・会津恒毅・森重陽介・岸本尚也

<山梨学院高校> 監督: 羽中田昌

長谷川皓亮・廣瀬大翔・向山悦生・芳野伯・蔵藤稜久・庄司優作・小尾丞斗・小日山混生・白田康太郎・富岡玲音・宮岡拓海・小棚木蒼大・野田駿人・吉本堅翔・本多弥沙哉・齋藤剛志・梶尾謙太・伊藤優作・高野夏輝・五十嵐真翔

<東海大諏訪高校> 監督: 忽滑谷祐介

鎌崎道・栗原陸・野崎凌・齋藤謙・小川航平・上田智也・宮本情大・宮下倫・伊藤駿介・藤森大夢・井上法知・鎌田陸輝・宮下直大・松本洋人・岡本圭佑・桑原輝来・赤廣虎伯・竹田琉矢・パスネット力丸・石田拓暉

<帝京長岡高校> 監督: 古沢徹

佐藤安悟・吉田奏音・清川郁生・金壽男・桑原航太・内山開翔・森健太郎・笠井冠景・瀧本特恩・岡山琉斗・足立潮名・石鉢真斗・五十嵐丈一郎・岡村空・松山北斗・山村朔冬・廣井蘭人・土門遥斗・堀颯太・狩野健太

<富山第一高校> 監督: 柳野年秀

辰島尚悟・吉田成希・深井仁・湯川信治・山本大心・大居優汰・田畑航成・藤堂碧人・舘鏡之介・大矢悠太郎・沼田竜太郎・浅井泰之・高松伶羽・多賀混人・松井凜空・水島雄之介・網谷飛来・稻垣禪太郎・太田翔空・森川直哉

<星稜高校> 監督: 河合伸幸

加藤夕暉・橋本育磨・澤田拓実・塩川晴也・奥名星太・東晃大・猿楽佑也・高橋大空・井田佳佑・内久保道哉・福島元基・平良大研・金谷章吾・宮前匠真・天川達心・中山裕紀・北方陽己・山下陸・山本陽大・竹山開

<丸岡高校> 監督: 小阪康弘

吉田龍之介・清水唯太・西田陸晴・渡辺颯生・鷺見琉希・山田健太・金川心・藤田直・徳山港音・岡俊樹・奥村洋武・河奥正流・名倉流悠・渡辺祥貴・福村宥真・中川優斗・伊藤大貴・小関晴人・川下恭太郎・加藤駿

[辞退]<磐田東高校> 監督: 山田智章

岡村虹輝・藤田翔旗・鈴木天結・倉田幸栄・前嶋誠・森蓮太・鈴木彩斗・森谷柁平・松浦翔夷・鈴木王太・能野日路・瀧井空・港聖頼・谷野暁希・伊藤悠陽・笹田凌・杉山充希・金原温大・徳増優・神谷宥河

<中京大中京高校> 監督: 鈴木真平

黒柳隼士・後藤樺・那須琳太・渡辺晴斗・出崎蓮太・伊藤凜人・浅岡来羽・伊藤秀太・太田愁・宮澤集・蛭田郁海・伊藤聖矢・野々部慎一郎・杉山耀・清田空・山田銀時・松岡怜哉・溝口詢人・大野泰誠・松崎大雅

<四日市中央工業高校> 監督: 伊室陽介

鈴木廉太郎・原田海誠・山本拓弥・田中涼太・及川隼那・野崎峻太郎・西脇葉・古谷柁飛・小林倫大・岩田楓太・田頭篤弥・加藤源大・久山侑人・川北琉雅・平野颯汰・片岡空良・坪井昂・近澤春吹・南星那・平尾勇人

<帝京大可見高校> 監督: 仲井正剛

竹内耕平・土田壮太・諏訪佑輔・増井俊介・兼松龍政・原田逸希・堀内祥輝・後藤龍斗・河合龍・生田慈寿・松本翔暉・小島清太郎・吉兼伶真・黒濱将・明石望来・棚橋奎斗・菊池慶秀・遠藤翼・長谷部希星・加藤隆成

<草津東高校> 監督: 牛場哲郎

福田駿介・西野勇太・山本知寛・西脇凜彦・藤原優太・西村海希・渡邊良・上原周・須永佑佑・梅辻爽・伊藤翔汰・竹下蓮人・河合勇徳・中野寛元・六車桜太・宮本慶次郎・樺田英史朗・河野晟也・四方田匠・森優斗

<東山高校> 監督:福重良一
佐藤瑞起・牧純哉・藤本崇太・保坂崇人・新谷陸斗・大谷彩斗・仲里勇真・濱瀬泰維・真田進司・松橋啓太・飯田澤哉・大山遼斗・清水楓之介・北村圭司朗・石井直録・沖村大也・菊山和郷・嶋嶋蓮央・中野翔真・志津正剛

<履正社高校> 監督:平野直樹
湯地駿介・ジョン カミイ 信バー・西坂斗和・加藤日向・東尾大空・岡田誠也・石塚蒼空・森田夢生・平井佑亮・徳山亮伍・中林漣音・小田村優希・名瀬斗哉・宇都宮翔奈太・川端元・中鉢大翔・中村成那・梶並笑顔・古田和之介・河野明也

<関西大北陽高校> 監督:矢田竜之
野津照太郎・笹木桜汰・磯部天音・宝崇明希・大平直哉・濱本照海・矢田徹志・福場壮洗・立花蓮・田中悠矢・栗野優吾・村田将太・小西孝史・田中慎一・多田悠稀・岡崎瑛輝・亀井文貴・東村春・日谷陵真・森山響己

<和歌山北高校> 監督:中村大吾
久保西翔貴・松本隆義・河端晃暉・松尾光瑠・西野様人・西垣内孝紀・川本大輝・近藤暖人・田中涼心・竹谷咲人・岩瀬悠人・森井保貴・川崎陽大・毛見烈士・川口永遠・栗山璃玖斗・柴田幹宗・奥村大翼・三谷凌久・宮尾一矢

<生駒高校> 監督:古田泰士
谷悠真・山本真翔・佐藤笑夢・寺田裕勝・田中凌太・吉田伏太郎・片柴蒼太・本田翔陽・岩崎尚太・大久保正琴・佐藤航・横路拓哉・加藤大幹・種谷優佑・竹中悠人・森田和真・中谷輝弘・石井駿伍・西上楽人・木之下南瑠

<三田学園高校> 監督:福原幸明
中西孝太・稲田慈之・小川蒼葉・新井生・八木遼斗・小山朝陽・中島大地・黒瀬直弥・清井海壽・山根遊馬・上山悠仁・三澤玲太・西田勇大・富江立修・阪倉寛人・宮島幸大・宮内泉太郎・加藤拓人・奈田弥六・娘田琢斗

<米子北高校> 監督:中村真吾
畠山壮哉・西山飛源・森川和軌・青戸幸輝・野田徹生・倉田大雅・浅野颯真・長谷川暖・梶磨佐志・藤原壮志朗・石倉重連・上原颯太・中井唯斗・音田英琉・仲田堅信・田村郁帆・小橋川海斗・福田秀人・小坂豪・森田尚人

<立正大泷南高校> 監督:南健司
塚田喜心・田中秀汰・松本寛央・與古田怜・三輪陽斗・坂井悠飛・堀内拓・今野寧音・桃井順都・多田信磨・塚塚秀斗・中井葵斗・矢野瑛吉・進海翔・野田叶・ダシルバイゴル ヤン・YOON SEOKMIN・山田海聖・永澤叶太・香西銀二郎

<岡山学芸館高校> 監督:高原良明
矢野晃・平塚仁・中尾蒼・井上斗嵩・田口大慎・平野大樹・山河獅童・福井慎・木村匡吾・田口裕真・岡本温叶・山田蒼・藤田剛志・田中利樹・西川晃生・高山隼磨・今井拓人・田邊望・木村奏人・仲谷蓮斗

<瀬戸内高校> 監督:田中健二郎
大木泰季・池田航陽・岩崎幸大・岩垂翼・高橋隼士・尼見琉仁・美藤慶音・猿山和輝・渡辺浩史・川本琉聖・江川楓・大田巧・小田虎哲・長村星波・佐野誠信・野上凌雅・澤田佳憲・浦岡龍之介・山口青・新井悠河

<高川学園高校> 監督:江本孝
法貴大和・福島真斗・西村大和・岡楓太・中島颯太・藤岡大誠・藤岡竜空・長野泰大・山本陽・藤井蒼斗・梅田彪翔・佐藤大斗・武藤尊斗・美森大翔・大下隼鋭・岡崎海吏・山本吟侍・伊藤水麗・岩瀬颯吾・田辺太一

<高松商業高校> 監督:川原寅之亮
広瀬光希・立岩尊晟・浅井七瑠・青木鷹飛・柴村泰輝・市原立暉・大西晃瑠・明石一真・神騎士・鍋島愛翔・浜浦開司・百々歩夢・木村咲誠・秋山隼汰・谷口陽斗・榎林康生・星野滉成・清水朱翔・多田蒼生・太田仁人

<徳島市立高校> 監督:河野博幸
藤澤芭琉・安藤誠一郎・山本雄大・藤川琉偉・河合佑馬・花房玲遠・瀬口竣介・川村琥太郎・野々村泰成・岡快吏・織田大翔・山座拓遠・河村壮真・泉壮真・太田夏壽人・池田怜以・笠原颯太・林秀太・秋月大和・鈴木悠哉

<徳島科学技術高校> 監督:川越英司
松木拓海・美馬隼汰・古川大将・長谷原雄介・青山維牙・赤尾凌空・中川凜音・竹中和・森生成・島中涼太・廣瀬叶空・鹿耳大空・佐藤佑吾・市原大聖・佐藤環瑠・住友嵐汰・鈴江京太郎・藤井太志・扶川魁一・金本歩大

<今治東中東教育学校> 監督:谷謙吾
矢野晴太郎・井門泰誠・竹内海人・田村陸斗・加地蒼志輝・赤星来智・佐伯柊二・高市律己・小松相太・岡田球斗・越智小次郎・今井澤斗・鷹田大翔・高瀬一光・上田史跡・近藤大和・樋口智大・高橋周斗・大荒陽平・濱川将磨

<高知高校> 監督:大坪裕典
東大穂・梶並谷礼央・森紺・西本翔馬・橋本拓実・濱口達也・田辺陽翔・市川快人・神谷昂成・南部翔太・尼崎幸誠・山本愁斗・松井貴太・川村匠人・村田楓芽・角田颯磨・高尾裕生・大久保天満・亀岡春陽・門田翔平

<九州国際大附属高校> 監督:江藤謙一
與田和也・水津陽音・田中翔太・椎山滉・米山凜・井上陽斗・高森皓英・竹原慧・大崎愛斗・山本遥斗・黒岩峻・高瀬泰斗・藤井滉稀・井谷和希・濱中翔太・濱田大夢・小林豪王・山本悠太・朝川楓・安部勝汰

<佐賀東高校> 監督:浦原昂昭
松雲翔吾・岡石圭生・岡功雄・石橋拓磨・宝納拓斗・渡邊皓斗・江頭瀬南・甲斐桜樹・関胸心・小島琉生・宮崎飛羽・坂本寛樹・松本天地・江口恭平・大島弘賀・西川葵翔・右近歩武・関裕心・宮川昇太・宮崎空夢

<長崎総合科学大学附属高校> 監督:定方敏和
亀井一起・宮本健介・長嶺空・京谷來夢・原田真之介・副島裕生・平山零音・瀬戸俊樹・野見山宙将・梅野佑汰・竹田天馬・佐藤海斗・宇土空汰・大屋麻尋・尾島英蓮・宇土尊琉・下田龍久翔・新垣太一・甲斐智也・福島文輝

<大津高校> 監督:山城朋大
西星哉・南太童・古川大地・坂本翼・齋藤翔・五嶋夏生・田辺幸久・日置陽人・浅野力壘・香山太良・碓明日麻・田原瑠衣・中馬颯太・稲田翼・井伊虎太郎・岩崎大翔・山川柊・小林俊瑛・山下景司・山下基成

<大分鐘崎高校> 監督:首藤謙二
三宮羽球・工藤孝士朗・廣川陽介・井上拓哉・遠山隼都・衛藤恵希・廣瀬長治・奥田翔太・高橋隆介・伊東蒼馬・増田真聡・西川凜・大川万葉・野々下蒼斗・大久保優心・矢野駿介・楠元和馬・川野電聖・水本楓大・安東壮大

<日章学園高校> 監督:原啓太
小林俊雅・鈴木俊介・藏屋明徹・新穂海斗・工藤珠藻・芝濱人・宮本大誠・雜賀春輝・田實優翔・金川羅瀾・川野遼斗・石田誠二・松下黄要・石崎祥磨・赤木心玖郎・安藤優翔・皆川春輝・川越廉斗・田上遼馬・高岡伶帆

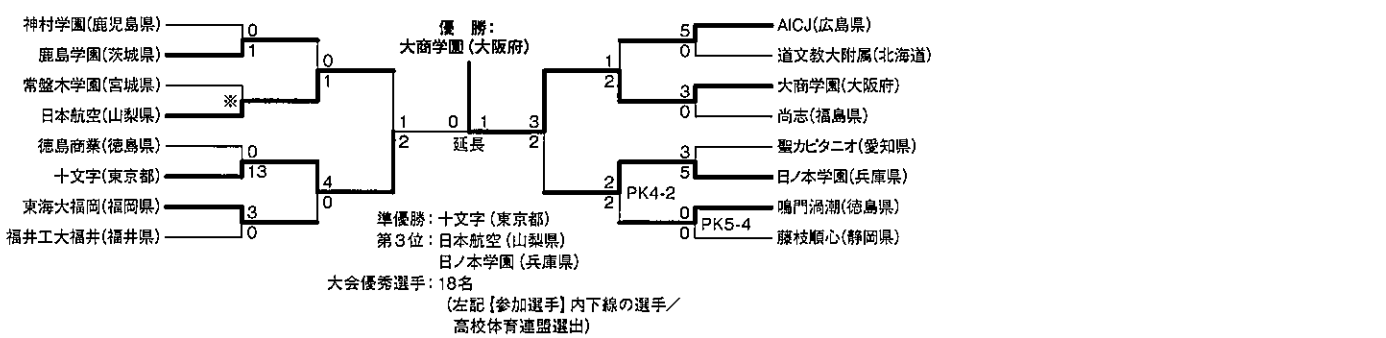
<神村学園高等部> 監督:有村圭一郎
広川凜琉・府川柊哉・有馬康汰・大川翔・鈴木悠仁・橋之浦陽・中島大誠・吉永夢希・長沼政宗・高橋修斗・則松隼人・中江小次郎・積歩門・大迫皇・笠置潤・名和田我空・高倉太郎・西丸道人・福田師王・西村羽琉

<那覇西高校> 監督:平安山良太
新垣碧斗・古謝瑞祥・田場海斗・チメズチャールズ ティダ・小原広大・新垣大翔・高橋丞・屋富祖昂輝・宮城主英・宜保泰琉・山川輝・赤嶺琉星・外間達也・比嘉隼・仲里広夢・崎原拓将・新城旭・石川祐平・頭山亮太・玉城寿翔

令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、徳島県、徳島市、鳴門市、阿南市、吉野川市、板野町および各教育委員会、JFAの主催で、7月26日～30日に16チームが参加して徳島県で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟かつ2022年度JFA第2種登録を完了した2003(平成15)年4月2日以降生まれの選手に与えられた。

※61ページに関連記事あり



準決勝

日本航空 1 (前半0-2 後半1-0) 2 十文字

●2022年7月29日 10:00 ●鳴門・大塚スポーツパーク球技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]藤田美智子 [副審]吉澤久恵/多田美早希 [第4の審判員]網矢守 ●マッティンスペクター:坂田洋介 ●観衆:260人

日本航空(監督:堀祥太郎):[GK](12)田中至野 [DF](2)一瀬葵夢(3)城山にこ(4)北原步奈(14)河西小夏 [MF](5)五味小暖(7)沼中彩里<->61'(20)佐藤マリ-奈々美>(8)藤崎はるか(17)杉本結月 [FW](9)市村萌那(10)大島暖菜

控え:(1)白鳥咲瑛(6)中野愛弓(11)常盤美琴(13)吉田美のり(15)横田晴(16)土屋奈桜(18)蘆田木乃葉(19)伊藤咲良

十文字(監督:細川諒):[GK](1)長谷川想 [DF](2)新井萌禾(4)杉山遥菜(5)岡田恭佳(19)早間美空 [MF](6)三宅万尋<->HT(17)梅本恵>(7)太田千満(8)野村亜未(10)野口初奈 [FW](9)氏原里穂菜(12)浅香美結<->HT(11)千葉梨々花>

控え:(16)安田優花(3)米口和花(13)村田あずき(14)菊池真唯子(15)村山菜美(18)山崎亜沙(20)三谷友夏

得点 | 日本航空|70+8' 大島暖菜(1-2) | 十文字|5', 14' 氏原里穂菜(0-1)(0-2)

【参加選手】

<北海道文教大学附属高校> 監督:清野訓晴

高見楓希・河瀬望乃加・生井千晶・安達優菜・矢津田明莉・中島智香・古村蒼・鶴間みのり・高谷こころ・金井里和・小林悠夏・佐藤友来・齊藤瑠唯・江田依鞠・牛嶋心海・赤松佑衣・濱家音々・駒水那名・吉田有沙・杉本梨愛

<尚志高校> 監督:松本克典

佐藤心音・福井美月・山本珠寿・大橋奈々海・小林祐妃・小野羽美・竹野那奈・木内美蘭・吉田伊織・赤羽陽菜・内田里奈・厚田亜紗穂・大槻美生・今井鈴那・青木こころ・黒澤千星・柳橋理奈・大宮愛乃・大光望結・福田こはる

【辞退】<常盤木学園高校> 監督:阿部由晴

中屋音葉・柳原碧彩・宮下紗和・柴山華奈・宮下あつき・宮野友美・保原ひな・三上心優・澤登揚羽・裏西彩・伊藤結菜・高塚映奈・三浦るい・田井海音・岸仁美・加賀美心音・竹内瀬戸香・伊藤瑠璃・茂垣咲輝夏・白木珠奈

<日本航空高校> 監督:堀祥太郎

白鳥咲瑛・田中至野・一瀬葵夢・城山にこ・北原步奈・吉田美のり・河西小夏・五味小暖・中野愛弓・沼中彩里・藤崎はるか・横田晴・土屋奈桜・杉本結月・蘆田木乃葉・市村萌那・大島暖菜・常盤美琴・伊藤咲良・佐藤マリ-奈々美

<十文字高校> 監督:細川諒

長谷川想・安田優花・新井萌禾・米口和花・杉山遥菜・早間美空・三谷友夏・岡田恭佳・三宅万尋・太田千満・野村亜未・氏原里穂菜・野口初奈・村田あずき・菊池真唯子・村山菜美・山崎亜沙・千葉梨々花・浅香美結・梅本恵

<鹿島学園高校> 監督:晁間健太

福田はな・高橋侑沙・中村乃奈・中野純・武内愛乃・工藤早樂・小畑蘭・宮本悠愛・水越悠・悠海真緒・木下陽菜・柚木ひなた・花谷理沙・野澤里桜・安藤結菜・早稲田萌絵・玉井小春・清水菜々羽・増田帆花・金子明日香

<福井工業大学附属福井高校> 監督:久保直也

松尾朝陽・下川陽南多・服部陽向・田中美空・木村ゆず・神野真凜・留木未々・後藤瑠胡・川岸こころ・河合結月・深澤友季・宮脇結・岩崎心・澤田美咲・酒井澤・秋田萌絵・片山諒乃・茂呂優心・中里仁・岩佐寧々

<藤枝順心高校> 監督:中村翔

菊地優杏・ソワディル・ヴィクトリア・加島希夏・葛西唯衣・鍵谷天・中井佑姫奈・安藤麻耶・中出朱音・柘植沙羽・三宅怜・浅田幸子・青井麻衣・久保田真生・植本愛実・鈴木心菜・山田歩美・正野瑠菜・辻澤亜唯・高岡澤・新宮さくら

<聖カピタニオ高校> 監督:多田利浩

花田実悠・梅村心陽・石川萌絵・江崎純羽・川北梨湖・井川玲菜・坂下利里奈・浦前遥楓・岡田晴衣・下枝彩音・荒川風香・増村みずす・浦前彩楓・北村心菜・相羽陽菜子・熊崎せり乃・鯉江彩貴・青木理咲・平田萌・オーライリー・詩奈

<日ノ本学園高校> 監督:和多田充寿

赤羽祐寿・久田優里愛・田中晴菜・菅原眞名・萩本里那・竹内あゆみ・中村優那・渡邊絢音・古谷千佳子・本多瑠己・金谷愛心・新谷楓華・林織羽・河西百花・伊藤沙奈・今井双葉・藤原良・高城青空・高橋蓮優・岡林柚葉

準決勝

大商学園 3 (前半1-2 後半2-0) 2 日ノ本学園

●2022年7月29日 10:00 ●JA アグリあなん運動公園陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]杉本美里 [副審]近藤恭子/樋下隆 [第4の審判員]森広博 ●マッティンスペクター:梅原聖和 ●観衆:90人

大商学園(監督:岡久奨):[GK](1)井上加菜美 [DF](3)太田美月(4)松浦加奈(10)長尾ののか(18)上原すずか [MF](5)田中美優<->68'(13)吉原汐音>(6)森和奏(7)佐清愛唯<->70+7'(15)倉橋陽菜>(8)柳原さくら [FW](9)亀井七奈(11)安藤早英<->68'(14)鬼頭こはな>

控え:(12)新美沙弥(2)榎本いつき(16)藤田菜摘(17)井原凜(19)清水日茉莉(20)森の子

日ノ本学園(監督:和多田充寿):[GK](20)久田優里愛 [DF](2)田中晴菜(3)菅原眞名(5)竹内あゆみ(17)渡邊絢音 [MF](6)本多瑠己<->46'(13)河西百花>(8)金谷愛心<->46'(7)高城青空>(10)新谷楓華(11)林織羽<->58'(15)今井双葉>(16)藤原良<->46'(18)岡林柚葉> [FW](12)高橋蓮優<->67'(9)中村優那>

控え:(1)赤羽祐寿(4)萩本里那(14)伊藤沙奈(19)古谷千佳子

得点 | 大商学園|24' 佐清愛唯(1-1), 39' 柳原さくら(2-2), 42' 田中美優(3-2) | 日ノ本学園|5', 31' 藤原良(0-1)(1-2)

警告 | 日ノ本学園|55' 林織羽

決勝

十文字 0 (前半0-0 後半0-0) 1 大商学園

●2022年7月30日 10:00 ●徳島市球技場第1競技場 ●試合時間:70分、延長20分 ●審判員:[主審]近藤恭子 [副審]藤田美智子/弓立萌子 [第4の審判員]多田美早希 ●マッティンスペクター:梅原聖和 ●観衆:328人

十文字(監督:細川諒):[GK](1)長谷川想 [DF](2)新井萌禾(4)杉山遥菜(5)岡田恭佳(19)早間美空 [MF](6)三宅万尋<->HT(17)梅本恵>(7)太田千満(8)野村亜未(10)野口初奈 [FW](9)氏原里穂菜(12)浅香美結<->HT(11)千葉梨々花>

控え:(16)安田優花(3)米口和花(13)村田あずき(14)菊池真唯子(15)村山菜美(18)山崎亜沙(20)三谷友夏

大商学園(監督:岡久奨):[GK](1)井上加菜美 [DF](3)太田美月(4)松浦加奈(10)長尾ののか(18)上原すずか [MF](5)田中美優<->61'(13)吉原汐音>(6)森和奏(7)佐清愛唯<->90'(15)倉橋陽菜>(8)柳原さくら [FW](9)亀井七奈(11)安藤早英<->61'(14)鬼頭こはな>

控え:(12)新美沙弥(2)榎本いつき(16)藤田菜摘(17)井原凜(19)清水日茉莉(20)森の子

得点 | 大商学園|88' 亀井七奈(0-1)

<大商学園高校> 監督:岡久奨

井上加菜美・新美沙弥・榎本いつき・太田美月・松浦加奈・佐清愛唯・長尾ののか・井原凜・田中美優・森和奏・柳原さくら・吉原汐音・鬼頭こはな・上原すずか・清水日茉莉・森の子・亀井七奈・安藤早英・倉橋陽菜・藤田菜摘

<AICJ高校> 監督:小川潤一

出村爽菜・村本夏希・濱田留寧・柏原風沙・樋口三夏・當房皆都・石本千弥・打田もえ・壘原藍・原田柚笑・森田千墨・梅津真央・谷羽音・玉田優莉奈・山村奈帆・岸波美菜・松本百花・高井更紗・小林万璃・加藤咲貴

<鳴門渦潮高校> 監督:佐藤城介

佐木双葉・宮本向日葵・松村実春・酒井心優・武田もえ・金城来万鶴・新居瑞穂・後藤希帆・井上凜花・住友瑛・石田萌華・岡本かがり・林心音・古田彩珠・佐久間綾乃・福島凜歌・松本柚葉・田中歩乃羽・富田翔保・高山夢歩

<神村学園高等部> 監督:寺師勇大

澤田瑞希・神宮司千尋・児玉一穂・岩下心々愛・幸福征良・井手口伶央・工藤風紗・中野美結・立野ひなの・上田彩葉・岡部光流・三留りりか・前中悠来・中村心美・上田麻莉・黒岩沙羽・黒木愛理・益留琉菜・久保百果・益田萌花

<東海大学附属福岡高校> 監督:山本ひろな

中村幸来・浜崎こころ・赤嶺愛海・加藤美有・大隈夏凜・曾我部莉美・前多祐里奈・林南花・高木萌・黒野美虹・松田てん里・梅崎彩色・山田心優・島倉亜弥美・山名映理・新谷希乃風・今村涼風・平良夢華・山田愛実・徳永深南

<徳島商業高校> 監督:東潤

流谷侑希・河埜紗奈・佐竹陽菜・住友仁美・増井胡菜妃・井貝璃乃葵・新開愛純・奥本涼葉・木内心愛・宮崎愛・橋本奈子・立石麻子

DATA BOX



JFL便り

東京武蔵野ユナイテッドFC
<https://tokyo-musashino-united-fc.com/>



“東京のと真んなか”から

東京武蔵野ユナイテッドFC 総監督兼強化担当 福田 雅

東京武蔵野ユナイテッドFCは、1939年創部の横河電機サッカー部を起源とした東京武蔵野シティFCと、東京大学および慶應義塾大学の両校サッカー部OBをルーツに持つ東京ユナイテッドFCが、東京都心部に真のスポーツ文化をつくりたいという同一の理念の下に2021年1月より提携し、クラブの安定運営と持続的発展を実現させるために誕生に至りました。

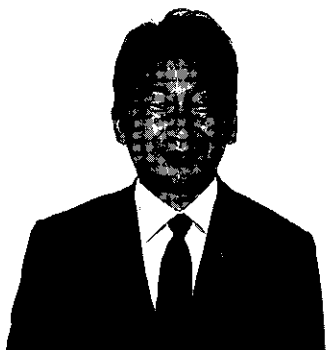
武蔵野市と文京区を拠点とする両クラブが手を結ぶことで、武蔵野市以東と文京区を包含するエリア、すなわち「東京のと真んなか（THE HEART OF TOKYO）」を代表するクラブとなるべく、スポーツのステータス向上を自らの社会的使命として活動しています。

2021シーズンは新しいチームづくりに苦慮した面もあり、シーズン前期は苦戦を強いられました。しかし、スタッフ・選手たちが一枚岩になってシーズン後期を巻き返したことで、最終的には15位でJFL残留という結果をつかみ取ることができました。

それを受けて2022シーズンは、かつてクラブで指揮を執り、天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会ではFC東京を破り、JFLでは2位というクラブ史上最高順位を収めた実績のある依田博樹を監督に復帰させるとともに、クラブのフットボールスタイルを確立すべく、長年アカデミーで責任者を務めてきた石村俊浩をヘッドコーチに据えてチームをつくってきました。結果的に第17節を終えた時点で8位に位置し、まだまだ上位や優勝も狙える順位にいます。

コロナ禍の状況下においても、サッカーのある日常を取り戻そうと、多くのサッカー関係者が尽力されていることかと存じます。われわれは、当たり前前にサッカーをやれている日々が当たり前ではないということを思い知らされました。

クラブも社会の一部であり、社会に必要とされてこそ存在意義を持ちます。この日本において、サッカークラブが持つ意義は何なのか、常にその答えを追い求めながら悪戦苦闘する日々ですが、サッカーファミリーの皆さまと共に、これからの日本のサッカー界の発展の一助になれば幸いに思います。



東京武蔵野ユナイテッドFC 福田雅総監督兼強化担当

JFL便り

高知ユナイテッドSC
<http://kochi-usc.jp/>



高知にJリーグを!!

高知ユナイテッドSC 取締役 宮地 貴嗣

高知ユナイテッドSC(スポーツクラブ)は、高知農業高校OBクラブを起源とし、「南国高知FC」から名称変更した「アイゴッソ高知」と、1998年創設の「高知UトラスターFC」の2チームが、高知県に日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)加盟クラブを誕生させることを目的に統合し、2016年2月1日に発足しました。2019年の全国地域サッカーチャンピオンズリーグで準優勝し、JFL昇格を果たしました。

JFLでは、2020シーズンは14位、2021シーズンは13位と着実に順位を上げています。また、昨年行われた天皇杯JFA第101回全日本サッカー選手権大会では、クラブ史上初めて公式戦でJクラブに勝利しました。

今年2月にはJリーグ百年構想クラブに認定され、早期のJリーグ入りを実現するため、J3クラブライセンスの申請をしました。今年、昇格要件を一つずつクリアしていきながら、平均入場者数2,000人以上、昇格可能な順位への到達を目指します。

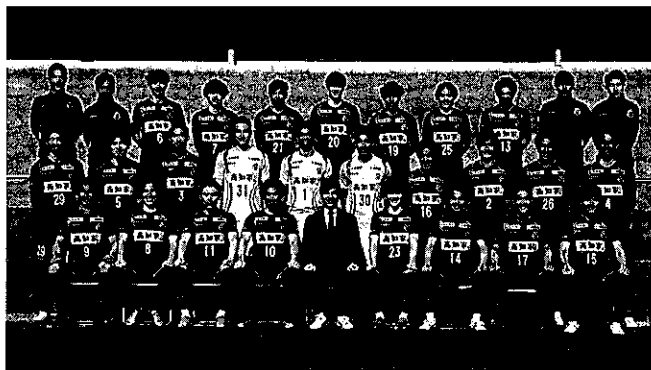
JFL3年目となる今年は、引き続きチームコンセプトである「攻守にアグレッシブなサッカー」を追求していきます。新たにJリーグ経験者が数多く加入したことで、これまで以上に質の高いプロの技術を高知県の子どもたちに見せることができます。

「高知の子どもたちに夢を」持ってもらうため、また、高知の皆さまにもっと高知愛を感じてもらうため、「夢」や「希望」「感動」を届けることはもちろん、全国の皆さまにもお届けできるような、心が熱くなる試合を披露します。

われわれのユニフォームの胸スポンサーは「高知家(こうちけ)」です。これは、高知県のプロモーション「高知はひとつの大家族やき」によるものですが、高知ユナイテッドSCは、まさに高知県民のクラブです。全国の皆さまに「高知」を発信できるよう、サッカーだけでなく、高知のプロモーションも積極的にを行い、地元の活性化に努め、地域の皆さまに愛されるクラブを目指します。

スポーツを通じて、高知の皆さまを元気に!高知の子どもたちに夢を!

果敢に挑む姿を披露し、大好きな高知のために、地域活動にも積極的に参加します。全国の皆さまの応援をよろしくお願いいたします。そして、ぜひ高知へお越しください!



大好きな高知のために!サッカーを通じて全国に「高知」を発信していきたい

なでしこリーグ便り

福岡J・アンクラス
<https://anclas.jp/>



テクニク向上でより魅力あるクラブを目指して

福岡J・アンクラス テクニカルコーチ 瀧口 亮

福岡J・アンクラスは、昨年35周年を迎えた九州唯一のなでしこリーグで戦うクラブです。クラブには、「テクニカル」「フィジカル」「メディカル」「戦術」それぞれに専門スタッフがおり、私はトップチームの選手のみならずアカデミー選手のスキルアップを担う「テクニカルコーチ」を務めています。一貫指導で「同じ絵を描く」ことができますし、テクニク向上には上限や年齢も関係ないと考え、それを根底に指導しています。

これは私自身がアンクラスで出会った選手の話ですが、彼女は福岡でサッカーに出会い、アンクラスで当時選手だった河島美絵監督と共にプレーし、日本女子代表の経験もあります。関東のチームにも在籍経験があり、結婚・出産を機に一度サッカーを引退しました。そんな彼女が育児をしながらアンクラスに復帰するとき、スキルトレーニング時に「まだまだ知らないことや課題が見つかった」「以前より上手になったしサッカーが楽しい」と話してくれて、「魅せるサッカー」を体現してくれました。「うまくなりたい」と本人が願い追求すれば、必ず成果が表れるのだと、私はそのときに実感しました。

サッカーのテクニクの一例として「両足で蹴ることができる」「動きながらのパス&コントロールの質」「ドリブルの種類」などが挙げられます。チームの全体像を把握した上で個人を評価し、選手一人一人の上達を確認するようにしています。

基本的な技術は各自が獲得した上で、ポジションごとにも獲得してほしい動きや技術があります。DFには正確なターンとシールドディフェンディングやロングキックのスキル、MFには狭いエリアの中でボールコントロールや前を向く技術、FWには個人でのドリブル突破や両足での強烈なシュートが打てる技術などです。各選手の特徴を押さえながら、必要だと思われる動きの獲得をサポートしていきます。

私は「勝利」にもこだわった上で、「観客を魅了する」ことにも一人倍こだわっています。

「スタジアムに応援に行きたい」「アンクラスに入りたい」「あの選手と一緒にサッカーがしたい」など、選手がスキルアップすることで観客を魅了できる「魅力あるクラブ」「ワクワクするサッカー」を実現すべく引き続き指導に励みます。



毎試合終了後、ファン・サポーターへ感謝の気持ちを伝えている

なでしこリーグ便り

アンジュヴィオレ広島
<https://angeviolet.com/>



アンジュファミリー

アンジュヴィオレ広島 強化運営担当 沓内 正明

アンジュヴィオレ広島(ANGEVIOLET HIROSHIMA)。ANGEL(天使)+VIOLET(紫)、フランス語で「紫の天使」を意味する私たちのチームは、特定の企業母体を持たない地域密着型の市民クラブとして2012年3月に誕生しました。

11年目のシーズンを迎えた今年、2022シーズンのスローガンは「ReBoot(リブート)」です。ANGE FAMILY(アンジュファミリー)と共に、これまでの10年で築き上げたものを継承し、新しい10年に向けて再起動してまいります。気持ちも新たに、さまざまなチャレンジをしていくシーズンにすべく、スタートを切りました。

ANGE FAMILY(アンジュファミリー)とは、アンジュヴィオレ広島(アンジュ)に所属しているトップチームとアカデミーの選手たちを中心に、スタッフ、ファン・サポーターの皆さま、スポンサー企業の皆さまだけでなく、アンジュに関わる全ての方々を総じて呼んでいる言葉です。より多くの皆さまとの関わりを大切に、アンジュファミリーの輪をもっと大きく広げていきたいと願っております。

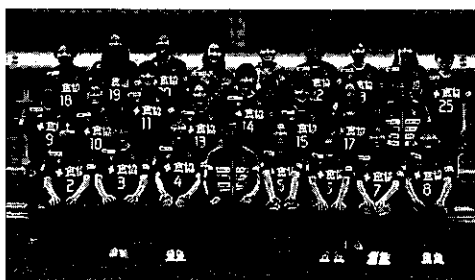
また、チーム理念として、「地域の皆様とのつながりを深めて、『明日もがんばろう!』と思える地域社会を実現する!」を掲げています。ANGE FAMILY(アンジュファミリー)と共にみんなで、より良い地域社会をつくっていききたい。

「アンジュが頑張るとるんじゃけえ、わしら(ウチら)も頑張れるけんねえ〜」

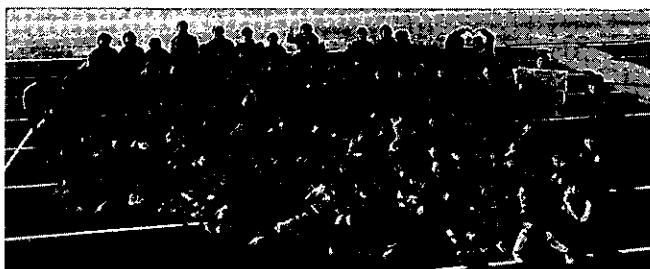
そう思ってもらいたいと考えております。

今後もアンジュヴィオレ広島の活動を通じて、夢を描き、皆さまに勇気を、そして力を与えられるよう、チーム・クラブ一丸となって進んでまいります。

広島の誇り、シンボルとして!



元気を与えられる存在になれるよう、2022シーズンもひたむきにチャレンジしていく



2月26日にアンジュファミリーフェスタ2022をミットヨススポーツパーク郷原で開催した。U-6、U-12、U-15、U-18とトップチームとの交流イベントとして、10年続けてきたクラブならではの取り組み



日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
http://jbsf.or.jp/



ビーチサッカーとスポーツ文化

DORSAL M.FC/ASHIYA 代表 佐藤 義人

DORSAL M.FC/ASHIYA(関西ビーチサッカー連盟所属)の代表兼選手の佐藤義人です。

私は、2005年に和歌山県の白浜で開催された大会で初めてビーチサッカーと出会い、その楽しさを知りました。さらに同年の全国大会でビーチサッカーの魅力や可能性を感じ、今もなお、その魅力に取りつかれて選手としてプレーをしています。

ビーチサッカーと出会うきっかけとなったのは、私の治療院(SATO.SPORTS)にけがの治療やリハビリに来ている選手のために実施したビーチトレーニングでした。ビーチでのトレーニングには多くの可能性や大きな効果があります。ビーチは、けがへの対応や競技力向上において効果を発揮します。現在もラグビー日本代表選手(*)やサッカー日本代表選手など各種目のトップアスリートたちのリハビリやトレーニングをビーチで指導させていただいています。

ビーチサッカー日本代表としてFIFAビーチサッカーワールドカップや世界大会に出場させていただいたとき、海外と日本の違いで強く感じたことは、ビーチにまつわるスポーツの環境や身近さ、意識の差です。今後、日本各地でもビーチでスポーツができる場などインフラの整備が進んでいくことで、日本のスポーツ界の未来や子どもの可能性はさらに広がり、ビーチサッカーだけではなく、さまざまな競技のレベル向上につながると思います。

ビーチサッカー環境のみならず、日本のスポーツ界のためにも、もっとビーチスポーツの環境やインフラが整備され、多くの人々に気軽に利用してもらえる身近なものになることを願うと同時に、その環境づくりに少しでも貢献することができたらと考えています。

ビーチサッカー、スポーツ、自然を愛する人々と共に。

※2015年ラグビーワールドカップ日本代表のメディカルスタッフとして同行。南アフリカ戦「ブライトンの奇跡」をはじめ日本の歴史的3勝に貢献



2006年にドバイで開催されたFIFAビーチサッカーワールドカップのアジア予選にて。同年に開催される本大会への出場権を勝ち取った



2022年シーズンの関西ビーチサッカーリーグより

日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟
http://www.jff-futsal.or.jp/



フットサルU-18、U-15年代のゲーム環境を整える

関東フットサル連盟 理事 大友 洋介

Fリーグが2007年に創立して15年がたち、一般社団法人日本フットサルトップリーグが新たな法人として活動を開始しました。

日本フットサル連盟が担う次なる役割の一つは、育成年代の環境整備です。関東フットサル連盟においては、東京都と神奈川県でフットサル2種、3種登録チーム数も多く、埼玉県、東京都、神奈川県では、U-18、U-15年代のフットサルリーグが開催されています。そのことから関東は育成年代の重点地域と位置付けられ、そこでの取り組みをモデルケースとして、47都道府県連盟へと情報発信するミッションを任せられました。

フットサルの育成年代では、全国各地で全日本U-18、U-15フットサル選手権大会予選が開催されていますが、地域によっては年に一度のこの大会だけとなっているのが現状です。ゲーム環境が年に一度だけの状況では普及発展は難しく、フットサル登録チームが増えるはずはありません。そこで、各都道府県において年間で三つの大会と年間リーグの開催を目標に、活動できる環境を整えたいと考えました。

そして、関東フットサル連盟では、2種、3種それぞれのカテゴリで二つの大会を新たに立ち上げることにしました。それが、関東(地域)リーグチャンピオンズカップと、関東(地域)選抜大会です。

リーグチャンピオンズカップは、原則として前年度都県リーグ上位チームの参加によって構成します。選抜大会は国体と同様に、各都県連盟が選手またはチームを選出するため、選抜チームや単独チーム、合同チームでも参加が可能です。開催時期は、U-18年代は10月～12月上旬にチャンピオンズカップ、2月に選抜大会を予定しており、U-15年代は8月に選抜大会、2月～3月にチャンピオンズカップを予定しています。それぞれの年代で、全日本フットサル選手権地域大会と時期を離して開催を計画しました。

育成年代のゲーム環境は、フットサルの普及発展に大変重要な役割があります。フットサル育成年代の連盟主催大会を実施することで、若い選手たちにフットサルに触れる機会を与え、フットサルに取り組むチームが増えていくことを期待します。そして、長期的な目標として、47都道府県すべての地域でのU-18、U-15フットサルリーグの開催を目指し、フットサルの活性化を図っていけたらと考えています。



年間を通して育成年代のゲーム環境を整えていく

なでしこひろば便り

なでしこひろば

<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>



女子サッカーを生涯スポーツとしてもらえるように

佐世保市サッカー協会 女子委員会 井手 智博

2016年7月、佐世保市サッカー協会として「JFAなでしこひろば」に登録しました。なでしこひろばは開催のきっかけは、当時の4種委員長からのお声掛けでした。女子サッカーの普及を進めなければいけないながらも何から始めればいいのか悩んでいたところ、4種登録の小学生の女子選手を集めてトレーニングなどをしてみては、とのご提案をいただきました。今では毎回10～15人前後の参加者が、1時間30分から2時間の練習時間を楽しんで汗を流してくれています。

当時は、佐世保市の小学生の女子選手のネットワークを増やすための手段の一つとして考えており、U-13年代でもサッカーを続けていけるような取り組みとして行っていました。2018年度からは、もっと裾野を広げよう、小学生から社会人までの参加に形式を変えました。さらに市協会からの発信で開催日時を公開したことで、広く佐世保市の皆さまに知っていただけるようになりました。

参加者は佐世保市内の4種チームや女子のクラブチームに所属する女子選手が主ですが、近隣市町村の選手および初心者、時には中学でサッカーをやめていたけれど、ボールを蹴りたくなったからと参加してくれた高校生もいました。このときは大変な喜びがありました。

一昨年から続くコロナ禍で思うような活動ができず、開催する場合も感染予防のほか、参加者に誹謗中傷が向かないような配慮など、サッカー以外の面で気を配らなければならないことが増えました。このような状況でも、継続して参加してくださる選手および保護者の方には感謝しています。

2022年度は開催日をこれまでの日曜から平日夜に切り替えました。リーグ戦文化が各種別で広がってきたので、日程が被らないようにとの配慮です。

今後の課題は、初心者が参加しやすい環境にすること。また、経験者は、日頃男子に交じってプレーしている子が大半なので、リラックスした状況下で強化も図れるような環境にし、それぞれを分けて開催できるようにすることです。これには女子の指導者の養成も重要です。まだまだ競技人口が少ない地域であるがゆえに、新しくサッカーを始めるきっかけとしての役割も必要ですが、サッカーを続けていくための環境づくりも、われわれに求められている役割です。

この活動が佐世保市や長崎県地区の女子スポーツ発展に寄与し、また生涯スポーツとして、女性がサッカーを楽しめる一助になれば幸いです。



初心者も経験者も楽しめるように、サッカーを続けていくための環境づくりを進めている

日本知的障がい者サッカー連盟便り

日本知的障がい者サッカー連盟

<http://jffid.com/>



知的障がい者サッカーの未来に向けて ～2022フランス国際親善マッチ

日本知的障がい者サッカー連盟 日本代表監督 西 真一

知的障がい者サッカー日本代表チームは、6月20日から29日までフランス遠征を行いました。4年に一度開催される「Virtusサッカー世界選手権（通称：もうひとつの世界カップ）」は、コロナ禍など昨今の世界情勢によりやむなく中止となりましたが、本連盟の積極的な働きかけにより、フランスとの国際マッチが実現しました（2試合）。海外チームと対戦できる機会が4年に一度しかない私たちにとっては大切な試合で、これまでの4年間で国内合宿で準備してきたことを発揮すること、次の世界選手権に向けての課題抽出を目的として試合に臨みました。

日本は世界ランキング8位、対するフランスは3位であることから、世界における私たちの現在地を知るには十分でした。フランスの選手は、体格、スプリント、ブレースピード、個の能力など、日本の日常では経験できないものを持っていて、海外チームとの対戦が初めての選手が多い日本にとって良い経験になりました。

日本は全員攻撃・全員守備をチームコンセプトに、前線や中盤からのプレスにより高い位置でのボール奪取とテンポのある攻撃を基本として、状況に応じて中央突破やサイド攻撃でフランスゴールを目指しました。また、前線や中盤でボールを奪えないときはコンパクトにしてバランスを保ち、全員でゴールを守り、ボールを奪ったときは状況に応じてビルドアップによる攻撃を図りました。

2試合とも日本のペースでサッカーをする時間はありましたが、ビルドアップ時のパスミスが突かれて失点し、敗戦しました。特に2試合目は、決定的なシーンは日本に多くありましたが、ゴールを奪うシュート力、自信を持ってシュートする部分が不足し、決定力には「差」がありました。

次の世界選手権に向けて、私たちはこれまでの取り組みを継続しつつも、そのクオリティを向上させていくことが重要です。選手は「世界基準」とはどういったものかを経験し、すでに地元に戻ってトレーニングを始めています。

知的障がい者サッカーの未来に向けて、今遠征で得たもの、感じたことをさらに進化させて強化に取り組んでいきたいと思えます。これからも知的障がい者サッカー日本代表へのご声援をよろしく願いたします。



6月に行われたフランスとの国際親善試合でのセレモニーの様子

良い選手を輩出する、そしてサッカーに関わり続ける選手を増やす

各都道府県サッカー協会（FA）で配置が進む技術担当専任者「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第7回は、神奈川県サッカー協会の中村元彦FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月14日

神奈川県のサッカーに100%の力を注ぎ込める

—2020年4月に神奈川県サッカー協会（FA）のFAコーチに就任されました。これまでの経験や神奈川県サッカーとの関わりを教えてください。

中村 筑波大学を卒業後に県立高校の教員になり、県立秦野高校や県立厚木北高校などでサッカー部の顧問として活動してきました。それとともに県のトレセンに関わり、国民体育大会の少年男子チームの監督なども務めました。2013年にユースダイレクターに就任し、教職と両立しながら県全体のユース育成を推進してきました。そして技術担当（FAコーチ）の専任化が全国的に始まる2020年度に向けて2019年にオフアをいただき、今後のサッ



神奈川県FAで活動する中村元彦FAコーチ

カー界のためにと決心し、26年間勤めた県立教員を辞めてFAコーチに就任しました。同じタイミングでチーフインストラクターの職も引き継ぎ、現在はFAコーチ、ユースダイレクター、チーフインストラクターとして活動しています。

—専任として活動するメリットをどのように感じられていますか。

中村 ユースダイレクターとして活動していたときは、教員の仕事とチームの活動の合間を縫って現場に向かっていた。教員としての業務が9割、残りの1割あまりでその仕事をしなければならなかったのが、今は100%の力を神奈川県サッカーに注いでいます。とはいえ、神奈川県は広域で、まだ訪問できていない地域がありますし、私の存在を知らない人や話したことがない人も大勢います。専任化によって足を運べるようにはなりましたが、まだこれからのなど感じています。

—FAコーチに就任されてからは、現場に顔を出すように努めてこられたのでしょうか。

中村 フットワークが軽いのが取り柄ですからね（笑）。育成、強化、指導者養成、各大会部会、普及の

それぞれの担当者とコミュニケーションを取って、実情や課題の把握に努めてきました。約2年かかってやっと全体が見えてきたという感じですね。

トレセン活動や指導者養成など私が直轄している業務では改革を進めています。それぞれのセクションの担当者の皆さんは日々の運営・進行に追われ、「改革」にまでなかなか頭が回っていないのが現状です。そこで大事なのが、「自分たちで変えよう」と皆さんに思ってもらうこと。こちらから進むべき方向を提示することはできませんが、自分たちで課題を解決する、改革していくといった思考にならないと何事も長続きしません。そういう意味では、いろいろなところに足を運び、そこにいる人たちと話をし、「こうなったらいいね」といった将来像を描きながら、それをまた会議や現場で多くの人たちと共有する。同じ方向を向いて改革を進めていけるよう、まずは指導者たちのマインドを変えるべく取り組んでいます。

—そうした活動を進める上で、何か指針のようなものはあるのでしょうか。

中村 技術部会の施策や取り組みをもっと「見える化」し、グラン

ドデザインを示すべきとの声も上がっており、神奈川県FAが定めた「かながわサッカービジョン」に基づいて重点的に取り組むべきことを今一度洗い出しています。そこからFAコーチがやるべきことや、組織としての目標を定め、役割分担をしながら技術部会で組織的に動いていきたいと考えています。

指導者養成の改革とトレセン活動の充実

—チーフインストラクターを務めていらつしやることもあって指導者養成ではさまざまな改革を進められています。

中村 指導者養成では、D級、C級、B級それぞれで多くのコースを開催できるようにしました。D級コーチ養成講習会はこれまで年間5コースほど開催していましたが、2021年度は21コースを開催、今年度は30コースほどに拡大する予定です。ニーズも多く、定員の3〜4倍の応募がありますね。また、C級コーチ養成講習会も24人の募集枠に対して100人を超える応募があるので、今年度は一人でも多くの指導者が受講できるように12コース開催を予定しています。B級コーチ養成講習会のFAコースについても、私がインストラ

クターを務めて毎年3コース実施
できています。ライセンスコース
を受講し、われわれの考えているこ
と、やろうとしていることを理解し
てくれる指導者が増えているのは
大きな成果だと感じています。

——それだけのコース数を設定す
るのは簡単ではないと思います。

中村 県内を8地区に分けていま
すが、D級講習会については、各地
区(郡市協会)で日程や場所、受講
者を確保すれば、こちらからイン
ストラクターを派遣して講習会を
開催するといった地区主導型を取
り入れました。反響も良く、すで
に各地区で1回は講習会を開催で
きています。相模原地区では今年
は3コース(各コース定員40人)が
計画されており、計120人のラ
イセンス取得者が誕生する予定で

す。それによって地区の運営者や
指導者、現在活動する35人のイン
ストラクターが連携し合うように
なり、各地区からD級だけでなく
C級講習会の開催希望も届くなど
広がりを見せています。

——今後は指導者養成全体をど
のように発展させていくお考えで
しょうか。

中村 コース数の拡大にはどうし
てもハード面の問題が出てくるの
で、施設を保有するJクラブや大
学・高校とも協働しながら模索し
ていきたいと考えています。また、
これまでコースごとに内容等に少
しづらつきがありました。各イン
ストラクターとベクトルを合わ
せて、それを統一する流れも出来上
がってきています。今後はさらに
インストラクターを増員していけ
ればと思います。



「現状を把握して終わりではなく、次のアクションを起こす。次の10年でどうなるかを考えることが大事」と中村FAコー
チは言う

——神奈川県FAだ
けで44カテゴリの
トレセン活動を主催
しているのも大きな
特徴かと思えます。

中村 トレセン活動
は盛んですが、場所に
よって活動内容に多
少の差異があるのが

課題でした。現在は、トレセン責任
者会議で各地区・カテゴリでの
課題や改善策を共有したり、私が
現場に足を運んだときにアドバイ
スをしたりしながら、質を上げてい
けるようアプローチしています。

——長年続けているトレセン活動
の成果とは？

中村 日本人として初めてドイ
ツ・ブンデスリーガでプレーした
奥寺康彦さんを筆頭に、県内の各
チームからタレントを見つけて、
日本を代表する選手に育て上げ
てきた歴史が神奈川県にはありま
す。今の日本代表でも遠藤航選手
や伊東純也選手がそうで、磨けば
光る選手はたくさんいます。日本
サッカーには、学校部活動やクラ
ブチームなどさまざまなパスウェ
イが存在しますが、エリート選手

だけでなく、グラスルーツまでいろ
いろな選手に刺激を与えて、引き
上げる土壌があるのは強みとも言
えます。指導者養成でも必ず、「こ
れだけの選手がいます。われわれ
の目の前、また隣のチームにそうい
う選手はいます」といった話をして
います。

——普及面ではどのようなアプ
ローチが必要だとお考えでしょ
うか。

中村 少し話はそれるかもしれま
せんが、神奈川県では育成年代全
般で、勝負にこだわる指導者が散
見されます。指導者が勝負にこ
だわるあまり、サッカーを楽しめ
ずにやめてしまう選手が出ないよ
う、もつと普及目線といえますが、
サッカーの楽しさを伝えることに
も目を向けてほしいと思います。

能力を伸ばすことだけでなく、生
涯スポーツとしてのサッカー環境
をつくっていくことが大事。押し
付けるのではなく、選手の「やりた
い」を引き出せるコーチングを指導
者養成でも伝えていければと思っ
ています。

——キッズ活動などはどのように
推進していきたいですか。

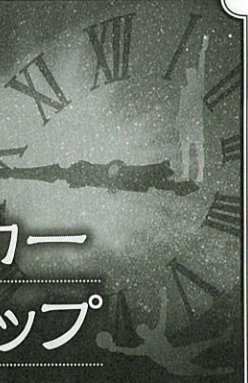
中村 神奈川県にはJクラブが六

つあり、各クラブがそれぞれ普及活
動をしています。今後はFAと連
動した形にしていければと思いま
す。また、私がFAコーチ研修会
でキッズリーダーインストラクター
の資格を取得したので、今後はキッ
ズリーダー養成講習会を増やして
いきたいと考えています。

また、キッズ年代では「JFAス
モールサイドゲームガイドライン」
に沿って3対3や4対4を行うな
ど、年代に合ったピッチや人数を考
えていきたい。そして4種年代は
リーグ戦が来年から2部制になり
ますが、拮抗した楽しいリーグにし
ていかなければと考えています。

——最後に、今後の目標を教えて
ください。

中村 神奈川県はサッカーは歴史
があり、またJクラブを筆頭に多く
のクラブが存在する、まさに「サッ
カーどころ」です。情熱がある指
導者が多く、これまで多くの日本
代表選手を輩出してきました。今
後も継続して世界で活躍する選手
を生み出していけるような県であ
りたいと思います。またその一方
で、選手が(サッカー)シューズを
脱ぐときが来ても、その後もサッ
カーに関わり続けてくれるよう
な、良い環境をつくっていきたく
思います。



隔月連載

日本サッカー タイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会(JFA)は、2021年9月に創立100周年を迎えた。本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。第24回は引き続きFIFAワールドカップをテーマにお届けする。

※本連載は隔月での連載になります

オシム監督からのバトンを受け継いだ岡田監督の下、2010年のワールドカップに出場。ラウンド16で惜しくも敗退を喫した



第24回 FIFAワールドカップへの挑戦(4) 〜期待された2006年大会は敗退、 紆余曲折の2010年はベスト16へ

文 国吉好弘 サッカージャーナリスト

2002年のFIFAワールドカップ日本／韓国が終わり、新たに日本代表監督に就任したのはブラジル人のジーコだった。

1980年代に世界的なスタープレーヤーだったジーコは、Jリーグ開設前から来日し、プロクラブとなった鹿島アントラーズをまずは卓越したプレーで、次いで現役を退いてもテクニカルアドバイザーとして支え、Jリーグ有数の実績を誇るクラブにした。日本をよく知り、世界もまたよく知る絶大なカリスマ性は次の日本代表

前、現地でドイツ代表と国際親善

目指す次期監督にユーゴスラビア(現、ボスニア・ヘルツェゴビナ)出身のイビチャ・オシムを選んだ。ジェフユナイテッド市原・千葉(現、ジェフユナイテッド千葉)を率い、Jリーグ下位に低迷していたチームを見違えるような戦いのできる集団に変貌させた手腕は確かだった。かつてユーゴスラビア代表を率いてワールドカップで好成績を残した経験もあり、理想的な監督といえた。

「代表チームを日本化させる。日本人の良さを生かしたサッカーをする」と掲げて、オシムは斬新かつ独特のチームづくりを進めた。07年7月に行われたアジアカップでは準決勝で敗れて4位に終わったが、EURO2008を控えたスイスとオーストリアに招かれた3大陸トーナメントで優勝するなど指揮官が導く方向へ順調に進んでいた。

しかし、07年11月、オシム監督は脑梗塞で倒れてしまふ。幸い一命は取り留め回復に向かうが、代表監督の継続は不可能となり、JFAは98年大会を指揮した岡田武史に白羽の矢を立てた。当初はオシム路線を意識して迷走することもあったが、次第に独自色を強くし苦戦しながらもワールドカップ4大会連続出場を果たした。

岡田監督は綿密な計画を立てて準備を進める。しかし、08年の東アジアサッカー選手権や国際親善試合で思うような結果を出せず、南アフリカに入る直前にスイスで対戦したコートジボワール代表に0-2で完敗を喫すると「このままでは本番で勝てない」と方向転換を決意。前からプレスをかけるアグレッシブなスタイルを捨て、阿部勇樹をアンカーに置いて重心を下げ、1トップには本田圭佑を起用した。

試合を行い、最終的に追いつかれたものの、強豪を相手に互角以上の戦いをして本大会への期待を膨らませた。

ところが、本大会の初戦、オーストラリアに先制しながらも終盤に追いつかれると一気に逆転され、1-3で敗戦。ショッキングな結果に浮足立ち、続くクロアチアには0-0で引き分け、ブラジルとの最終戦は先制しながら盛り返されて1-4で大敗し、グループステージ敗退となった。この大会は異常気象で暑さに悩まされる想定外の事態はあったが、02年大会の主力がほとんど残っており、前回以上の成績が期待されただけに残念な結果だった。

ドイツ大会の反省を踏まえ、JFAは10年の南アフリカ大会を

この変更が功を奏し、初戦のカメルーン戦では押されながらも粘り強く守り、本田のゴールで1-0と、4大会目にして初めて初戦で勝利を挙げた。第2戦のオランダには0-1で敗れたが、最終戦では本田と遠藤保仁が鮮やかなFKを決めてデンマークを3-1で破る。2勝1敗でグループステージ2位となり、ノックアウトステージ進出を果たした。

ラウンド16で対戦したのは日本以上に守備に重点を置くパラグアイ。勝機は十分にあったが、共に堅い守りを崩せない。0-0のまま延長戦でも決着はつかず、日本はPK戦で3-5と敗れてベスト8進出を逃した。

岡田監督は綿密な計画を立てて準備を進める。しかし、08年の東

フットサル 語り場



日本サッカー協会 (JFA) は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。

本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及をそれぞれ統括するダイレクターおよび各カテゴリーの代表監督が登場し、リレー形式で情報をお届けする。

木暮賢一郎 フットサル日本代表監督兼U-19フットサル日本代表監督

充実した活動の裏に 綿密なプランニングあり

コーチングスタッフの ワークモデルも作成

皆さんが抱く監督のイメージは、試合中にスーツ姿で選手に指示を出している人、時折、戦術ボードと向き合って作戦を練っている人ではないでしょうか。大会に向けて選手を選考したり、トレーニングキャンプを組んでチームの強化にあたる姿を思い浮かべる人もいるかもしれません。しかし、実際は「プランニング」が私の業務の多くを占めています。

プランニングと言っても、その内容は多岐にわたります。短期・中期・長期の目標を立てることはもちろん、どのような目的で一つ一つの大会に臨むのか、そのためにどう選手を選ぶのか、戦術をどのように浸透させていくのか、を考えることもプランニングです。

選手選考とチームの強化をスムーズに行うため、私は代表チームのコーチングスタッフの「ワークモデル」をつくっています。簡単に言うと各スタッフの仕事の振り分けのようなものです。週末にFリーグの試合を視察するとき、特定の選手のこういうプレーを観察してほしい、試合映像を記録したら、このようなスカウティングビデオを作ってほしいといった情報を事前に伝え、試合後は各スタッフが持ち寄った最新情報やスカウティングビデオを見て、チーム編成に役立てています。

U-19フットサル日本代表の監督を兼務していることもあり、育成年代の選手もトラッキングしています。特に力を入れているのが選手のリスト化で、下は中学3年生からリストに加えています。10代半ばの有望な選手を把握することで、その選手がいつ年代別の代表チームに入り、ゆくゆくはフットサル日本代表の選手に成長するか、明確なイメージを持ちながら強化につなげることができます。

ここ数年は、コロナ禍の影響もあって10代の選手が国際経験を積む場が失われています。本来ならば国際舞台でプレーすべきだった若手もリスト化し、いつ国際経験の場を与えるか考えながらプランニングしています。



フットサル日本代表候補のトレーニングキャンプでの一コマ。チーム強化も、監督の数ある業務の中の一つ。「なかなか表に出ない仕事が多く、パソコンの前にいる時間が長い」と木暮監督

予定を変える勇気も ときには必要

計画したものを道筋に沿って進めるためには、短期的な視野と長期的な視野を持つことが不可欠です。そのどちらかが欠けていると、進むべき方向を見失います。私は選手としてボールを蹴っていた頃から物事を俯瞰することを意識してきました。今も自分自身が立てたプランを「これは本当に実現できるか」「今日の練習は盛りだくさんかな」と客観視して、ほかのコーチングスタッフと相談しながら進めています。

もっとも世界にはさまざまなタイプの監督がいます。極端なことを言うと、自分の考えや情報をコーチと共有するかどうかは、監督の意向次第。選手を選考するとき、一人で決めてから、コーチに事後報告する監督もいるでしょう。

その点、私は思っていることを率直に言ってほしいタイプで、物事をオープンにすることを好みます。透明性を大事にしているので、「木暮監督は何を考えているんだろう」というスタッフはいないと思います。

プランニングの話で最後に補足です。練習の予定一つとっても決めたから満足だとか、決めたから絶対にやらなければいけないというわけではなく、その予定を変える勇気も大事だと考えます。プランを立てることは大事ですが、それがゴールではありません。まずは自分が決めたことを実行すること。それが現実的でなければ、プランを変更する柔軟性も持ち合わせる。要所要所でしっかりと判断することで、選手も迷いなく指導者についてきてくれるはずですよ。

● サッカーとの出会いと継続

私に住む関東地域では、例年より随分早い6月末に梅雨明けが発表され、連日とても暑い日が続いていました。しかし、7月中旬までは大気の状態が不安定で雨が降る日が多く、スッキリしない天候でした。7月下旬になると朝からセミの音が耳を突くようになり、「本格的な夏はこれからだな」と勝手に思いながら歩いていきます。

新型コロナウイルス感染症の終息はまだ現実的ではないように思います。しかし、中止となっていた大会やイベントが多少の制限はありつつも実施されています。私もサッカーの現場に足を運び、試合や活動を直接見る機会が多くなりました。真っ黒に日焼けした大勢の指導者に会いました。プレーヤーも生き生きとサッカーを楽しんでいます。サッカーやスポーツは日常に豊かさを与えてくれます。

東京オリンピックから一年が過ぎたタイミングで、そのレガシーについて多くのメディアが取り上げています。施設などのハード面だけでなく、スポーツの意味や価値を考えたり、国際大会の運営、競技への関心といったソフト面でのレガシーが今どうなっているのかを整理しておくことは必要だと思います。

国立競技場はアクセスが良く、サッカーの日本代表戦だけでなく、Jリーグや海外チームとの親善試合でも多く

の観客を集めています。2025年には世界陸上の開催が決定しています。

一方、東京オリンピックのために新設された、ポート・カナリーの競技会場となった海の森水上競技場は苦戦しているようです。何とか有効利用してほしいと思います。大会終了後、スポンサーが離れて十分な活動ができていない競技も多くあります。

スケートボードは東京大会で人気スポーツになりました。競技として認知され、施設も増えているようです。その上、日本人が世界のトップレベルをリードしていますので、ますます盛り上がるのではないのでしょうか。同じアーバンスポーツで、DJの音楽に合わせて1対1の対戦形式で技術や表現力などを競うダンススポーツ「ブレイキнг」は、2年後のパリオリンピックの新競技として実施されることが決まっています。スポーツの可能性は広がります。しかし、多くの人に親しまれている競技は現状にあらをうかがってはいけません。サッカーも同様です。

日本サッカー協会(JFA)は全国の約5000の幼稚園・保育園でキッズの巡回指導を実施しています。その全てに、2年をかけてミニゴールとボール10個を配布する取り組みを始めています。子どもたちの遊びの一つとして、各園でボールを蹴っている姿を見たいと思っています。そして、園の先生や保育士さんなど育児の専門家、保護者

隔月連載

サッカー心育論

Vol.75

～指導者は何を考えるべきか～



中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会会長 / JFA普及ディレクター / JFAキッズプロジェクトメンバー / 筑波大学体育系教授)

の方も巻き込んで、子ども遊びが広がり、社会性を育むことにつながっていくばいなど考えています。

新たな事業として、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社と共に女子サッカーの新プロジェクト「JFA Magic Field Inspired by Disney」を発足しました(64頁65ページ参照)。サッカーを通じて、子どもから大人まで全ての女性が新たな世界に踏み出す一歩を応援するプロジェクトです。キックオフとして、ディズニープリンセスを起用し、全国7カ所で小学1～3年生のサッカー未経験者を対象に、誰でもサッカーを楽しめる「JFAファミリーサッカーフェスティバル First Touch」を開催しています。このフェスティバルがサッカーの楽しさや面白さを知ってもらうきっかけになることを期待しています。

各都道府県サッカー協会でも、各地の実情に応じたさまざまな事業が展開されています。茨城県サッカー協会は、中学校の部活動でサッカーをしている選手の手が多く、夏の大会が終わると部活動から離れてしまい、サッカーをする機会がなくなっていることに問題意識を持っています。そこで、中学3年生が継続してサッカーができる場をつくり、高校生年代でのサッカー活動に向けてレベルアップを図る環境を整えること、またはサッカーを楽しめる場を設けることを目的とした活動を県内5地域で展開しています。9～12月にかけて多

くの中学生在が参加し、他校の選手との交流の場にもなっていて、とても良い雰囲気で行われています。

サッカーに出会い、サッカーを続けやすい環境を整えることは大切です。これまでにもいろいろな事業を展開していますが、あらためて自分たちの取り組みを俯瞰してみることが必要かもしれません。やれることを着実に、小さな一歩を踏み出す。それを日本中で実行できれば素晴らしいと思います。

東京オリンピックのおかげで、他競技の多くのアスリートの名前を知ることができました。しかし、一年もたつと国際大会で活躍するアスリートの名前にも少し変化が見られます。もちろん継続して活躍しているアスリートもたくさんあります。競技スポーツは華やかな一面もありますが、実際は毎日コツコツとトレーニングを積み上げる地味な活動がほとんどです。積み重ねなくしてトップアスリートになる人はいません。練習できる環境があり、競い合う仲間がいることで鍛えられていきます。世界で戦えるアスリートが絶えることなく出てくる源は、やはりグラスルーツ(普及)なのだと思えます。「グラスルーツなくして、代表の強化なし」です。

私たちが学生の頃は、夏休みは「鍛えるとき」であり、多少無理なこともしていたと記憶しています。今は考え方が変わってきています。本格的な夏に応じた適切なサッカー活動が求められています。



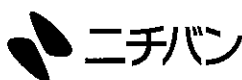
日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER

TOYOTA



molten[®]
For the real game

GREENPROJECT PARTNER

TOA
東亜道路工業

FUJITA
Daiwa House Group

JYD SUPPORTER

Deloitte.
デロイト トーマツ

 **日本総研**
The Japan Research Institute, Limited

The Pokémon Company

あそびと教育



バーネルンド

JYD



第102回天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会のラウンド16、7月20日に東京都の味の素スタジアムで行われた東京ヴェルディ対ジュビロ磐田は魂をゆさぶられる一戦でした。うだるような暑さの中、延長戦まで120分間の熱戦は2-1で東京Vの勝利に終わりましたが、勝敗を超えて見る者の心を打つ試合だったと感じました。

現在、J2の中心でもがいている東京Vですが、天皇杯では6月に行われた3回戦でJ1王者の川崎フロンターレに1-0で粘り勝ちという番狂わせを演じ、大きな話題になりました。しかし7月13日に予定されていたラウンド16を前に大きなピンチに襲われます。

チーム内に複数の新型コロナウイルス陽性者が出て、7月11日から6日間もチーム活動を停止せざるをえなくなったのです。当然、天皇杯の試合は中止となり、磐田の了解を得て決まったのが、1週間後、20日の試合だったのです。

しかしチーム練習ができたのは3日間だけ。それ以前の6日間は、部屋から出ることができなかった選手、1人で公園を走ることは許された選手など、さまざまだったといえます。その間、トレーナーが個々に連絡を取り、コンディションの維持に努

いつも心に

連載 Vol.112

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に扱うこと

心打つ120分間の戦い

めてきました。

序盤は磐田がやや優勢のように見えたが、東京Vも経験豊富なMF梶川諒太を中心にパスをつないで反撃し、一進一退の展開。そうした中から後半の37分に東京VがPKのチャンスをつかみ、FW新井瑞希が決めて均衡を破ります。磐田は諦めずにパワープレーに出てゴールに迫ります。そしてアディショナルタイムに左からMF松本昌也が入れたクロスをファーポストでDF伊藤慎人が頭で折り返し、FWジャーマイン良がゴールに送り込みます。

90分間ゆるめることなく最前線からプレスをかけ、戦い続けてきた東京V。ここで大きく崩れても不思議はありませんでした。しかし延長戦を前に、城福浩監督は本来MFの西谷亮とDFの奈良輪雄太を2トップに並べるという大胆な采配を見せます。2人とも交代で入ったばかりの選手です。「前線からプレッシャーをかけ続けるために」(普段のポジションに関係なく走る選手を置きたかった) (城福監督)という狙いでした。延長後半9分に決勝ゴールを決めたのは奈良輪でした。左CKがクリアされたのをベナルティーエリア外で拾った彼は、迷わず右足を振り抜き、23メートルの距離からゴール左に突き

刺したのです。

奈良輪は34歳のベテラン選手。主にサイドバックでプレーしています。しかし延長戦からFWになった彼は、30分間、最前線で全身全霊をかけたかのような猛ダッシュを繰り返し、相手守備陣にプレッシャーをかけた続けました。

「この試合も、今日この瞬間でサッカー選手が終わってもいいというテンションでサッカーをしてきた。それがたまたまゴールというプレゼントになった」と試合後に語った奈良輪。そう思った思いがストリートに伝わってくるゴールであり、プレーりでした。

東京Vは18年ぶりの準々決勝進出です。しかし試合後の城福監督は冷静な口調でこう話しました。

「われわれのクラブでのコロナ事情で試合を延期したことについて、試合関係者、ジュビロの関係者、サポーター、メディアを含めた皆さまにお詫び申し上げます」と、勝った喜びよりも、謝罪と感謝の念を伝えたのです。

実は相手の磐田も大変な状況でした。7月13日に2人の選手とコーチ1人が陽性となり、活動停止にはならなかったものの、17日のJ1・FC東京戦で

新たな負傷者も出て、チーム編成がぎりぎりの状態でした。1週間前に試合ができていたら：と感じたファンも少なくなかったでしょう。

しかし伊藤彰監督はひと言も言い訳や愚痴めいたことは言わず。120分間よく頑張ってく



第102回天皇杯のラウンド16、東京Vと磐田の対戦は共に譲らず120分に及ぶ激闘に。試合を決めたのは東京Vの奈良輪(右)のゴールだった

れたと、選手たちをほめました。両チームとも許された6人の交代選手を使いきり、120分間、ペスを落とさずに戦い抜いた試合。両チームの監督と選手たちの気持がストリートに表れたプレーが、心を打ったのは当然でした。

サッカーファミリー広場



『日本サッカー協会百年史』予約販売のお知らせ

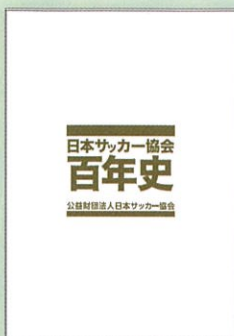
日本サッカー協会（JFA）は昨年9月10日に創立100周年を迎えました。この記念事業の一環として『日本サッカー協会百年史』を編集し、発刊する運びとなりました。

同誌は、日本サッカーとJFAが歩んできた軌跡をさまざまな教訓を含んだ記録として後世に伝えるとともに、日本サッカーの存在価値と社会的役割を多くのの人々と共有することに主眼を置いて発行するものです。

なお、書店での販売はなく、オンラインでの予約販売および一般販売のみとなります。予約販売については下記の通りです。

【概要】

書名：『日本サッカー協会百年史』
発行：公益財団法人日本サッカー協会



表紙イメージ

発行目的：日本サッカーおよび日本サッカー協会の歴史をひも解き、日本サッカーがスポーツと社会に果たしてきた役割、その軌跡を後世に伝える。

収録対象：1873年～2021年3月末（2021年度事業）

収録内容：全6部構成、別途記録編・資料編を集録

- 第1部 日本サッカークオニクル
- 第2部 日本代表
- 第3部 全国大会
- 第4部 全国リーグ
- 第5部 世界とのつながり
- 第6部 組織の歩み（事業の変遷）

記録・資料編

冊子仕様：A4判オールカラー 上製本、700頁予定、箱入り

予約販売価格：22,000円（税込／送料込）

※一般販売価格25,000円（税込／送料込）

発送予定：2022年12月以降、順次発送予定

購入方法：下記URLより申し込み

https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry

申込期限：2022年9月30日（金）

※一般販売は、予約販売による配本後、JFA STOREにて開始予定。



「めざせクラッキ！」に挑戦！シールを集めて応募しよう！ 応募した未就学児全員にスターターキットをプレゼント

日本サッカー協会（JFA）は、子どもたちがスポーツに触れ、楽しくからだを動かすきっかけをつくることを目的に、「スターターキット」をプレゼントする企画をスタートする（未就学児が対象）。



子どもの成長に必要な動きをバランスよく身につけられるJFAプログラム「めざせクラッキ！」をクリアし、各地で開催される対象イベントに参加してオリジナルシールを獲得すると、応募した子どもたち全員に、ポケモンがデザインされたオリジナルサッカーボールやリュックなどが入った「スターターキット」をプレゼント。JFAキッズアンバサダーを務めるストライカーポケモン「エースバーン」と内田篤人氏が「めざせクラッキ！」を実演する映像も8月2日から公開されている。

▶▶▶「めざせクラッキ！」ウェブサイト

www.jfa.jp/grass_roots/jfa_challengegame/craque/

【スターターキット概要】

- ・サッカーボール3号軽量球
- ・リュック（3色から1色を選択）



- ・サッカー関連用具
- ・「めざせファンタジスタ！」ハンドブック（キッズ向け）、
- 「めざせベストサポーター」ハンドブック（保護者向け）

【スターターキット応募方法】

①二つの課題をクリア

課題1：「めざせクラッキ！」の全ステージ合格

（ステージ1から6まで順番にチャレンジ）

※「めざせクラッキ！」ハンドブックの申し込みは下記フォームより

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfXueNJMzZ6It046C3FqjzOU5DuT6_5E2VK_NJGzhBetKecEw/viewform



課題2：各都道府県サッカー協会が開催する対象イベント・フェスティバルに参加してシールを2枚ゲット

※限定シール配布対象イベントは下記で参照

https://www.jfa.jp/grass_roots/jfa_challengegame/craque/starter_kit/event.html



②JFA公式アプリ「JFA Passport」（66～67ページ参照）をダウンロードし、お子さまのアカウントでログイン。

スターターキット申し込みページにアクセスし、「めざせクラッキ！」ハンドブックのシールを貼ったページの画像をアップロード。送付先情報を入力して申し込み。

※スターターキットの送料は申込者の負担となる。スターターキット応募対象は未就学児に限る。



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005）渋谷支店（135）
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【FAX】廃止

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TrvO-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間：平日12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）



EAFF E-1 FOOTBALL CHAMPIONSHIP 2022 FINAL JAPAN



SAMURAI BLUEが 4大会ぶりの優勝

EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会



SAMURAI BLUE (日本代表)は、7月19日から27日に開催されたEAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会で香港、中国、韓国と対戦し、2勝1分けて4大会ぶりに優勝した。

SAMURAI BLUE

※SAMURAI BLUEメンバー、公式記録などは31~32ページ掲載

フレッシュな面々で
好スタートを切る

EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会は当初、中国で開催される予定だった。しかし、中国が政府の新型コロナウイルスに対する防疫対策を理由に断念したため、東アジアサッカー連盟(EAFF)は今年4月、各国に開催の意思を打診。日本と韓国がホストの意思を示したことからEAFF理事会で投票を行い、その結果、日本で開催することが決まった。

男子は、FIFAランキング上位4チームが決勝大会に出場することになり、日本と中国、韓国、香港が総当たり戦で順位を争った。

森保一監督は7月13日のメンバー発表会見で「目標は優勝。選手層をより厚くして結果と内容をもってワールドカップへ向かっていきたい」とコメント。国際マッチデー対象外の期間となるため、国外のクラブに所属する選手が不在の中、Jリーグでプレーする選手のみを招集した(※メンバー発表時、神戸に所属していた橋本拳人は招集後にスペインのSDウエスカへの移籍を発表)。初招集された選手に



町野は巧みなホストプレーで周囲を生かしながら、自らもゴールを挙げて、3得点で相馬と共に大会得点王に輝いた

は、1980年代に活躍した父の貴史氏に続き、親子2代での日本代表入りを果たした水沼宏太、JFAアカデミー福島出身者として初の日本代表メンバーとなった小池龍太(共に横浜FM)らが名を連ねた。迎えた香港との初戦、日本は序盤から攻勢に出る。2分、相馬勇紀(名古屋)が直接FKを沈めて先制すると、この後も試合の主導権を握り、香港ゴールへと攻め込んでいく。20分、山根視来(川崎F)のクロスボールに町野修斗(湘南)が頭で合わせて追加点をマーク。22分には

■第1節
2022年7月19日 19:20
茨城県/茨城県立カシマサッカースタジアム

日本 **6-0** 香港

4-0
2-0

2' 相馬 勇紀
20' 町野 修斗
22' 西村 拓真 55' 相馬 勇紀
40' 西村 拓真 57' 町野 修斗

GK ②鈴木 彩艶 MF/FW ⑨西村 拓真
DF ②山根 視来 → 64' ⑩岩崎 悠人
→ 74' ③大南 拓磨 ⑪町野 修斗
③谷口 彰悟 ⑫相馬 勇紀
→ HT ③中谷 進之介 → 64' ⑭宮市 亮
⑤畠中 稜之輔 ⑮水沼 宏太
⑬杉岡 大暉 → 64' ⑯脇坂 泰斗
MF/FW ⑥岩田 智輝 ⑰藤田 譲瑠チマ

■第2節
2022年7月24日 19:20
愛知県/豊田スタジアム

日本 **0-0** 中国

0-0
0-0

GK ①大迫 敬介 MF/FW ⑩脇坂 泰斗
DF ⑨佐々木 翔 → 81' ⑨西村 拓真
→ 62' ⑬杉岡 大暉 ⑫橋本 拳人
④中谷 進之介 ⑭宮市 亮
②荒木 隼人 → 69' ⑯満田 誠
⑤小池 龍太 ⑰細谷 真大
MF/FW ⑦野津田 岳人 → 62' ⑪町野 修斗
⑧森島 司 → 81' ⑫相馬 勇紀

■第3節
2022年7月27日 19:20
愛知県/豊田スタジアム

日本 **3-0** 韓国

0-0
3-0

49' 相馬 勇紀
64' 佐々木 翔
72' 町野 修斗

GK ⑩谷 晃生 MF/FW ⑪町野 修斗
DF ③谷口 彰悟 ⑫相馬 勇紀
⑤畠中 稜之輔 → 87' ⑯満田 誠
⑨佐々木 翔 ⑮水沼 宏太
②小池 龍太 → 59' ⑭宮市 亮
MF/FW ⑥岩田 智輝 → 78' ⑧森島 司
⑨西村 拓真 ⑰藤田 譲瑠チマ
→ 78' ⑩脇坂 泰斗 → 87' ⑫橋本 拳人

【大会個人賞】
MVP: 相馬勇紀 (日本)
Top Goal Scorer: 町野修斗、相馬勇紀 (日本/ともに3得点)
Best Defender: 谷口彰悟 (日本)
Best Goalkeeper: キム・ドンジュン (韓国)
Best Referee: AKHROL RISKULLAEV (ウズベキスタン)

相馬のパスを受けた西村拓真(横浜FM)が決め、3-0とした。西村は40分にも左足のシュートを突き刺し、日本が4点をリードして折り返す。日本は後半も攻撃の手を緩めることなく、相馬と町野が1点ずつ追加して、6-0で勝利。守っては相手のシュートを3本に抑えるなど、充実した内容で初戦を終えた。

続く2戦目、日本は先発メンバーを初戦から総入れ替えして中国戦に臨んだ。初戦同様、日本は最終ラインからボールをつなぎ、高い位置でパスを回しながらチャンスをつかがう。自陣に守備ブロックを敷く中国に対し、脇坂泰斗(川崎F)や宮市亮(横浜FM)が果敢にシュートを放つなど、序盤からゴールを狙った。前半終了間際には、宮市のクロスボールに橋本拳人(SDUエスカ/スペイン)が反応、フィ

攻めの姿勢を貫き 韓国から3得点

7月27日の最終戦、2試合を終えて勝ち点4の日本は、同勝ち点6で首位に立つ韓国との試合を迎えた。



韓国との最終戦で貴重な先制点を挙げた相馬。CKで佐々木の追加点を呼び込むなどセットプレーの担い手としても存在感を示した

逆転優勝には勝利が必要となる一戦、日本は開始直後に町野がシュートを放つなど、スタートから得点への意欲を示す。19分には西村が高い位置でボールを奪うと、ドリブルで持ち込んだ相馬がシュート。これはゴールポストに嫌われたが、日

本は岩田智輝と藤田譲瑠チマ(共に横浜FM)らが出足の鋭い守備から攻撃に転じ、徐々に試合の流れを引き寄せていく。

試合が動いたのは49分だった。右サイドでボールを持った小池の横パスを岩田がスルー。フリーで

パスを受けた藤田がクロスボールを送ると、ファーサイドに走り込んだ相馬が頭で合わせ、日本に先制点をもたらした。これで勢いに乗った日本は積極的にシュートを放ち、追加点を狙う。64分、谷口彰悟(川崎F)のパスを受けた町野が強烈なミドルシュート。ゴールにはならなかったが、一連のプレーで得たCKから追加点が生まれる。相馬

が送ったボールに佐々木翔(広島)が反応し、リードを2点に広げた。この8分後、日本は見事なパスワークで3点目を挙げる。藤田の

縦パスに反応した西村が、ペナルティエリア内に走り込んだ小池にダイレクトパスを送ると、小池もワンタッチで折り返す。ゴール前に詰めていた町野がこれを難なく押し込み、3-0とした。

韓国のシュートを4本に抑えた日本は3点のリードを保ったまま完封勝利。2013年以来、4大会ぶりの大会制覇を成し遂げたチームに、森保監督は「初めて(コンビを)組む選手も多い中でチームが短期間で機能したのは、選手たちがオン・ザ・ピッチ、オフ・ザ・ピッチでコミュニケーションを取って合わせてくれたから」とコメントした。キャプテンとしてチームを鼓舞した谷口は、「正直ほっとした。優勝

することにこだわりながらやっていたので、それが達成できてうれしい」と安堵の表情を浮かべた。



なでしこジャパン、 2勝1分けで大会2連覇

EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会



なでしこジャパン(日本女子代表)は、7月19日から26日に開催されたEAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会で韓国、チャイニーズ・タイペイ、中国と対戦し、2勝1分けで2大会連続4度目の優勝を飾った。

**NADESHIKO
JAPAN**

※なでしこジャパンメンバー、公式記録などは33~34ページ掲載



韓国戦で国際Aマッチ初得点を挙げた長野(左)。植木が右サイドを突破してつくったチャンスをしっかりと決めた

**東アジアの頂点を目指し
チームの底上げを図る**

大会はコロナ禍により予選は開催されず、女子も、FIFA女子ワールドカップ上位4チームが決勝大会に出場することになったが、1位の朝鮮民主主義人民共和国が参加を辞退したため、日本と中国、韓国、チャイニーズ・タイペイが総当たりリーグ戦で順位を争った。

なでしこジャパン(日本女子代表)にとって、昨年10月に池田太監督が就任して以降、国内で挑む初の国際大会となった。

7月13日のメンバー発表会見、池田監督は「約1年後のFIFA女子ワールドカップに向けた底上げ」をテーマに挙げ、GK山下杏也加(一神戸)や菅澤優衣香(浦和)など経験豊富な選手を選出。また、「代表経験の少ない選手

やいろいろな組み合わせを試しつつ勝利を目指す」の言葉通り、林香奈絵(千葉)、中嶋淑乃(S広島島)を代表に初招集した。

前回の2019年大会で4大会ぶりの優勝を遂げ、連覇を狙う日本。今大会は3試合全てが茨城県立カシマサッカースタジアムで行われ、7月19日に韓国との初戦を迎えた。

清水梨紗(東京NB)がキャプテンマークを付け、センターバックには乗松瑠華(大宮V)と高橋はな(浦和)を配置。雨の中、声出し応援エリアから久しぶりにホームの声援を受ける日本は、33分、成宮唯(一神戸)がペナルティエリア内でボールを奪い、折り返したボールを宮澤ひなた(マイ仙台)が冷静に押し込んで先制に成功する。

後半には、約5年ぶりの代表戦となる杉田亜未(N相模原)をピッチに送る。開始早々、その杉田から植木理子(東京NB)にボールが通ったが、これは相手DFに阻まれた。ロングボールを起点に攻める韓国は59分、日本でもプレー経験のあるチ・ソヨンが一瞬の隙を突いて1-1の同点に。しかしその6分後、植木がドリブル突破で右サイドからゴール前にクロスを送ると、長野風花(フースカロライナ・カレッジ/アメリカ)が代表11試合目で国際Aマッチ初得点をたたき込む。「前回の試合でも決められる場面があり、自分としてもゴールがほしいと思っていた」と、韓国でプレー経験がある長野

■第1節
2022年7月19日 16:00
茨城県立カシマサッカースタジアム

日本 **2-1** 韓国

33' 宮澤ひなた
65' 長野風花

1-0
1-1

59' チ・ソヨン

GK 18 田中桃子	MF 10 長野風花
DF 2 清水梨紗	16 林穂之香
3 宝田沙織	17 成宮唯
4 高橋はな	→ 69' 15 千葉玲海菜
12 乗松瑠華	FW 19 植木理子
MF 7 宮澤ひなた	→ 86' 25 清家貴子
→ 90+2' 22 上野真実	
8 猶本光	
→ HT 14 杉田亜未	

■第2節
2022年7月23日 15:30
茨城県立カシマサッカースタジアム

日本 **4-1** チャイニーズ・タイペイ

14' 千葉玲海菜
45+3' 上野真実
58' 清家貴子
72' 菅澤優衣香

2-1
2-0

8スー・シンユン

GK 21 平尾知佳	MF 20 三浦成美
DF 3 宝田沙織	21 中嶋淑乃
→ 66' 12 乗松瑠華	→ HT 5 北川ひかる
6 宮川麻都	FW 13 井上綾香
24 林香奈絵	15 千葉玲海菜
→ 39' 26 高平美憂	22 上野真実
25 清家貴子	→ 66' 9 菅澤優衣香
MF 6 猶本光	
→ 90' 14 杉田亜未	

■第3節
2022年7月26日 19:20
茨城県立カシマサッカースタジアム

日本 **0-0** 中国

GK 1 山下杏也加	MF 16 林穂之香
DF 2 清水梨紗	13 井上綾香
3 宝田沙織	→ 65' 17 成宮唯
4 高橋はな	15 千葉玲海菜
6 宮川麻都	→ 80' 25 清家貴子
MF 7 宮澤ひなた	19 植木理子
10 長野風花	→ 90+2' 9 菅澤優衣香

【大会個人賞】

MVP: 清水梨紗 (日本)

Top Goal Scorer: 該当者なし

Best Defender: ワン・リンリン (中国)

Best Goalkeeper: 山下杏也加 (日本)

Best Referee: KATHERINE MARGARET JACEWICZ (オーストラリア)

チャイニーズ・タイペイとの第2節は、韓国戦から先発を9人入れ替え、林香奈絵、中嶋、井上綾香（大宮V）が国際Aマッチデビューを果たした。

日本は8分、CKから失点を喫してしまつ。1点を追う日本は、左サイドから中嶋が得意のドリブルで仕掛け、前線の千葉玲海菜（千葉シ）と上野真実（S広島R）がスムーズな連携で相手守備を揺さぶる。14分、猶本光（浦和）の右CKを千葉が頭で合わせて同点すると、前半アディショナルタイムには、猶本の左クロスから上野がヘディング



新戦力が攻守にアピール 積極的なプレーで2連勝

は待望のゴールを喜んだ。韓国も攻撃的な選手交代で反撃に出るが、日本がリードを守って2-1で勝利。池田監督は「相手のロングボールへの対応は一つの成果。奪ったボールをつないで相手陣内に押し込めなかった点も課題として見つかった」と試合を振り返った。

日本は後半、宮川麻都（東京NB）を左サイドバックに移動させ、清家貴子（浦和）を右サイドハーフに上げる。58分には、千葉のパスを受けた清家がゴール前で粘って追加点。66分に交代出場した菅澤は、その6分後にゴールを決めて、高い決定力を見せつけた。それぞれが躍動し、日本は4-1で逆転勝利。2戦を終えて唯一の2連勝となった。

我慢の戦いとなった中国戦 引き分けもタイトル獲得

引き分け以上で優勝が決まる日本は、GK山下が今大会初出場、センターバックの宝田沙織（リンシエーピングFC/スウェーデン）は3試合連続の先発出場となった。女子アジアカップを制した中国に対し、日本は序盤から攻撃を仕掛ける。優勝するためには勝

子（浦和）を右サイドハーフに上げる。58分には、千葉のパスを受けた清家がゴール前で粘って追加点。66分に交代出場した菅澤は、その6分後にゴールを決めて、高い決定力を見せつけた。それぞれが躍動し、日本は4-1で逆転勝利。2戦を終えて唯一の2連勝となった。

大会を終え、池田監督は「日本開催のE-1選手権で優勝できたことをうれしく思う。中国とは決着をつけたかったが粘り強く戦えたことは良かった。監督に就任してつんだ初タイトルに笑顔を見せ、「韓国のロングボール対策、中国のダイナミックなカウンターへの対応など、選手と共有して取り組んだ成果が得られた」と、結果だけでなく内容でも手応えをつかむ3試合となった。前線の守備やチャンスメー

利かない中国は、チャン・ルイが2分にシュートを放つなど日本ゴールに迫る。

51分、植木がシュートを放つがこれはクロスバーを直撃。成宮、清家を投入し、日本は打開を試みる。守備では「彼女（ワン・シャンシャン）が起点になるのは分かっていた。そこから攻撃されることはなかった」と宝田が振り返った通り、ワンの自由を奪った。互いに得点は挙げられず、スコアレスのまま試合は終了。2勝1分けとした日本が2大会連続4度目の大会制覇を果たした。

クが光った植木は「中国に勝ち切れなかったことは、選手全員が悔しい気持ちを持っている」としながらも、「優勝という最低限の目標をクリアできたことは良かった。今大会、自分でゴールを取れていないのはFWとして一番悔しいところ。課題として次につなげたい」と話した。

今大会の最優秀GKには山下が、大会MVPには清水が選出された。



世界をつなぐ旅が、 ここからはじまる。

AL RIHLA
アル・リフラ



FIFA WORLD CUP
Qatar 2022



国際サッカー連盟(FIFA)が主催するeスポーツ・サッカーの国別対抗戦「FIFAE Nations Cup 2022」が7月27日から30日にかけて開催された。サッカー e日本代表は初の世界大会に臨み、グループステージ6チーム中5位の成績で大会を終えた。

※サッカー e日本代表メンバーおよび大会結果は36ページに掲載



サッカーe日本代表、初の世界大会はグループステージで敗退

**世界の強豪を相手に
黒星先行で苦しい展開に**

サッカー e日本代表は、7月にデンマークのコペンハーゲンで開催されたeスポーツ・サッカーの国別対抗戦「FIFAE Nations Cup 2022」に出場した。

e日本代表は2020年と2021年の大会にも出場するはずだったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によっていずれの大会も中止となり、今回が初出場となった。

「FIFAE」シリーズを使い、2対2のチーム戦というレギュレーションに向けて、e日本代表として活動する5人のうち黒豆(CYCLOPS athlete gaming)、Web Nasri(鹿島アントラーズ)、Agu(Blu United eFC)の3人が選手登録され、Jay(川崎フロンターレ)がコーチ、youxme(無所属)はサポートメンバーとして同行した。

7月4日に行われた組み合わせ抽選会で、日本はフランス、ドイツ、スウェーデン、アラブ首長国連邦(UAE)、ペルーと共にグループBに入った。大会は24チームが4グループに分かれ、2日間のグループステージで各相手と2試合ずつ計10試合を行

い、4位以内に入ればノックアウトステージに進出できるというレギュレーションだ。日本は大会初勝利、そして4位以内を目指してグループステージに挑んだ。

初戦は2019年大会王者のフランスとの対戦。攻撃を寸断されてのカウンターで2点を失い黒星スタートとなると、個人部門の世界大会「FIFAE World Cup」王者を擁するドイツにも0-3で敗れ、スウェーデンにはスコアレスドローと苦しい試合が続く。4戦目のUAE戦も前半に先制される苦しい展開となったが、今大会初ゴールを挙げてすぐに同点に追い付く。しかし、後半はスコアを動かすことができず、1-1の引き分けに終わった。それでも、初日最後となるペルー戦では立ち上がりからゲームをコントロールし、24分に先制。その後、追加点を奪うことはできなかつたものの相手の反撃を許さず、1-0で今大会初勝利を飾った。

1日目を終えての成績は1勝2分け2敗の勝ち点5で4位。迎えた2日目の初戦はフランスに序盤から主導権を握られ、2点を先行される苦しい展開に。前半のうちに1点を返したが後半に2点を追加されて完敗を喫し

た。続くドイツ戦ではアグレッシブな動きで開始早々に先制すると、後半にも追加点を決めると、しかし逃げ切りに失敗して2点を奪われ、2-2の引き分けに。さらにはスウェーデンにも1-3と敗れ、この時点でグループステージ敗退が決定した。

敗退決定のショックからUAEにも0-3で敗れた日本。最後の試合ではペルーに2-0の完封勝利を飾ったが、最終成績は2勝3分け5敗、勝ち点9のグループ5位で、目標としていたノックアウトステージ進出はかなわなかった。それでも、初出場のFIFAE Nations Cupで確かな一歩を刻み、今後の成長に向けて多くの収穫を得た。

大会はグループステージ3位から勢い良く勝ち上がったブラジルがポランドとの決勝を制して優勝を果たした。



初めての世界大会に臨んだサッカー e日本代表(前列左から youxme、Jay、後列左から黒豆、Agu、Web Nasri)

令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会（男子）

【大会概要】

7月24日～30日、徳島県内の10会場で開催。各都道府県から1チーム、また加盟登録数の多い北海道、東京都、神奈川県、大阪府、開催権の徳島県から2チームの計52チームが出場し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は70分(35分ハーフ)。



前橋育英高校が激闘を制して 2度目の優勝に輝く

「躍動の青い力 四国総体2022」の愛称の下で行われた令和4年度全国高等学校総合体育大会（通称インターハイ）の男子サッカー競技は7月24日から30日、徳島県で開催された。

1回戦では過去3度の優勝経験のある帝京（東京1）が、大分鶴崎（大分）に7-2で大勝。帝京は、続く2回戦でも前回王者の青森山田（青森）に2-1で勝利した。全国大会初出場となった花巻東（岩手）と生駒（奈良）の2校は善戦するも実らず、初戦敗退に終わった。

2回戦からは地元・徳島の2チームが登場した。徳島市立（徳島1）はピハインドを追いつきながらも、試合終了間際の失点により、1-2で敗退。徳島科技（徳島2）は関大北陽（大阪2）の攻撃を止められず、0-5で涙をのんだ。

準決勝に名乗りを上げたのは帝京、昌平（埼玉）、前橋育英（群馬）、米子北（鳥取）の4チーム。2003年以来の決勝進出を狙う帝京は、途中出場の山下凜が奪ったゴールを守り抜き、昌平に勝利した。13年ぶりの頂点を目指す前橋育英と昨年度準優勝の米子北の一戦は両者譲らず、0-0で前後半を終え、PK戦でキッカー全員が成功した前橋育英が接戦を制した。

帝京と前橋育英による決勝は、8分に山本颯太がGKをかわ

してゴールを狙うなど前橋育英が攻め込んだが、帝京の堅守を崩しきれない。対する帝京もカウンターからチャンスをうかがい、前半終了間際に2度の決定機をつくったが、GK雨野颯真の好セーブに阻まれた。均衡が崩れたのは後半アディショナルタイム。堀川直人のパスを受けた高足善がドリブルでかわしてシュートを決め、前橋育英が1-0で勝利した。

2度目の日本一に輝いた前橋育英の山田耕介監督は、「決定的なチャンスを前半に外していた。こういうときはカウンターでやられるパターンが何度もあるので、リスクマネジメントをしなければならぬと伝えていた」と勝因を分析。敗れた帝京の日比威監督は「決めるところで決めないといけない。前橋育英は決定機のつくり方が私たちよりも上だった。全国大会で優勝するチームの技術だと思うので、見習ってもう1回チャレンジしたい」とリベンジを誓った。



スコアレスで推移した緊迫の決勝。試合終了間際に前橋育英の高足善（左）が値千金のゴールを挙げた



堅守が光る帝京（右）は決勝も粘り強く守ったが、あと一歩及ばなかった



3大会ぶりの関東勢対決となった決勝は白熱した戦いが繰り広げられた



帝京と昌平が対決した準決勝は、帝京が1点を守り切り、決勝へ駒を進めた

令和4年度全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)

【大会概要】

7月26日～30日、徳島市球技場など徳島県内の各会場で開催。各地域から1チーム、また加盟登録数の多い東北、東海、近畿、九州は2チーム、関東は3チーム、開催県である徳島県から1チームの計16チームが出場。試合時間は70分(35分ハーフ)で、ノックアウト方式で優勝を争う。



終了間際の一発! 大商学園高校がうれしい大会初制覇

男子と同じく徳島県が舞台となった「令和4年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会・女子」は、16チームが5日間にわたり熱戦を繰り広げた。今大会は鹿島学園(茨城)、AICJ(広島)、開催地の徳島商業が初出場を果たした。

夏の強い日差しの下、1回戦は波乱の幕開けとなった。前回大会優勝の神村学園(鹿児島)が鹿島学園に0-1で敗れると、同準優勝で2度目の大会制覇を狙う藤枝順心(静岡)も地元の鳴門渦潮(徳島)にPK戦で敗北。鳴門渦潮は2回戦で、最多5度の優勝を誇る日ノ本学園(兵庫)を追い詰めたが、PK戦で惜しくも敗退となった。

ベスト4には、関東代表の日本航空(山梨)、十文字(東京)、近畿代表の大商学園(大阪)、日ノ本学園が勝ち進む。同じ地域同士の対決となった準決勝は、十文字が2-1で日本航空を、大商学園が3-2で日ノ本学園を下す。共に地域大会決勝で敗れた相手にリベンジし、決勝に駒を進めた。

時折、雨風が強まる不安定な天候の中で行われた決勝戦。両校の応援団が詰め掛けてチームにパワーを送った。序盤からボールを保持して攻撃的に仕掛ける十文字に対し、大商学園は粘り強い守備で対抗し、素早いカウンターを繰り出す。前半をス

コアレスで終わると、後半は十文字が攻勢を強める。左サイドの氏原里穂菜らが前への推進力を発揮し、48分

にはCKのトリックプレーから氏原がシュートを放つが、これはポストに嫌われる。一方、終盤には大商学園の鬼頭こはなが左足で狙うも、クロスバーを叩く。0-0のまま延長戦へと突入した。

死力を尽くした戦いは、延長前半は十文字、同後半は大商学園がチャンスをつくる。迎えた88分、前線で前を向いた大商学園の亀井七奈が「ゴールが見えたので思い切って打った」と速めから右足を振り抜くと、これがゴールに吸い込まれ、ついに均衡が破れた。試合はそのまま終了し、大商学園が初優勝に輝いた。

試合後、大商学園の岡久奨監督は「防戦一方のゲームだったが、選手たちはよく耐えて走り抜き、勝ちにつなげてくれた」とコメント。一方、十文字の細川諒監督は「泥臭くないかと点は入らないなど。これから選手たちがどれだけ奮起してくれるか」と、今後に期待を寄せた。



決勝戦でチームを日本一に導くゴールを決めた大商学園の亀井七奈は「いろいろな人の思いを背負って戦っていたので、決めることができて良かった」と笑顔を見せた



ゴール後、歓喜に湧く大商学園イレブン。岡久奨監督は「しんどいときにも声を掛け、鼓舞し合って、厳しい時間を乗り越えたからこそ結果につながったと思う」と選手たちをたたえた



十文字のキャプテン・野口初奈は「試合を通して攻めてはいたが、決め切れないのは課題。守備でも最後まで気を緩めず、プレーし続けられなかった」と悔しさをにじませた



十文字の強力な攻撃に対して無失点に抑えた大商学園。キャプテンの長尾のか(左)は「押し込まれるシーンもあったが、全員で守備の意識を高め、守り切れたことが勝利につながった」と胸を張った

今年3月、日本サッカー協会（JFA）復興支援委員会の委員長に元日本代表の巻誠一郎氏が就任した。ロアッソ熊本に在籍時、2016年4月14日に発生した熊本地震を経験して以降、支援活動に取り組む傍ら、継続した復興支援活動と子どもたちのためのNPO法人ユアアクションを立ち上げた。JFAの復興支援委員会の委員長に任命された思い、復興支援に関する考え方や委員会として取り組みたいことなどについて話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年7月20日

サッカーという コミュニティの力を 最大限に生かしたい

社会のために活動する サッカー選手としての価値

——今年3月に復興支援委員長に
選任されました。就任を決意され
たお気持ちを聞かせてください。

巻 委員長の話をいただいたときは、僕なんかでいいのかなというのが率直な感想でした。ただ、僕自身、地元の熊本県で起きた2016年の熊本地震や18年の九州豪雨による球磨川流域の水害の当事者としてさまざまな災害を経験し、その後も復興支援活動が続ける中で、JFAとしてできることがあるのではないかと考え、引き受けました。

18年までプロサッカー選手として活動し、現役を引退してからはサッカー界を俯瞰することも増え、少し外から見えて気づいた「もったいない」ことができればいいなということにも取り組めたらと思っています。

——ご自身は6年前の熊本地震を
経験され、サッカーや生き方に対

する考え方が変わったと話されて
います。

巻 30歳くらいまでは選手として結果を求め、サッカーだけに集中していました。その後海外でプレーして、日本におけるサッカーの価値について考えることが増えたんです。

そして、与えられた環境の中で自分の価値をどう発揮するか、ピッチの外にも少しずつ目を向けるようになったときに熊本地震が起きました。当時、僕はJクラブのロアッソ熊本にいて、そのことを多くの人たちが知ってくださっていて、「こういうことをやりたい」と発信している人々が反応してくれて、支援してくれました。これは僕がサッカー選手じゃなかったら得られなかったことだなと。ピッチの外でも、サッカー選手には大きな存在意義や価値があるのだと強く感じました。サッカー選手が社会のために活動することで、選手自身の価値が上がり、クラブの存在価値も上がる。

ひいては、サッカー界の価値が上がる。それによって応援してくれる人が増えることも実感できたので、現役を引退してからも社会性のある活動に力を入れています。

——熊本地震では多くの支援が
さんやクラブに寄せられ、ご自身
も支援物資を現地に届けたり、避
難所を訪問されたりするなど精力

的に取り組まれました。熊本豪雨
の際はボランティアとして支援物
資を被災地に届けました。

巻 災害を経験するまでは、ファンやサポーター、スポンサーの皆さんに支援されて、サッカー選手もサッカークラブもプロとして成り立っていると思っていました。でも、災害が起こったときには「僕らも支えなきゃ」と。困難に直面し、「今まで支えてくれた人が困っているなら、今度は僕らが支える番だ」と思って立ち上がったんです。実際は僕らが励まされることも多く、活動を機に試合を見に来ってくれる方がいたりして、サッカーというスポーツは、支えるだけでも、支えられるだけでも駄目なんだと。互いに支え合いながら成長していくことが正しい道なのかなど感じました。

防災だけでなく減災を コミュニティづくりも鍵

——復興支援委員会では、大規模
災害における復興支援のほかに
「防災・減災（ナショナル・レジリ
エンス）」の全国的な普及・啓発も
主な活動に掲げられています。

巻 災害の規模が大きくなればなるほど、それを防ぐのが難しくなるんです。自然の力には勝てない部分がありますから。それでも、災害による被害を最小限に抑えること（減





現役時代、自身のコミュニティーを生かして地元・熊本の被災地の復興支援に尽力した

—だからこそ、啓発活動がより大事になりますね。

巻 そうです。支援活動を通して気づいたことは、災害が起こったときにどこに救いを求めて、誰に思いを共有するかといったら、その人の職場や趣味のコミュニティーであるということですね。

熊本地震で被災した人の話を聞いたとき、家が崩れてがれきに頭が挟まって数時間動けなかったという人がいました。災害が甚大でなかなか助けが来ない。そうしたときに、同じ趣味を持つ知り合いが連絡が取れないことを心配に思っ駆けて付けてくれて、それで助けてもらった。そういった趣味のコミュニティーのつながりから命が救われたという事例もあるんです。サッカーのコミュニティーもその一つですね。それを活用して、災害に関する情報を発信したり、新たにコミュニティーを構築していくことが大切だと思っています。

—委員長として復興支援委員会で推進していきたいことをお聞かせください。

巻 災害対策としては、防災・減災といわれる事前の知識の習得や正しい準備をすることが一つ、災害時の直接的な支援が一つ、そして、災害後の復興支援という三つのフェーズがあると思っています。サッカー界はこれまで、復興支援と呼ばれる三つのフェーズで取り組むことが多

かったと思います。しかし、JFAという大きな組織、サッカーというコミュニティーが力を発揮できるところは、「減災・防災」と「コミュニティーづくり」だと僕は思っています。われわれが最も影響を与えられるところじゃないかと。

いつ何が起ころうとも助けられる、支え合う仕組みはコミュニティーを構築しておけば、いざというときにすぐにアクションを起こせますし、復興への歩みを進めるときもさまざまなことが円滑になる。こうしたことを「できる」と確信を持って言えるのは、僕自身がこれまで経験してきたからです。僕が個人でできることは限られていました。しかし、全国には都道府県サッカー協会もありますから、JFAという組織であれば、できることはたくさんあります。

**サッカーの素晴らしさ
少しずつ前へ進む力を**

—熊本地震から約6年がたちます。復興に大切なことは何だと思われませんか。

巻 災害が起こったとき、被害が大きいかどうしているかわからなくなるんです。家が潰れた、職場がなくなったり、さまざまな状況があつて、どう立ち直っていけばいいのか分からなくなる。そのときに何をしたいかという、いろいろな人と思いを

共有したい、共感してもらいたいということが一つ。もう一つは、気持ちが悪く暗くなるので、僕は災害直後から、サッカーを通して子どもたちに向けたアプローチをしてきました。

サッカーって素晴らしいもので、暗く沈んでいる子どもでも、足元にボールを転がすと必ず蹴って返してくれるんです。ボールのコミュニケーションをしていると周りの子どもたちも輪に入ってきて、そこからサッカーが始まったり。そうすると、周りで見ている保護者や大人の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、子どもの笑顔を見て笑顔になります。そこで少しの勇気や前向きな気持ちをもたせよう。でも、夜になると現実に戻ってまた落ち込む。翌日にまたサッカーをして気持ちを晴らす。その繰り返しです。一気に前に進むなんてことはなくて、一歩ずつしか前に進まないんです。

でも、サッカーは毎日できる。毎日、子どもたちや周りの人を笑顔にできるんです。そうしているうちに、ある日やっと一歩を踏み出せて、そこから二歩、三歩と歩を進めていけるものだと思います。サッカーをしたから何かが変わるかという、大きくは変わりません。でも、少しずつ変わっていくるきっかけになる。そのときに僕は、サッカーは素晴らしいと感じました。僕らも、子どもたちが笑顔になってくれたらうれしいですし、この子たちをもう

一度笑顔にしたいと思う。ですから災害後も、僕は何度もいろいろな場所に足を運んで、大勢の人たちとコミュニケーションを取って支援を続けています。

—最後に、委員長からサッカーファミリーにメッセージをお願いします。

巻 自然災害は、どこで起きてもおかしくありません。では、いざ何かが起こったとき、皆さんは自分たちでアクションが取れますかということ、まずは問いかけた。同時に、少しでも災害に備えてほしいということ。今は人と人との関係が希薄になりがちな世の中ですが、サッカーを通して人と人がつながり合う大切さを、もう一度、見つめ直し、考えてほしいと思います。自分たちで強い絆を持つために、ぜひサッカーを活用してください。

「サッカーを通して子どもたちが笑顔になってくれたらうれしい」と巻委員長。子どもたちの笑顔には周りの大人たちを笑顔にする力がある



女子サッカー
応援プロジェクト

JFA Magical Field Inspired by Disney 発足



©Disney ©Disney/Pixar

新しい世界へ踏み出す一歩を応援

日本サッカー協会（JFA）とウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社のコンシューマ・プロダクツ部門が、女子サッカーの新たな応援プロジェクト「JFA Magical Field Inspired by Disney」を立ち上げた。サッカーを通じて、子どもから大人まで、全ての女性の「新しい世界へ踏み出す一歩」を応援するプロジェクトだ。

ディズニープリンセスと共に勇気ある一歩を

日本サッカー協会（JFA）とウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社は7月7日、高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）で共同発表会を開催し、女子サッカーの新しいプロジェクト「JFA Magical Field Inspired by Disney」を発足することを発表した。

発表会は二部制で行われ、第一部ではJFAの田嶋幸三会長とディズニーの井原多美コンシューマ・プロダクツバイスプレジデント&ゼネラルマネージャーが登場し、プロジェクト発足に至った経緯を説明した。

JFAは中期計画において「キッズ・4種年代」「女子」「シニア」の三つを重点領域に定め、フットボールの発展を目指している。今回のプロジェクトは、このうちの二つ、キッズ・4種年代と女子における取り組みとなる。

JFAは日本女子サッカーの発展のために制定した「なでしこビジョン」で、2030年までに女子の登録選手数を20万人にするという目標を掲げている。これは全体の登録選手数の20%に当たる数字となるが、田嶋会長は「（現状で）女子の登録選手数は全体の6%しかない」と課題を提示。そして、「より多くの方にサッカーを身近に感じてもらうためにディズニーという強力なパートナーと出会うことができた。全

ての女性にアプローチしていくために、ディズニーキャラクターとコラボレーションし、共に大きなプロジェクトをスタートさせると宣言した。

「JFA Magical Field Inspired by Disney」というプロジェクト名には、「誰もが勇気ある一歩を踏み出せるよう、このプロジェクトで皆さんに魔法をかけた」という願いが込められている。

具体的な取り組みとして、小学校低学年の女の子とその保護者向けのファミリーサッカーフェスティバル「First Touch」を全国各地で開催する。初年度は7会場で行う予定だ。

「ディズニーは、ストーリーの力で世界を動かすことができると信じている」と語る井原氏は、JFAと共にプロジェクトを発足する意義について、「スポーツや仲間づくりの楽しさ、新しいことに挑戦する勇気をストーリーの力で後押しすること」「スポーツを新しい形のエンターテインメント体験へと昇華させ、双方のブランド価値を高めること」「楽しい体験を提供する結果として、女子サッカーの普及を実現すること」の3点を挙げた。

プロジェクトを開始するにあたり、イメージキャラクターにディズニープリンセスを起用。「プリンセスたちは、勇気と優しさで困難を乗り越え、夢を実現している。本プロジェクトにふさわしいキャラクターたちだと思っています」と、井原氏はその魅



©Disney ©Disney/Pixar

力を強調した。

続いて、本プロジェクトのキャプテンに就任した元なでしこジャパン（日本女子代表）の澤穂希さんが登壇。澤さんは「私はサッカーを通じて、挑戦することの大切さ、第一歩を踏み出す勇気を学んだ。ディズニーと一緒に、これから何かをスタートさせる多くの女性を後押ししたい」と意気込みを述べた。フェスティバルに参加する子どもたちに対しては「初めてサッカーをするお子さんにもいると思うが、新しいことに挑戦することの楽しさを感じてほしい」とエールを送った。

挑戦する楽しさを多くの子どもたちに

第二部では、サッカー経験者でもある日向坂46の影山優佳さんがゲスト出演し、澤さんとトークセッションを行った。プロジェクトへの期待として、澤さんは「これから第一歩を踏み出す方たちを後押しできるプロジェクトであり、ディズニーの世界観が相まってサッカーがより魅力的に感じられると思う」と語り、影山さんは「多くの方がサッカーだけでなく、いろいろなことに挑戦す

JFA Magical Field Inspired by Disneyについて

たった一步で、世界は広がる。



新しい自分に、出会ってみたい。
 だったらまずは、あなただけの可能性を、
 思いっきり信じてみよう。

自分のペースで、いい。
 好きなやり方で、大丈夫。
 あなたらしく、夢中で楽しむうちに、
 仲間はきっと、増えていくから。

さあ、希望と勇気を力にかけて、
 はじめてのフィールドに、踏み出そう。

JFA ファミリーサッカーフェスティバル “First Touch”

小学校1～3年生のサッカー未経験者を対象とした、誰でも楽しめるサッカーフェスティバル。子どもと保護者（または引率者）のペアで参加するプログラムを全国で展開し、各会場1日2回実施する（1回あたり50組100名の参加を募集）。参加費用は無料。会場には、天然芝のピッチでサッカー教室に参加できる「プレーランド」に加え、場外にはプレーランド参加者以外も撮影可能なフォトスポットを設置。「プレーランド」で使用するカラーコーンやゴールにはオリジナルのデザインが施され、ディズニープリンセスの世界観の中で、新たな挑戦の一步を楽しく踏み出せるよう工夫されている。

このイベントのために作られた90分間のプログラムの多くは、ペアで取り組む内容で構成され、基本的な身体の動かし方やキックやシュートの練習、ミニゲームなどを通して、楽しくサッカーボールに触れることができる。

【開催概要】

名称 : JFA Magical Field Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル“First Touch”
 主催 : 公益財団法人日本サッカー協会、開催地都道府県サッカー協会
 共催 : ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
 主管 : 開催地都道府県サッカー協会
 対象 : 小学校1～3年生（サッカー初心者、未経験者）とその保護者
 開催日・場所 :
 7月16日（土） ヨドコウ桜スタジアム（大阪府）
 7月23日（土） Axis バードスタジアム（鳥取県）
 8月6日（土） トランスコスモススタジアム長崎（長崎県）
 9月10日（土） 高円宮記念 JFA 夢フィールド（千葉県）
 9月19日（月祝） 新青森県総合運動公園陸上競技場（青森県）
 11月27日（日） 石川県西部緑地公園陸上競技場（石川県）
 12月4日（日） サンガスタジアム by KYOCERA（京都府）
 その他 : 各会場イベント概要、参加申込などの情報は特設サイト参照

るきっかけになってほしい」と思いを寄せた。「新たな一步」として最近、挑戦していることを聞かれると、澤さんは、食生活アドバイザーの勉強を始めたとのこと。影山さんはクライズ番組への出演に備えてクライズの勉強を始めたことを明かした。

その後、「First Touch」に参加する子どもたちに贈られるユニフォームが発表されると、影山さんは、ディズニープリンセスが描かれたデザインに目を凝らし、「これを着れば誰もがディズニープリンセスになれると思う」と顔をほころばせた。

発表会当日は七夕ということもあり、二人が願い事をサッカーボールに書いて披露する一幕も。影山さんは「輝」と書き、「夢の輝き、夢を追う人の目の輝き、その人自身の輝き。このプロジェクトを通して、たくさんの方が自分の輝きを見つけてられますように」と願いを込めた。「夢」と書いた澤さんは、「プロジェクトのスタートが夢フィールドであること、子どもから大人まで、多くの女性たちに日常生活でもサッカーを楽しんでほしいという夢、そして、なでしこジャパンが再び世界一になるという夢を託した」と思いを語った。

参加者オリジナルプレゼント

各会場で開催されるフェスティバル参加者には下記サッカーキットをプレゼント

- オリジナルユニフォーム（デザイン6種類、ランダム配布）
- オリジナルサッカーボール（3号球/1種）

©Disney ©Disney/Pixar

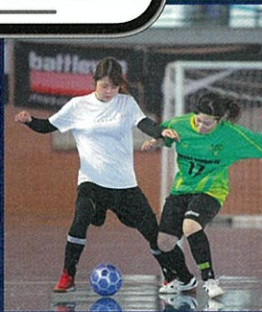
▶特設サイト
https://www.jfa.jp/grass_roots/MagicalField



初のファミリーサッカーフェスティバル“First Touch”が7月16日、大阪府で開催され、91組182名のファミリーが参加した。ディズニープリンセスの世界がいっぱいに広がる会場で親子でサッカーを楽しんだ

集まれ、サッカー

ファミリー1000万人。



JFA公式アプリ、先行配信スタート。

JFA Passport



JFA

先行配信

※今後、機能強化も予定しています。

JFA Passport

ここにしかない体験で、
サッカーがもっと楽しくなる、もっとうまくなる、もっと知りたくなる
だけれども、どこでも、いつまでも

あなたのサッカーへの関わり方に合わせて、
あなたに合った、ニュース、動画、お知らせ等を読覧できる、
JFAが提供するサービスを総合的に利用できるアプリ！



JFA Passport があれば、こんなサービスが使える！

POINT
1

楽しいコンテンツをまとめてチェック！

JFA公式サイトでのニュースやYouTubeチャンネルの動画の他、
定期配信される会員限定の動画・記事コンテンツを楽しめる！



POINT
2

あなたに合ったイベントや プログラムに参加！

全国で開催されている様々なイベント・フェスティバルに参加
でき、一定の課題をクリアした未就学児はスターキットを
ゲットできる！



POINT
3

お得なクーポンやプレゼントをゲット！

サッカー活動に役立つ会員限定のお得なクーポンを入手でき
る他、嬉しいプレゼントがもらえるキャンペーンに参加できる！



※本紙に記載されている内容は予告なく変更になる場合があります。最新内容はWebサイトをご確認ください。

▼ダウンロードはこちらから

QRコードからダウンロード

JFA
Passport



App Storeまたは
Google Playで検索

JFA Passport 検索

AppleおよびApp Storeロゴは米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
Google Play および Google Play ロゴは、Google LLC の商標です。

※通信量などはお客様のご負担となります。
問い合わせ先:公益財団法人日本サッカー協会 050-2018-1990(代表)

読者プレゼント

応募締切：2022年9月15日(木)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「adidas スポーツタオル(サイズ：70cm×140cm)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「タフな爪切り サッカー日本代表ver.」を1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/hUZe94KQQ2Qjn3Pa8>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会 広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2022年9月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予めご了承ください。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた葉書は返却いたしません。

【訂正とお詫び】

本誌2022年6月号(No.458)48ページの連載「いつも心にリスペクト」におきまして、右記の誤りがございました。読者および関係者の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに、右記の通り訂正させていただきます。

■P46 上から2段目・右から11行目

(正)日本で初めて女性で1級になったのは04年の大岩真由美さん、続いて09年の山岸佐知子さん、11年の梶山美沙子さんがいます。男子全国リーグ(アマチュア)のJFLなどで活動しました。山下主審は4人目でした。
(誤)日本で初めて女性で1級になったのは04年の大岩真由美さん、続いて09年の山岸佐知さんがいます。男子全国リーグ(アマチュア)のJFLで活動しました。山下主審は3人目でした。

公益財団法人日本サッカー協会機関誌

JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

日本サッカー協会(JFA)は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑制し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2022年9月情報号は、2022年9月16日発売予定

[特集]

審判員が育つ環境づくり

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

・チーム登録をされている購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA

公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインして

いただき、変更をお願いします。



KIRIN

さあ、

免疫ケアで 健康管理!

健康な人の免疫機能の維持をサポート
[プラズマ乳酸菌の研究報告]

IMUSE

プラズマ
乳酸菌
機能性表示食品



果汁1%

【届出表示】本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma)が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC (プラズマサイトイド樹状細胞) に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

免疫のひみつ スペシャルムービー

声優に花江夏樹さん、竹達彩奈さんら
を起用。「免疫のひみつ」について楽しく
学ぶことができます。

詳しくは
こちら!



キリンホールディングス株式会社
〈お客様相談室〉 ☎ 0120-770-502
受付時間10:00~16:00 (土日祝日除く)

IMUSE <https://www.imuse-p.jp/>
のんだあとはリサイクル。





定価600円(本体545円)



日本サッカー協会 百年史

予約販売開始

日本サッカー協会100年の歴史を集約!

過去をひも解き未来へつなぐ

日本サッカー協会(JFA)は2021年9月10日に創立100周年を迎えました。
『日本サッカー協会百年史』は、日本サッカーとJFAが歩んできた軌跡を
さまざまな教訓を含んだ記録として後世に伝えるとともに、
日本サッカーの存在価値と社会的役割を
多くの人々と共有することに主眼を置いて発行するものです。

【書籍概要】

発行：公益財団法人日本サッカー協会
発行目的：日本サッカーおよび日本サッカー協会の歴史をひも解き、
日本サッカーがスポーツと社会に果たしてきた役割、
その軌跡を後世に伝える。
収録対象：1873年～2021年3月末(2021年度事業)
収録内容：全6部構成、別途記録編・資料編を集録
第1部 日本サッカークロニクル 第2部 日本代表
第3部 全国大会 第4部 全国リーグ
第5部 世界とのつながり 第6部 組織の歩み(事業の変遷)
記録・資料編

冊子仕様：A4判オールカラー 上製本、700頁予定、箱入り
予約販売価格：22,000円(税込/送料込)
発送予定：2022年12月以降、順次発送(予定)
※予約販売による配本後、残数が生じた場合にJFA STOREで
一般販売(価格25,000円/税込・送料込)を行う予定

予約申込期限
2022年
9月30日(金)
まで

●購入フォーム(オンライン申し込みのみ)
URL: https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry



公益財団法人日本サッカー協会

